

中国人民志願軍編『常用朝鮮語言手冊』と

その成立背景

熊 谷 明 泰

はじめに

本稿は、米国国立公文書館（National Archives and Records Administration, NARA）所蔵の小冊子「常用朝鮮語言手冊」を、若干の解説をして紹介し、あわせて、この小冊子の成立背景について考察を加えようとするものである。中国語「手冊」は、「ハンドブック、便覧、マニュアル、手帳」という意味であるので、この小冊子は「常用朝鮮語の手引き」と日本語訳してもよいだろう。

本小冊子は、1997年夏、筆者が新潟県から研究助成金を得て、アメリカ、イギリス、ドイツでの1か月にわたる資料調査を行った際、米国国立公文書館で複写して持ち帰ったものである。

表紙に朱色のインクで印刷された本小冊子タイトルの右肩には、「(注意保存)」と印刷されている。タイトルの左下には「志願軍29部 1952年印」と印刷され、朝鮮戦争に参戦した中国人民志願軍が、1952年に印刷刊行した小冊子であることがわかる。「志願軍29部」がどのような部隊であったのか、筆者は知らない。この小冊子は、「抗米援朝、保家衛國」（アメリカに抗して朝鮮を支援し、家を保ち、国を守ろう）のスローガンのもと、朝鮮半島で従軍した朝鮮語が話せない中国人民志願軍の将兵のために作られた、軍事用中国語・朝鮮語対訳会話・語彙集である。休戦協定成立（1953年7月27日）後も軍事的緊張関係が持続していたため、また、北朝鮮の戦後経

済復興を支援するため、中国人民志願軍の全面的撤退は1958年2月以後におこなわれた。したがって、本小冊子は休戦後も志願軍将兵に利用された可能性も否めない。なお、中国人民志願軍の撤退後、まるでその空白を埋めるかのように、1959年12月から在日朝鮮人が新潟港から北朝鮮に帰還し、その労働力、技術、物資、資金はほとんど見返りのない犠牲的な形で北朝鮮社会に注がれた。1961年末までの帰還者数は74,779人に至ったが、帰還者たちの予想外の厳しい生活状況を伝え聞いたこともあるて、1962年度からは急減した。総帰還者数は93,340人（うち、日本人妻など日本国籍保有者は6,839人）であるが、そのほぼ全ての人々は一時出国も許されず、再び日本の地を踏むことができないままである。

ところで、中国や韓国のインターネットサイトで検索してみても、本小冊子は全くヒットせず、今日ではほとんどその存在が忘れ去られた状態にあるものと思われる。

朝鮮戦争中、北緯38度線を越えて北上した米軍が朝鮮半島で鹵獲した大量の文書類である *Captured North Korean Documents* (米軍鹵獲北朝鮮文書) は、米国国立公文書館のメリーランド分館に所蔵されている。朝鮮民主主義人民共和国政府庁舎、朝鮮労働党本部、さらには、駐平壤ロシア大使館などから大量に鹵獲されたこの文書類には、行政文書、軍事文書、新聞、雑誌、書籍などのほかに、朝鮮人民軍兵士の手紙、個人履歴書なども含まれており、朝鮮戦争遂行に資する情報分析のために、米軍によって手当たり次第に鹵獲され、米国本土に持ち去られたものである。

国立公文書館の灰色のボックスには、朝鮮戦争の戦場で鹵獲された、さまざまな文書が収められている。手紙やはがきは、薄汚れた綿の細紐で雑然と束ねられている。「何度もはがきを書いたが、お前からは返事がない。腹が減ったら食べたいものを買って食べろ。金は送ってやる」と父親が出征した息子に書き送ったはがきもある。なぜこの葉書がアメリカにあるのか、ともかくも息子の手には届かなかったようだ。1949年12月30日に朝鮮語文研究会が刊行した『朝鮮語文法』や、朝鮮文字で「朴憲永同志へ」と

中国人民志願軍編「常用朝鮮語言手冊」とその成立背景

表紙にペン書きされた雑誌も保管されている。200枚か300枚かの「幹部履歴書」の分厚い束をほどいてみると、各自がこの世に生を享けてから今までのことを、細い行に合わせて小さな朝鮮文字で綴ってある。朝鮮人民軍志願書はタイプ印刷された用紙、臘写版印刷された用紙、更にはすべて乱雑に手書きされたものまである。ハンコを持ち合わせていなかったのか、押印を押したものもある。緊迫した状況だったとはいえ、こんなに性急な手続きで、死ぬかもしれない戦場に赴いた人々の心情は、察するに余りある。「もっと丁寧に扱え！」と何度も職員から注意を受けたが、カレンダーとにらめっこしながら、焦る気持ちを抑えつつ、1,300余りのボックスを開けていくうちに、筆者はこの小冊子『常用朝鮮語言手冊』を目にした。

これらの文書は1977年に機密指定が解除され、今では誰でも制限なく閲覧・複写が認められている。本小冊子の分類番号は、「SA (Shipping Advices) 2013、Box 2、Item 144」である。また、私がメモしたところでは、Boxの通しナンバーは1247のはずである。

本小冊子は46頁からなり、縦125mm×横95mmのサイズである。原本は縦書き2段組みで、上段には中国語の実用会話フレーズや単語が、漢字で表記されている。

下段は2行組となっており、右側の行には上段の中国語の対訳としての朝鮮語が、注音字母を用いて転写されており、左側の行には、朝鮮語のそれぞれの音節の音と類似した中国漢字音を持つ漢字を利用した直音方式によって、朝鮮語訳が示されている。つまり、これらの漢字を中国語漢字音で発音すれば、上段の中国語に対応する対訳朝鮮語が話せるようになっていて。なお、朝鮮文字（ハングル）は一切用いられていない。

「直音」とは、本来、読みにくい漢字の音を説明するために、それと同音の比較的読みやすい漢字を用いて示す注音方式だが、本小冊子では朝鮮語音を示すために、それと類似の音を持つ漢字を用いて音声転写がなされている。

本稿Ⅲにおいて、本小冊子が注音字母を用いて記述された歴史的背景と

して、冗長になった感が拭えないが、主に「ラテン化新文字」運動に焦点を当てて考察を行った。

本稿では、原本の縦書きを横書きに換えて紹介した。このため、母音 /i/ を表す注音字母「一」は、横書き用の字体「丨」に書き換えた。

なお、当時、このほかにも類書が作成されており、「軍用朝鮮語手冊」（中国人民志願軍第66軍政治部敵工科編印、1952年6月25日）の場合、中国語の会話文に添えられた対訳朝鮮語については、たとえば、次のように朝鮮文字による表記と、漢字を用いた直音方式による音声転写がなされているが、注音字母は用いられていない。

「我們是中国人民志願軍　우리는 중국인민지원군 五里恩、中古因民基文滚。」

本小冊子で朝鮮語音を転写するために用いられた注音字母は、以下の一覧に示したようにIPAに準じて転写した。なお、以下の一覧の（ ）内の漢字は、注音字母が示す音を持つ漢字を例示したものである。

ㄻ p (坡)	ㄻ pʰ (坡)	ㄇ m (摸)	ㄻ f (佛)	ㄻ t (德)	ㄻ tʰ (特)
ㄻ n (訥)	ㄻ l (勒)	ㄻ k (格)	ㄻ kʰ (克)	ㄻ x (嚇)	ㄻ tc (基)
ㄻ tcʰ (欺)	ㄻ c (希)	ㄓ ts (知)	ㄻ tsʰ (痴)	ㄻ s (诗)	ㄻ z (日)
ㄻ ts (资)	ㄻ tsʰ (此)	ㄻ s (私)			
ㄚ a (啊)	ㄛ o (喔)	ㄻ ㄚ (蛾)	ㄻ ε (诶)	ㄻ ai (哀)	ㄻ ei (欸)
ㄻ au (熬)	ㄡ ㄡ (欧)	ㄻ an (安)	ㄻ ən (恩)	ㄻ aŋ (昂)	
ㄻ ɤŋ (「哼」の末音)	ㄻ ə (儿)	ㄧ i (衣)	ㄨ u (鸟)	ㄻ y (迂)	

朝鮮語音を転写するために直音方式で用いられた漢字の音は、現行「漢語ピンイン（拼音、発音表記）方案」に準じて示した。このため、有気／無気の対立は、IPAではkʰ/k、tʰ/t、pʰ/p、現行「漢語ピンイン方案」ではk/g、t/d、p/bと表記される、ややまぎらわしい結果となった。

上掲の注音字母一覧にある「ル α 」は、非円唇中舌半狭母音 [ə] のあとにR音性をともなった音を示しており、「さ γ 」は、非円唇後舌半狭母音を示している。

注音字母による転写と、漢字を用いた直音方式による転写の2通りの音声転写によって示された朝鮮語音を朝鮮文字（ハングル）に置き換えるにあたっては、本小冊子の編者が意図していたと思われる朝鮮語の語形態や分かち書き法にしたがった。

なお、本稿において、この小冊子の全文を紹介・分析するにあたり、原文の部分はすべてゴチック体で示した。また、考察上の便宜のために、実用会話フレーズや単語には1から325までの通し番号を付した。

本稿において、中国語に対応する対訳朝鮮語の音声転写や、使用された語彙の特徴等に対して分析を加えたが、それらは*印のもとに記載した。

I. 本小冊子の言語上の特徴

I-1. 朝鮮語の音声転写上の特徴

注音字母、及び直音方式によって漢字を用いた朝鮮語音の転写においては、朝鮮語と中国語の音韻体系の相違などから、次のような特徴がみられる。

1. 形態主義原則によって表記された朝鮮語において、閉音節の音節末子音は後続する音節頭音の母音と結合して音節を形成する。これを連音化現象と呼ぶが、本小冊子では、多くの場合、この連音化現象が生じた状態の音節音が転写されている。
2. 有声／無声の音素対立は朝鮮語にも北京語にも存在しない。ただし、朝鮮語では有聲音の後に無声音 /p, t, k, ㅌ/ が続く場合、これらは有声音化して [b, d, g, ㄱ] と発音される。しかし、これらはそれぞれが独立した音素ではなく、異音の関係にあるので、音素文字である朝鮮文字はこれら有声／無声を区別して表記しえない。そのためなのか、

あるいは、中国語にも有声／無声の音素対立が存しないことが影響したためか、本小冊子では注音字母、漢字による直音転写とともに、有声／無声の区別が音声転写に反映されていない。

3. 音節末に立ちうる子音は朝鮮語では7子音（/p、t、k、n、m、ŋ、l/）北京語では2子音（/n、ŋ/）である。このため、注音字母や中国漢字音を利用しておこなわれた朝鮮語の音声転写においては、以下に示すように不十分な側面がみられる。

- (1) 音節末子音 /p/ は、124のように「(ヶ)」、「(布)」を用いて音声転写がなされている。
- (2) 13の「있다 [it-t'a]」が「一 勅乍」[i ta]、「衣達」[yi dá]と転写されているように、音節末子音 [t] が音声転写に反映されていない。また、10の「一ム(ム) 三一 𠂊乍」[i sm ni ka]、「衣斯(姆)尼嘎」[yi sim ni gā] のように、「있습니까 [it-sum-ni-k'a]」の音節末子音 [t] が音声転写に反映されていない場合があるが、朝鮮語では [s] 音の前に立つ音節末子音 [t] は、発音されないのが普通であり、したがってこれは現実発音が転写されたものと見ることもできる。
- (3) 音節末子音 /k/ は、125の「创建工作」(事務机)に対して、注音字母「(ヶ)」[k] を用いて「くわせ(ヶ) 𠮩」[tɕʰiekk səŋ] と音声転写がなされたり、直音転写のための漢字「(克)」を用いて「切(克)賞」[qiēk shǎng] と音声転写がなされたりしている。しかし、子音 /k/ が連続した8の「식구」[sik-k'u] (家族) のような場合は、音節末の /k/ が音声転写に反映されず、「十一 𠂊メ」[ci ku]、「吸咗」[xi gū] となっており、また、6の「중국」[tʃʰun-guk] (中国) や29の「미국」[mi-guk] (米国) などの固有名詞で、現代北京語では語末の [k] が発音されなくなった語の場合でも、この音節末の [k] 音は音声転写に反映されていないよう、音節末子音 /k/ の音声転写には混乱がみられる。
- (4) 音節末子音 /n/ は、たとえば6にみられるように、는 [nuŋ] は

「ㄉㄣ」[nən]・「嫩」[nèn]、인 [in] は「一ㄣ」[iən]・「引」[yīn]・
군 [kun] は「ㄍㄨㄣ」[kuən]・「滾」[gǔn] と転写され、注音字母
ではㄣを用い、直音転写では音節末子音が [n] 音の漢字のなかから、
転写すべき朝鮮語の音節音に近い音の漢字を選んで用いられている。
これは、北京語でも /n/ 音が音節末に立ちうるからである。
また、26の「분자」[pun-t̥sa]（分子）に対して、「ㄔㄨㄥ(ㄣ)ㄓㄚ」
[pun t̥sa] や「不(恩) 渹」[bùn zhā] のように括弧で囲んだ注音字母
「(ㄣ)」や直音転写のための漢字「(恩)」を用いて、音節末子音
[n] を音声転写する方法も用いられている。

(5) 音節末子音 /m/ は、1 のように括弧で囲んだ「(ㄇ)」や「(姆)」
を用いて音声転写に反映されている。この場合、反切法のような音
声転写法がとられている。また、57の가파眚니까 [ka-pʰa-rwum-ni-k'a]
のように [m] 音で転写されるべきところが誤って「嘎怕倫尼嘎」
[gā pà lún ní gā] のように [n] 音で転写された場合が見られる。

一方、31の있습니까 [i-s'um-ni-k'a] にみられるように、[p] が
逆行鼻音同化して [m] 音になる場合、同化が起こる前の [p] を
「(ㄔ)」や「(布)」を用いて「ㄧ ㄈㄨㄥ(ㄔ) ㄉㄧ ㄍㄚ」[i sp ni ka]、
「衣斯(布) 尼嘎」[yī sīb ní gā] のように転写されているケースが
若干みられるなど、やや混乱している。

(6) 音節末子音 /ŋ/ は、2 の「安寧」[ān níng] のように音声転写に
反映されている。これは北京語でも音節末に子音 /ŋ/ が立ちうるた
めである。

(7) 音節末子音の舌側音 [l] は、2 の「ㄏㄚㄥ(ㄦ) ㄇㄛㄉㄧ」[xar mo ni]、
「哈(兒) 摸尼」[hār mō ni] のように注音字母の「(ㄦ)」や
漢字の「(兒)」を用いて、その [ə] 音が持つR音性を利用して音
声転写に反映されている。北京語には音節末に子音 /l/ が立たない
ためである。また、たとえば75の注音字母「ㄕㄨㄥㄦ」[tʂuvŋ ə]・
「ㄞㄚㄥ(ㄦ)」[ʂaaə]、直音表示の「铳兒」[Chòng ér]・「殺(兒)」

[sar] のように、「ル」と括弧で囲んだ「(ル)」、および「兒」と括弧で囲んだ「(兒)」を使い分けて音声表示が行われている。

4. 音節頭音の [r] は北京語にはないため、[l] 音を表す注音字母の「ㄌ」、漢字の「拉」で転写されている。
5. 朝鮮語で歯茎弾き音 [r] 音と舌側音 [l] 音が連続する場合、もしくは [l] 音と [r] 音が連続する場合、いずれも [l] 音と [l] 音の連続に変化して発音される。この場合、[r] 音と [l] 音の連続、もしくは [l] 音1つだけで転写されている。蘭曉霞（2012：61）によれば、例えば *辱려요* [ʃol-ljɔ̆-jo] であれば、朝鮮語を学ぶ中国語北方方言話者は誤って *조려요* [ʃo-ljɔ̆-jo] と発音する傾向を見せるという。
6. 朝鮮語では音節末子音きのあとに音節頭音 [k, t, tʃ] が続く場合、及び音節末子音 [p, t, k, tʃ] のあとに *ㅎ/h* 音が続く場合、激音化（有氣音化）現象を示し、それぞれ有氣音 [pʰ, tʰ, kʰ, tʃʰ] を形成する。この音韻現象は音声転写に反映されている。しかし、北京語にも有氣/無気の音素対立が存在するにもかかわらず、180の *수류탄* [su-rju-tʰan]（手榴弾）の有氣音 *ㅌ/tʰ* は無氣音 [t] で発音される漢字「弾」([(ピンインで) dàn、(IPAでは) tàn]）を用いて音声転写がなされたり、*방공굴* [paŋ-gon-gul]（防空壕）の無氣音 *ㅂ/p* が有氣音 [pʰ] で発音される「旁」[(ピンインで) páng、(IPAでは) pʰang] を用いて音声転写がなされていたりして、有氣と無気の対立が音声転写に正しく反映されていない場合も、若干見られる。
7. 朝鮮語の濁音（声門閉鎖音 /k'、t'、p'、s'、tʃ'/）は北京語には音素として存在しないため、平音 (/k, t, p, s, tʃ/) で音声転写がなされている。ちなみに、梅田（1993：132、135）は、咸鏡道方言における濁音の発音は、「聴覚印象的にソウル方言などのそれにくらべて緊張性と持続時間が弱く短い傾向が認められる」し、「ソウル方言などに比べて *tense* 性がやや弱い感じがある」としている。また、咸鏡道方言と音韻面で類似を示す東南方言（慶尚道方言）の一部下位方言では

入 /s/ と丛 /s'/ の音素対立がなく、これらの方言を維持する話者は、たとえば鬯 [s'al] を 살 [sal] と発音する。しかし、延辺地域の朝鮮語では入 /s/ と丛 /s'/ の音素対立が存在し、機能している。

8. 朝鮮語歯茎音入 /s/ は、사、세、수、스、丛以外は、そり舌音 [š] で音声転写がなされている。北京語の音節には [sa]、[su] がある。ところが、たとえば산 (山) は、54では「戸ヲ」[šan]・山 [šan]、201では「ムヲ」[san]・「三」[san] と転写され、また、수 [su] (すべ) は、27では戸メ [šu]・數 [shǔ]、65ではムメ [su]・素 [sù] と転写されているように、朝鮮語入 /s/ 音を含む音節사 [sa] と 수 [su] についても、音声転写法が一定していない。朝鮮語歯茎音入 /s/ はス、수、세はそれぞれ [sw, su, se] のように [s] 音で転写され、세のほとんど、および사の多くも [s] 音で転写されているが、사の一部 (78、201、310)、서、소、수、스の一部 (24、103、104、106、111、112、113、295) はそり舌音 [š] で転写されている。また、시、쉬、および세の一部 (72、73) は口蓋音 [č] で転写されている。7の「姓」と23の「名字」はともに對訳朝鮮語を「성명」[sɔŋ-mjɔŋ] (姓名) とし、その入 /s/ 音をそり舌音 [š] で転写している。この場合、残存していた半母音 [j] が脱落して单母音化する以前の古形「성명」[ʃɔŋ-mjɔŋ] を転写しようとした可能性も捨て切れない。また、3の [sv] と転写された-서 (語尾の一つ) の古形は서 [ʃɔ], 14の [sv šu] と転写された세수 (洗手) の古形は세슈 [se ſju], 11の [ka tʃauk] と転写された가季の古形は가季 [ka dʒok] であり、本小冊子は朝鮮文字による表記がないために判断しがたいことだが、これらが单母音化する前の語形態を [š] を用いて反映していた可能性は捨て切れない。
9. 朝鮮語口蓋音 [f]、[fʰ]、/f'/ が、それぞれそり舌音 [tš]、[tšʰ]、[tʃ] で音声転写されている。
10. 鼻音に後続するㄹ /r/ を鼻音化させない発音法が反映されている。たとえば、146の신작로 [ʃin-d̥an-no] は、本小冊子では「丁一ヶ 売尤

ㄉ㄂」[ciən tʂəŋ lau]、「新張勞」[xīn zhāng láo] のように、従来 [r] 音が鼻音化して発音される [n] が已 [r] 音のまま音声転写がなされている。

11. 母音 ㄦ /e/ と ㄩ /ɛ/ の音素対立は音声転写に反映されていない。たとえば、ㄦは [ai] や [ei] で転写され、ㄩは [aɪ] や [eɪ] や [ie] (125の책상) で転写されるなど、転写法が一定しない。そして、83の만세（万歳）は「ㄇㄻ ㄈㄕ」[man saɪ]、「満塞」[mǎn sài] のように、ㄦ [e] が [aɪ] を示すㄨ [aɪ]、塞 [sài] で転写される一方、57 の고개（峠）も「ㄍㄸ ㄍㄕ」[kau kai]、「搞蓋」[Gǎo gài] のようにて、ㄩ [ɛ] も「ㄕ」[aɪ]、「蓋」[gài] を用いて転写されている。これと同様に、209の은폐（隠蔽）のㄦは「ㄦへ」[pʰeɪ]、「呸」[pēi] を用いて [eɪ] で転写され、158の산고개（峰）のㄩは「ㄍへ」[keɪ]、給 [gɛɪ] を用い、ともに [eɪ] で転写されている。この現象は、北京語音では [e] は [ɛ] の間で弁別性が存しないため、転写が困難であることとともに、当時、本小冊子の編者が話していた朝鮮語で、すでに母音 ㄦ [e] と ㄩ [ɛ] の中和が相当に進展していたことを反映したものと見ることができる。
12. 92の 할아버지を [xa la po tɕi]、93の아버지 to [a po tɕi]、94の할머니を [xar mo ni]、95の어머니を [y mo ni]、96の아주머니を [a tʂy mo ni]、111の먹-(먹다の語幹) を [mok]、107의 나쁘-(나쁘다の語幹) を [na pu] と音声転写されているように、一部の語では非円唇母音ㅓ [ə] もしくはㅏ [ə] が円唇母音 [o] や [u] で発音転写されている。これは規範的発音とは異なる現実音を反映させた結果で、両唇音ㅁ/m/、ㅂ/p/、ㅍ/pʰ/ のあとに非円唇母音ㅓ [ə] や平唇母音ㅡ [ɯ] もしくはㅓ [ə] が円唇母音化してㅓ [o] やㅡ [u] と発音される現象を示すものである。同様の例は、7、27、34、50、67にもみられる。
13. 母音ㅓ [ə] もしくはㅏ [ə] は、基本的には「さ」[v] を用いて音声転写がなされている。ただし、20の건 [kən] は「ㄍㄣ」[kən]、176の번

- [bɔn] は「ヶㄣ」[pən] と音声転写がなされ、47のㄦ [ɔl] は「ル」[ə] を用いているように、[ə] で音声表示がなされ、一定していない。
14. 母音一 [i もしくは w] は、基本的に「ㄦ」[v]、「ㄣ」[ən] の [ə]、および「ル」[ə (ər)] の [ə] を用いた2通りの音声転写がなされている。たとえば、20の「는」[nun] では「ろム」[nvŋ]、直音転写の漢字「能」[néng] を用いたり、9の「는」[nun] では、「ろㄣ」[nən]、直音転写の漢字「嫩」[nèn] を用いたりしている。朝鮮語母音「ㅓ」[ə もしくは ㅓ] と朝鮮語母音「ㅡ」のいずれも、同じように [v] や [ə] を用いて音声転写されていることから、編者が話していた朝鮮語では、母音「ㅓ」と「ㅡ」の間の弁別性が弱まっていたことがうかがわれる。また、15の-습니다 [swm-ni-da] (丁寧体の終結語尾の一つ) の場合、「ム(ㅁ) ろー ケタ」[sm ni ta] と転写され、注音字母では例外なく朝鮮語の弱母音である一 [i もしくは w] は音声転写に反映されていない。
15. 漢字による直音転写で示された朝鮮語音には、これを話すときにポーズ（休止）が挿入される部分を表示するために、中黒（・）が挿入されている。この中黒が挿入された位置は、そのほとんどが朝鮮文字での表記で分かち書きされる部分と一致するが、たとえば、分かち書きされるべき43の「저 길은」を直音転写した「折給（兒）樂（恩）」で中黒が挿入されていないように、朝鮮語分かち書き法と一致しないケースも若干みられる。
16. 直音転写で用いられた漢字の選択は統一性に欠けており、例えば早巳に対して、24では「某甚」[mōu shèn]、52では「暮甚」[mù shèn]、54では「木甚」[mù shèn]、61では「暮斯（恩）」[mù sīn] のように、それぞれ異なった漢字が用いられている。

I-2. 語彙面での特徴

「常用朝鮮語言手冊」には、以下のような語彙的特徴がみられる。

1. 咸鏡道方言や慶尚道方言、平安道方言などで用いられる以下のよ
うな方言語彙がみられる。この小冊子の編者は不明であるが、中国
に渡った朝鮮人たちの中にはこれらの方言話者が多数いたことが影
響しているものと思われる。そして、다서·다스(五)、야돐·야
덜·야들(八)、성양(マッチ)のような咸鏡道方言に特有な語形が
記載されていることから、編者は咸鏡道方言話者ではなかつたかと
思われる。

(例) 놋다(安い、65)、성양(マッチ、115)、모다구(釘、130)、
도꾸(おの、135)、닭([tal]と発音、232)、서이(みつ、286)、
너이(よつ、287)、다서 시·다써 시·다스 시·다쓰 시(5
時、266·288)、다서·다써·다스·다쓰(いつつ、288)、여서
시·여스 시·여쓰 시(6時、267·289)、여스·여쓰·여서(む
つつ、289)、야닮·야덜·야들(やつ、269·291)、어는(ど
の、31)、다리다(連れる、35·39)、어데(どこに、26·36·37·
60·78)、나뿌다(悪い、107)、광이(つるはし、205)、대지고기
(豚肉、234)、叟(いくつの、8·9·274)、야든(八十、301)、
요기(ここ、3·24·34·38·59·61)、머시(何、23)、벤소(便
所、36、127)、나무지(残り、67)、어나(どちらの、41)、나뿌
다(悪い、107)、밥죽·밥竽(しゃもじ、128)、멘([末端行政区
画の]面、142)、비행기(飛行機、29·188)、소금(塩、216)、
마늘(ニンニク、222)、낙화성(落花生、237) 모밀(ソバ、244)、
대(升、253)、일고(ななつ、290)、수물(二十、295)

金永寿(2012:19)は、今日、「朝鮮民主主義人民共和国で文化語(1966
年以後、「標準語」を言い替えて用いられている用語。-引用者注)に収録
された方言語彙は、中国朝鮮語においても、それらの大部分が標準語彙と
して受け入れられた。このため、中国朝鮮語では方言語彙から標準語彙に
引き上げられたものの占める比率がとても高く、それらの方言語彙は咸鏡
道方言の語彙を主としている。」と指摘している。中国朝鮮族の最大集住地

域である延辺朝鮮族自治州の朝鮮族は咸鏡道出身者が多数を占めていることから、朝鮮民主主義人民共和国において標準語彙として引き上げられた咸鏡道方言語彙を中国朝鮮語でも標準語彙に引き上げることは、抵抗感を抱くことなく進められて、今日に至っているとみられる。

中国朝鮮族が自らの獨創的な朝鮮語綴字法、発音法などの言語規範を確立するのは、中国における改革開放以後のことだった。また、朝鮮民主主義人民共和国で編纂された朝鮮語辞典が用い続けられたために、おのずから語彙規範もこれに準じたものとなり、方言語彙の標準語への編入も朝鮮民主主義人民共和国と類似した様相を示してきた。

2. 以下のような軍事用語に於いて、韓国とは異なる語形の語句が用いられている。

(例) 전호 (塹壕、184)、포치까 (トーチカ、185)、칼빈총 (カービン銃、177) 방공굴 (防空壕、186)、탱크 (タンク、190)、총을 바친다 (銃を差し出す・銃を渡す、74、75)、군무자 (現役軍人、11)

3. 以下の語のような綴字法上の韓国との相違がみられる。

(例) 은폐 (隠蔽、209)、쓰랄린 (スターリン、91)

4. 漢字語の頭音法則が適応されない例がみられる。

(例) 리인민위원회 (里人民委員会、33)、리 (里、143)

5. 新造語통조림 (缶詰) に語彙純化される前の日本語からの音借語「カンヅメ」が用いられている。

(例) 간즈메 (缶詰、117)

6. 中国語「白菜 báicài」の音借語と思われる바이차이、および「榮光 róngguāng」の音借語룽꽝が記載されている。

I - 3. 中国人民解放軍「三大紀律・八項注意」の反映

1946年から始まった国共内戦時、林彪を総司令とする中国人民解放軍の精銳部隊であった第4野戰軍だけで10万人から15万人の朝鮮人兵士が戦闘

に加わっていたという。これらの朝鮮人将兵の多くは、1948年2月から北朝鮮に帰国をはじめ、朝鮮人民軍の主力部隊を順次構成していった。朝鮮戦争が始まる1950年6月の時点では、朝鮮人民軍の総兵力のうち、4万人から5万人が中国での国共内戦において中国共産党の指導のもとで、中国人民解放軍に参加して戦った経験を持つ将兵たちだったという。また、朝鮮人民軍将校の80パーセント以上が、中国共産党の指導のもとで国共内戦時に中国での戦闘に参加した経歴を持っていたといわれ、中国人民解放軍の軍事戦術や軍隊紀律になじんだ将兵たちだとみられる¹。また、朝鮮戦争に参戦した中国人民志願軍（中国と米国との間の国際戦争という性格を形式的にでも回避させるために、正規軍ではない「志願軍」を名乗ったが、実態は中国人民解放軍）の中にも、朝鮮人兵士が約2万人いた²。このほか、1951年1月には延辺地域から500人の朝鮮族女性が短期の看護士訓練を受けた後、朝鮮戦争に参戦するなど、朝鮮戦争期間中に5,740人が看護士、通訳、自動車運転手、運搬係などとして朝鮮戦争に参加したという³。李海燕（2009）によれば、国共内戦時に中国人民解放軍に入隊した朝鮮族兵士は、死者および日本軍出身者など、経歴に問題があるとされる人たちを除けば、ほとんど朝鮮戦争の戦場に送られたという⁴。また、朝鮮人民軍第5師団、第6師団、第7師団の兵員の大多数は中国から引き渡された朝鮮人兵士によって構成され、第1師団と第2師団のそれぞれ1連隊もこれらの兵士によって編成されており、これらの兵士が朝鮮人民軍歩兵部隊総兵力の3分の1を占めていたという。正確な兵員数はわからないが、ともかくも中国から朝鮮に戻った多数の兵士が朝鮮人民軍に編入されたことだけは確かである⁵。また北朝鮮では、植民地時代に日本軍に属していた軍人や警察官など

1 ブルース・カミングス『朝鮮戦争の起源2』、明石書店、2012年、375頁～381頁

2 李海燕『戦後の「満州」と朝鮮人社会』、お茶の水書房、2009年、172頁

3 延辺朝鮮族自治州地方誌編纂委員会編『延辺朝鮮族自治州志 上巻』、中华书局（中国）、1996年、61頁

4 前掲『戦後の「満州」と朝鮮人社会』、163頁、165頁

5 平松茂雄『中国と朝鮮戦争』、勁草書房、1988年、37頁

を排斥して軍事・治安体制を固めていた。

中国共産党の軍隊は国共内戦や抗日戦争において、農民ら人民大衆の支持を不可欠としていた。後に中国人民志願軍の最高司令官を務めた彭徳懐は、このことに関連して、長征後の革命根拠地でアメリカ人ジャーナリストのアグネス・スメドレー (Agnes Smedley、1892-1950) に次のように語っている。

「僕たちに力をあたえてくれるのは、大衆なんですよ。僕たちは大衆の利益を代表し、僕たちの一切の人力を大衆からひきだしているんです。人民は正直で、まっすぐですから、もし僕たちが彼らを抑圧したりすれば、僕たちを根だやしにすることだってできたわけです。僕たちは、この地方では新参です。ある者は、ここへきてからまだ2週間とはたっていません。それなのに僕は、あなたがどこへでも好きなところにでかけて、人民に僕たちのことをきいて下さるようにすすめます。あなたは、紅軍の兵士が人民の家で、まるで息子のようにくらしているのをごらんになるでしょう。紅軍の戦士たちは、みんな大衆のなかからでてきたものですから、自分たちが人民の保護者であり、案内者であるということを自覚しています。」⁶

事実、紅軍の兵士たちの多くが、学校教育を受けたこともない、食うや食わずの貧農出身の青少年たちであった。それだけに、政治思想教育を通じて人民解放の兵士としての資質を高めさせ、中国労農紅軍の兵士は厳しい紀律のもとに行動していたという。それは「三大紀律・八項注意」としてまとめられ、中国人民解放軍に引き継がれて、国共内戦がたたかわれた。以下はその全文である。

6 アグネス・スメドレー『中国の歌ごえ』、みすず書房、1957年、143頁

三大紀律

1. 一切、指揮に従って行動せよ（一切行動聽指揮）
2. 民衆のものは針1本、糸1筋も盗るな（不拿群衆一針一線）
3. 獲得したものはすべて中央に提出せよ（一切繳獲要歸公）

八項注意

1. 話し方は丁寧に（説話和氣）
2. 売買は公平に（買賣公平）
3. 借りたものは返せ（借東西要還）
4. 壊したものは弁償しろ（損壞東西要賠償）
5. 人を殴るな罵るな（不打人罵人）
6. 民衆の家や畠を荒らすな（不損壞莊稼）
7. 婦女をからかうな（不調戲婦女）
8. 捕虜を虐待するな（不虐待俘虜）

この「三大紀律・八項注意」をなぞるかのように、本小冊子のなかでも、以下のような会話文の形で反映されている。

三大紀律 – 2. 물건이 없어졌는지 찾아보시오. [物がなくなっているかどうか調べてみてください。] (20. 您家少了東西嗎？請查一下。)

八項注意 – 3. 나무 좀 빌려주면 좀 있다 갚겠습니다. [薪をちょっと貸してくださったら、すこしあとでお返しします。] (13. 借些柴，以後還您。)

八項注意 – 4. 물건이 끗쓰게 됐으니 얼마 받겠습니까？ [物が壊されました。私たちはあなたに賠償しますが、幾ら要りますか。] (21. 這東西搞壞了，我們賠償你，你要多少錢？)

八項注意 – 8. 우리는 포로를 우대한다. [我々は捕虜を大切に扱う。] (70. 我們優待俘虜。)

文体の面で注目すべき点は、朝鮮民衆に語りかける会話文が上称形語尾（할소체、-ㅂ니다/-습니다）や中称形語尾（하오체、-오/-소）を用いた丁寧形の文体で書かれていることである。「話し方は丁寧に」（八項注意-1）という紀律を守ろうとしている姿勢がうかがわれる。なお、中国朝鮮族の朝鮮語の特徴を反映して、丁寧形の文体を構成する略待上称形（해요体、-아요/-어요）が用いられていないのも特徴の一つであり、また、韓国では使用頻度が比較的低い中称の終結語尾-오に、尊敬の補助語幹-사-が結合した-시오が多用されているのが特徴的である。

中国人民志願軍の「抗米援朝」のための戦争は、北朝鮮が言うところの、米帝国主義を朝鮮半島から放逐し、反共保守勢力を打倒する「祖国解放戦争」を支援して戦われたもので、一般の朝鮮民衆は本来、味方であること前提とし、丁寧体での対話文が掲げられていた。

一方、かつての日本軍は日中戦争の過程で、軍事用中国語会話集を作成していたが、それらの多くは「(日本兵) お前は今年何歳か。一 (中国人) 今年三十歳です。」のように、日本兵が非丁寧体、中国人が丁寧体を用いた対話文形式になっている。「暴支膺懲」（ぼうしようちょう、横暴な支那を懲らしめる）というスローガンのもと、中国の民衆も全く信じることができない敵として扱かうところから生じたものだった。「若し白状しなければ銃殺するぞ (你若是不供認就要槍斃了)」、「事實を言はぬと打殺すぞ (你不說實話就要打死了)」、「お前が眞実のことを云はず嘘ばかり云ふて面倒をかけると拷問するぞ (你不肯說實話竟撒謊叫我們麻煩就要拷打你了)」などと、戦時国際法に反する拷問による尋問、捕虜虐待の現実を臆面もなく表現している⁷。中国語は日本語のように丁寧体と非丁寧体が顕著に表れることはないが、これら対話文の中国語に振られた仮名ルビをたどって話す恐ろしい姿は、「日本鬼子」（ひとでなし日本人）に対する恨みをかき立てた

7 杉武夫編著「現地携行支那語軍用會話」、外語学院出版部、1940年、39頁～40頁、43頁

に違いない。事実、日本軍憲兵隊ではこの会話集が表現しているような中国人に対する拷問、「厳重処分」（裁判手続きなしの現場判断による処刑）が常態化していた⁸。

盧溝橋での軍事衝突（1937年7月7日）に端を発した日中戦争は、宣戰布告を伴っておらず、したがって、戦争状態にはあるが「戦争」ではなく「事変」だとして、日本政府は「今回ノ事変ハ之ヲ支那事変ト呼称ス」（「事変呼称ニ関スル件」、昭和12年9月2日閣議決定）と決定し、戦争による国際紛争解決を図ったものではないかという国際的な批判をかわそうとした。のちに大本営作戦参謀を務めた瀬島隆三（1998：16）は、1972年11月にハーバード大学でおこなった講演で、「『戦争』と宣言した場合、主として米国が日本に対する物資の輸出を禁絶するであろうと虞れたからであります」と話している。

このような「事変」だという前提のもと、陸軍次官から支那駐屯軍参謀長に宛てた通牒「交戦法規ノ適用ニ関スル件」（陸支密第198号、1937年8月5日）は、「現下ノ情勢ニ於テ帝國ハ対支全面戦争ヲ為シテアラサルヲ以テ「陸戦ニ関スル条約其ノ他交戦法規ニ関スル諸条約」ノ具体的な事項ヲ悉々適用シテ行動スルコトハ適當ナラス」とし、さらに「又帝國現下ノ国策ハ努メテ日支全面戦ニ陥ルヲ避ケントスルニ在ルヲ以テ日支全面戦ヲ相手側ニ先シテ決心セリト見ラル如キ言動（例へハ、戦利品、俘虜〔捕虜の軍用語－引用者注〕等ノ名称ノ使用或ハ軍自ラ交戦法規ヲ其儘適用セリト公称シ其ノ他必要止ムヲ得サルニアラサルニ諸外国ノ神經ヲ刺戟スルカ如キ行動）ハ労メテ之ヲ避ケ」のように指示した。つまり、「陸戦の法規慣例に関する条約」（いわゆる「ハーグ陸戦条約」）が定めた俘虜取扱に関する規定「俘虜は人道をもって取り扱うべし」も適用外とするための処置をとれというものだった。このことについて、かつて陸士を卒業したあと、

8 たとえば『聞き書き　ある憲兵の記録』（朝日新聞山形支局著、朝日新聞社、1985）には、憲兵隊が中国人に対して行っていた拷問の実態が記録されている。

陸軍将校として中国各地を転戦した経歴を持つ歴史学者藤原彰（2006：17）は、「こうした指示を受けた第一線の部隊は、捕虜は作るな、殺してしまえというのが、軍の方針だったと受け取るのは当然であった」と指摘している。そして、このような軍の方針が、上で紹介したような内容の軍事用中國語会話集がつくられた背景にあったとみられる。

「御名御璽」をもって施行が命じられた「軍隊内務書」（1921年3月10日）は、「部下タル者其ノ上官ニ服従スルハ如何ナル場合ヲ問ハス必ス嚴重ナルヘシ」「命令ハ謹テ之ヲ守リ直ニ之ヲ行フヘシ決シテ其ノ當不当ヲ論シ其ノ原因理由等ヲ質問スルヲ許サス」と規定し、更に、この改訂版「軍隊内務令」（1943年9月3日）では「服従ハ軍紀ヲ維持スルノ要道タリ故ニ至誠上官ニ服従シ其ノ命令ハ絶対ニ之ヲ励行シ習性ト成ルニ至ラシムル」と、上官に対する絶対的な服従を強要した。そして、絶対的服従を「習性ト成ルニ至ラシムル」ために上官による私的制裁（リンチ）が横行し、兵士は自由も人権も蹂躪された。「支那事変」を戦う意味も見いだせない兵士に植え付けられたのは、「遅れた」中国を蔑視する帝国主義的優越感や、八紘一宇の東洋新秩序を建設するための「聖戦」だとする議論でしかなかった。そして、中国人にたいする偏見と蔑視と恐怖心を抱き、ときとして兵士たちの抑圧された心のはけ口として向かった先が、中国人に対する虐待ではなかっただろうか。

中国労農紅軍や八路軍では、貧農出身の兵士たちに対する政治思想教育が重視され、日本帝国主義の侵略に抗し、被抑圧民衆を解放するための戦いであることを認識させていた。抗日戦争は貧農出身の紅軍兵士たちにとっては、救国と自分自身の解放のための正義の戦いであったがゆえに、その正当性を確信し、自発的な戦闘意識を維持していた。

かつて歴史学者家永三郎が、「民主主義のみが国家の危機に際して真に愛國心を喚起し、民族主義的自覚を高めて侵略に抵抗する戦力に転化する。

換言すればデモクラシーに裏付けられるときにのみ、眞のナショナリズムの育成されることを、中国共産党は抗日戦争において実証したのである。日本の戦争遂行を不可能ならしめた決定打を与えたのはアメリカの物量戦術であったかもしれないが、日本はアメリカの物量に敗れるに先だってすでに中国の民主主義に敗北していたのである」⁹と書いたように、日本軍は日中戦争において、軍事的に敗北する前に、すでに道徳的に敗北していた。15年戦争における日本軍の軍事行動は中国民衆からの怨嗟を買うばかりだった。

軍事用会話集『現地携行支那語軍用會話』に載せられた以下のような会話文は、中国共産党の「三大紀律・八項注意」とはまるで正反対の、日本軍による中国民衆に対する横暴な姿勢を示している。

(日本兵) お前は何故我兵と口論するのか。我兵がどうしたと云ふのか。

你為甚麼跟我們的兵拌嘴。你說我們的兵怎麼了。

(中国の民衆) 私のものを無理矢理に持つて行きました。

把我的東西硬拿了走了。

(日本兵) あとで返してやる、暫く彼に貸してやれ。

回頭還給你暫暫且給他罷¹⁰。

中国共産党の紅軍兵士が農家で宿泊を依頼するときも、農民に迷惑をかけないように家のなかには上がりこみます、軒先や庭先を借りて野営したという。

エドガー・スノーが1936年に革命根拠地の保安で毛沢東に対しておこなったインタビューで、最初に定められた「八項注意」は「1928年の第2回茅坪会議の後、農民の支持を得るために」毛沢東自身が6項目を決め、ま

9 家永三郎『太平洋戦争』、岩波書店、1968年、121頁

10 前掲『現地携行支那語軍用會話』、53頁～54頁

もなくして林彪が第7項と第8項を付け加えたものだと語った。この第1項は「人家を離れる時には、すべての戸板をもとどおりにする」、第2項は「自分の寝た藁筵は巻いて返す」となっていた¹¹。「中国の赤い星」の訳者松岡洋子は、「中国の家屋の戸板は簡単にとりはずしが出来、夜になるとしばしばとりはずして、木製のベンチの上に置き、即席の寝床に使われる」と訳注を付しているが、このことから、紅軍兵士たちは戸板と藁筵を借りて民家で宿泊していたことがわかる。このときのインタビューで毛沢東は、「今日でも紅軍兵の規範であり、かれらは暗記し、しばしば復唱しています」と語っている。

これとは反対に、「現地携行支那語軍用會話」にみられる威圧的かつ侮蔑的な日本軍の姿は、たとえば平然と中国農民から暖かい寝床を奪ってでも自分たちの寝床を確保しようとするものであり、農民を味方につけようとする紅軍の行動様式とは正反対のものだった。

(日本兵) 箕を持って来て温突を掃け。この温突の敷物はひどく破れて居るから好いのと取換へろ。

你拿箒掃來掃炕罷。這炕蓆太壞了。換好的罷。

(中国の民衆) 好いのがありませんから我慢してください。

11 そのほかの項目は以下の通り。「3. 人民には礼儀正しく、丁寧にし、できるだけ彼らを助ける。4. 借りたものはすべて返す。5. こわしたものはすべて弁償する。6. 農民との売り買いはすべて誠実にする。7. 買ったものはすべて代金を払う。8. 衛生を重んじ、特に便所は人家から十分に距離をおいてつくる。」(エドガー・スノー『中国の赤い星—増補改訂版一』、筑摩書房、1972年、120頁～121頁) また、第2次国共合作以後の八路軍（中国労農紅軍が改編され、「国民革命軍第八路軍」となった中国共产党指導下の軍隊）の時代の「八項注意」をエドガー・スノーは次のようなものだったと書いている。「1. 民家に入る時には持ち主の許しを得、出発する時には万事異常ないように注意せよ。2. 家を清潔にせよ。3. 人民に愛想よくし、その手助けをせよ。4. 借りたものは皆返せ。5. 毀した物は皆修繕せよ。6. 正直に、買った物には正価通りの金を支払え。7. 衛生第一。便所は民家から離れた完全な所に掘れ。第8項 捕虜を殺したり、捕虜から略奪したりするな。」(エドガー・スノー『アジアの戦争』、筑摩書房、1973年、318頁～319頁)

沒有好的，將就着罷。

(日本兵) あの汚い物をとりのけろ。この温突の上に南京虫があるか。
把那個臟東西拿出去。這炕上有臭蟲沒有¹²。

日本の敗戦後創設された朝鮮人民軍が日本軍や日本の警察出身者を排斥しつつ、中国共産党とともに国共内戦をたたかった歴戦の朝鮮人将兵たちを迎えて構成されたのとは対照的に、韓国の軍と警察は、日本軍や満州國軍や日本警察出身者を母体として構成されていた。

たとえば、韓国國軍の陸軍參謀総長は、初代から第10代まですべて日本の陸軍士官学校、もしくは満州國陸軍軍官学校の出身者で占められ、第11代から第18代までは、全員がかつては日本軍の少尉もしくは准尉だった。1969年9月に至り、第19代から韓国國軍の陸軍士官学校出身者が陸軍參謀総長になって、日本軍出身者から韓国陸士出身者への世代交代がおこり、今日に至っている。解放直後、38度線以南で朝鮮民族が独自に設置した建国準備委員会や朝鮮人民共和国の建国を米軍政は承認せず、南朝鮮では右翼保守勢力を糾合して、反共体制を構築する過程が進行していた。この結果、朝鮮戦争が勃発したころ、韓国軍の将校や警察の幹部たちは、かつて日本の軍や警察で訓練を受けた者たちだったのであり、朝鮮人民軍とは好対照をなしていた。「朝鮮戦争中に韓国軍が行った大量虐殺はまさに日帝植民地支配の直接的な遺産だったとも見ることができる」¹³という金東椿の主張は、朝鮮戦争も日本の植民地支配とは無縁ではないことを語っている。1980年代、軍事独裁に抗して民主化闘争を闘っていた韓国の学生が、“拷問の文化も日本が植え付けたものだ”と、筆者に向かって非難する姿を見せたことであった。

1950年6月25日、朝鮮人民軍が38度線を越えて奇襲をかけたことによっ

12 前掲『現地携行支那語軍用會話』、117頁

13 金東椿『朝鮮戦争の社会史 邊境・占領・虐殺』、平凡社、2008年、314頁～315頁、326頁

て始められた朝鮮戦争は、当初は朝鮮の統一的国家体制の構築をめぐる内戦（civil war）の様相を呈していた。そして、朝鮮人民軍と韓国國軍は、それぞれ、中国労農紅軍・中国人民解放軍と旧日本軍の軍紀を継承することとなり、対照的な様相を呈していたと思われる。その後、1950年9月15日に米軍を主体とする国連軍がこの内戦に介入し、米軍が平壌を占領した同年10月19日には中国人民志願軍が参戦することによって、国際戦争（international war）へと変質した。

中華人民共和国建国後1年もたたない時期に朝鮮戦争に参戦した中国人民志願軍が、米軍の鴨緑江沿岸への侵攻を阻止し、38度線あたりまで戦線を押し戻して膠着状態にあった頃、この軍用中国語朝鮮語対訳会話・語彙集『常用朝鮮語手冊』が作成された。

以下、第Ⅱ章ではその全文を紹介しつつ、言語面での分析を行うことにする。その後、第Ⅲ章ではこの小冊子が成立した歴史的背景について、主に「ラテン化新文字」運動に焦点を当てつつ、考察をおこなう。

II. 『常用朝鮮語言手冊』の紹介と分析

(注意保存)

常用朝鮮語言手冊

志願軍二九軍
一九五二年印

- 一、() 内の読みは、すべて短く、軽く、なめらかに読みます。
- 二、「姆」字は南方の子どもが母親に呼びかけるときの「姆媽」の「姆」の音で読み、「姆媽」の「姆」と読んではいけません。
- 三、「給」字には2つの読み方があり、注で示した音で読んでください。

— 編 者 —

〈一について〉

- *漢字を用いた直音方式による音声転写で、朝鮮語の音節音に近似した音を持つ漢字が北京語に見当たらない場合、丸括弧で囲んだ漢字を添えて、朝鮮語の音節音を転写しようとしたものである。このために用いられた漢字と、それが表わそうとした朝鮮語音は、以下のとおりである。
 - 音節末子音……（布）[母、/-p/]、（克）[ㄻ、/-k/]、（姆）[音節末音口、/-m/]、（恩）[音節末音ㄻ、/-n/]、（兒）[音節末音ㄻ、/-l/]
 - 母音……………（俄）[母音ㄻ、/-o/]、（愛）[母音ㄻ・ㄻ・ㄻ、/-e・ɛ・we/]
- *18では「（克）」ではなく「（咗）」が用いられ、直音表示のための漢字の選択に若干の不統一がみられる。
- *北京語にはない音節末子音 /t/ が朝鮮語に存在する。しかし、対訳朝鮮語を示す音声転写には反映されていない。
- *北京語には音節末子音 /n/ を持つ音節が存在するが、朝鮮語은 [pun] のような北京語には存在しない音節を表示する場合には、「不（恩）」[(ピンインで) bùn] のように「（恩）」[n] を添えて直音転写がなされている。なお、259で 오전（午前）を「奥振」[ào zhèn] と直音転写したように、音節末子音 [n] を有する朝鮮語音節に類似した漢字がある場合には、「（恩）」は用いられていない。
- *母音 ㄻ [ɛ] については、例えば내 [ne] を転写するために「納（愛）」[na-ai]、채 [tʰɛ] を転写するために「蔡（愛）」[cài-ai] のように「（愛）」を添えて直音転写している。
- *「俄」は朝鮮語어디 [o-di] の어 [o] の直音表示で用いられているが、丸括弧で囲んだ「（俄）」は51で무엇이요 [mu-o-ji-jo] を直音表示した「木（俄）西要」[mùé xī yào] でのみ用いられている。

〈二について〉

- *林宝卿（2007：374）によれば、福建省などで話されている閩南語では、「姆」[mú] は話し言葉では [m̩] とも発音される。

〈三について〉

- *直音表示に用いられている「給」は、以下の用例に示すように、朝鮮語の기 [ki] を転写するときは [(ピンインで) gi] と発音し、朝鮮語개 [ke]・개 [kɛ]・겨 [kjɔ] を転写するときは [(ピンインで) gēi] と発音するように配置されて

いる。

朝鮮語音기 [ki] を含む여기서의直音転写例 (4) ……「腰給射」[yāo gi shè]

朝鮮語音개 [ke] を含む마스개의直音転写例 (21) ……毛斯給 [máo sī gěi]

朝鮮語音개 [kɛ] を含む산고개의直音転写例 (158)

……「山稿給」[shān gǎo gěi]

上記のように、「給」が直音転写で用いられるとき、[ki] と [gěi] の「2つの読み方」があるとされているが、実際には3通りの朝鮮語音を表示するために用いられている。そして、개と개には異なる母音が含まれているにもかかわらず、「給」[gěi] のみで発音転写する簡略な方法が取られている。ところで、「注で示した音」というところの「注」が、私が所有する本小冊子のコピーのどこにも見当たらない。

一般日常生活用語

1. 老大爺！ 您好啊！

ㄏㄚ ㄉㄚ ㄉㄛ ㄉㄧ ㄉㄉㄧ ㄉㄉㄧ ㄉㄉㄧ ㄉㄉㄧ ㄉㄉㄧ 《ㄚ

哈拉伯擠・安寧哈吸（姆）尼嘎！

할아버지 안녕하십니까？〔お爺さん、こんにちは！〕

xa la po tci an niŋŋ̩ xa cim ni ka

Há lā bó jí ān níng hā xím ni gā !

* 朝鮮語標準語 할아버지 [ha-ra-bo-eki] の非円唇母音어 /o/ は注音字母ではㄛ [o]、直音転写でも「伯」[bo] のように円唇母音 [o] で転写されている。2と94の할머니（祖母）、7と93の아버지（父）、92の할아버지（祖父）、95の어머니（母）でも同様で、ㅓ [ə または ɔ] が [o] で音声転写されている。しかし、할모니、아보지、할아버지、어모니などの方言語形は見られない。

* 梅田（1993：139～140）によれば、朝鮮文字丁で表記される母音は、延辺朝鮮族自治州の咸鏡道方言話者を対象とした調査ではフォルマント周波数はF₁=356、F₂=828だが、ソウル方言はF₁=263、F₂=754である

ため、前者の方がより開母音だとしている。また、ソウル方言では後舌系列の母音は /u, o, ɔ, a/ の 4 通りの区別をしなければならないが、咸鏡道方言では /ɔ/ がなく（咸鏡道方言ではㅏは [ɔ] よりも前寄りで、より舌の位置が高い [ə] で発音）、よ／o/ がかなりの開母音であるため、閉母音が多少開いても十分に区別できるとしている。

*梅田（1993：138）によれば、朝鮮文字上で表記される母音は、延辺朝鮮族自治州の咸鏡道方言話者を対象とした調査ではフォルマント周波数は $F_1 = 556.3$ 、 $F_2 = 965.1$ で、ソウル方言の $F_1 = 436$ 、 $F_2 = 692$ よりもかなり広く、むしろソウル方言のㅏ [ɔ] ($F_1 = 607$ 、 $F_2 = 895$) に近い。蔡玉子（2005：23）も、延辺地域で話される朝鮮語の母音ㅏはソウル方言など中部方言のㅏより若干開口度が大きい位置で調音されるとしている。したがって、本小冊子でㅏが [o] と転写されたまま発音した場合でも、聴覚印象はㅏ [ɔ] に近い。なお、梅田（1993：132）は、後舌の開母音にあたるㅏは、延辺地域の咸鏡道方言話者はやや狭くやや中舌の広母音 [ɔ] で発音するという。

*形態主義原則で表記された標準語形할아버지 /har-a-po-f'i/ は、現実発音では [ha-ra-bo-phi] である。/har-a/ が [ha-ra] のように連音するケースでは、注音字母ではㄏ ㄚ ㄻ [xa la]、直音転写では「哈拉」[hā lā] のように、連音したあとの音節構成を示している。4 の 들어 /tɯr-ɔ/ の現実発音も [tɯr-ro] だが、注音字母では「ㄉㄔ ㄉㄔ」[tʂɿ lʂɿ]、直音転写では「徳勒」[dέ lè] のように、連音した後の音節構成を示している。また、朝鮮語の音節頭音 [r] に相当する子音が北京語音にはないので、注音字母では「ㄉ」[l]、直音転写では「拉」[la] で転写されている。

*하십니까 /ha-sip-ni-k'a/ [ha-sim-ni-k'a] のように、音節末閉鎖音 /p, t, k/ の後に鼻音 /n, m/ が続くとき、この /p, t, k/ は逆行鼻音同化して、それぞれ [m, n, ŋ] に鼻音化する。注音字母では「(ㅁ)」、直音転写では「(姆)」を用いて、それぞれ鼻音同化したあとの音 [m] を転写している。

*朝鮮語子音 /k、t、p、tʃ/ は有声音の後では有声音化して [g、d、b、dʒ] と発音されるが、北京語は有声子音と無声子音の対立を示さない音韻構造であることが影響して、注音字母、漢字による直音転写のいずれも、この有声／無声の対立は音声転写に反映されていない。

2. 老大娘！ 您好啊！

ㄏㄚ (儿) ㄇㄛ ㄊㄧ ㄉㄉ ㄧㄆ ㄏㄚ ㄊㄧ (ㄇ) ㄉㄧ ㄍㄚ

哈（兒）摸尼・安寧哈吸（姆）尼嘎！

할머니 안녕하십니까？〔おばあさん！、こんなちは！〕

xaə mo ni an nɪŋ̩ xa cim ni gɑ !

Hâr mō ní·ān níng hā xím ni gā !

* 할 [har] の音節末子音 /l/ [r] は注音符号では「(儿)」、漢字による直音転写では「(兒)」で転写されている。朝鮮語には、音節頭音では [r]、音節末音では [l] で発音されるが、北京語では音節末には /n/ と /ŋ/ しか立たないので、このような対応措置が取られている。

3. 我們在這裡住！ 請開門，可以嗎？

メ カ 丨 ㄍㄚ 丨 ㄸ ㄍ 丨 戸 ㄙ ㄓㄚ (儿) 女 ㄙ 丨 ㄉ 丨 ㄇㄣ ㄤ ㄦ ㄤ ㄉ ㄤ ㄤ

烏里嘎・腰給射・渣（兒）特衣尼・門・早（姆）・腰熱朱希腰？

우리가 요기서 잘터이니 문 좀 열어 주시오？〔私たちはここで泊まりますので、門を開けていただけませんか。〕（中国語本文では「私たちはここで泊まります！門を開けていただけませんか。」と2つのセンテンスからなっている。）

u li ka iou ki s̄y t̄saa t̄y i ni mēn tsauum iou z̄y t̄su ci iou

Wū lǐ gā · yāo gi shè · zhār tè yī ni · mén · zǎom · yāo rè zhū xī yāo ?

*서 [sɔ] の歯茎音 [s] がそり舌音を持つ注音字母「戸ㄕ」[s̄y] と漢字「射」[shè] で転写されている。34の*を参照のこと。

* 妙기の標準語形は여기。妙기는崔鶴根（1990：232）によれば、咸鏡道・平安道・慶尚道・忠淸道方言。

* 舌 [ʃɔm] のスが口蓋音 [tʃ] ではなく歯槽音 [ts] で転写されている。蔡玉子（2005：21）は、「この地域（延辺地域－引用者注）の朝鮮語では、他の地方で硬口蓋に属する /ス、ツ、ネ/ が歯槽音 ([ts]) で実現し、ただ [i, y] の前では硬口蓋音 ([ʃ]) で実現する。つまり、/ス、ツ、ネ/ は音韻論的には歯槽音として認識されるが、音声的には硬口蓋音が変異音として存在しているのである」とし、これは延辺地域の朝鮮語の特徴であるとしている。4、5、12、13、14、17、41、44、63、64、65、67、82、83、86、88、110、117など随所に類例がみられる。

4. 我可以進來嗎？

ㄉㄜ ㄉㄢ 《ㄚ ㄉㄠ ㄉㄠ ㄉㄠ ㄇ (ㄇ) ㄉ । 《ㄚ

德勒嘎倒・早斯（姆）尼嘎？

들어가도 좋습니까？【入ってもいいですか。】

ty lv ka təu tsəu sm ni ka

Dé lè gā dǎo · zǎo sim ni gā ?

* 善습니까 [ʃo'-sum-ni-k'a] の音節末子音 [t] は音声転写に反映されていない。10の※を参照のこと。

* 善습니까 [ʃo'-s'um-ni-k'a] のスが口蓋音 [tʃ] ではなく歯槽音 [ts] で転写されている。このことについては、3の解説*を参照のこと。

5. 主人在家嗎？

ㄚㄨ ㄧㄣ 《へ ㄊ । (ㄇ) ㄉ । 《ㄚ

組印・給吸（姆）尼嘎？

주인 계십니까？【ご主人は家にいらっしゃいますか。】

tsu iən kei cim ni ka

Zǔ yìn · gěi xīm ní gā ?

* 주인 [tʃu-in] のㅅが口蓋音 [tʃ] ではなく歯槽音 [ts] で転写されている。

6. 我們是中國人民志願軍！

メカ！ ラケ エム《メ | ケ ハ | ケ リ | メケ《メケ | (ハ) ハ | カ
Y

烏里嫩·中古引民機溫滾衣（姆）尼達！

우리는 중국인민지원군입니다！ [私たちは中国人民支援軍です！]

uli nən tʂuŋj ku iən miən tɕi uən kuən im ni ta

Wū li nèn · zhōng gǔ yīn mǐn jí wēn gǔn yīm ní dá !

* 朝鮮語군 [kun] は、注音字母では「ㄍ メヶ」 [kuən]、直音転写では「滾」 [gǔn] を用いて、音節末子音 [n] を転写している。このように、北京語でも音節末子音として立ちうる /n/ は、朝鮮語では군입니다 /kun-ip-ni-ta/ が連音して [ku-nim-ni-da] のように音節頭音で発音される場合でも、連音する前の音節末音として表記している。

* 국 [kuk] の末音 [k] が音声転写に反映されていない。中国語北方方言話者は、例えば학교 [hak-k'jo] を [ha-kjo] のように音節末子音 [k] を脱落させて発音する誤りを犯すと、蘭曉霞（2012：61）は指摘している。

7. 老大爺！ 您貴姓？

ㄏㄚ ㄉㄚ ㄉㄛ ㄉㄧ | ㄏㄨ ㄇㄧ ㄇㄨ ㄏㄨ ㄉㄧ | (ㄏ) ㄏㄧ | ㄍㄚ

哈拉伯擠·牲明·暮餓·吸（姆）尼嘎？

할아보지 성명 무엇입니까？ [おじいさん、お名前は？]

Xa la po tci sʂŋ miʂŋ mu y cim ni ka

Hā labó jǐ · shēng míng · mù è · xīm ní gā ?

8. 你家有幾口人？

ㄒㄧ | ㄍㄨ ㄍㄚ ㄇㄧ ㄜ ㄉㄧ | (ㄏ) ㄏㄧ | ㄍㄚ

吸咅嘎・滅啓（姆）尼嘎？

식구가 뱃입니까？ [あなたのところは何人家族ですか。]

ci ku ka miɛ tɕʰim ni ka

Xī gū gā · miè qím ní gā ?

* 咥の標準語形は喫。金泰均（1986：211）によれば、咸鏡道方言は喫。

* シ [ʃik] のような朝鮮語の音節末子音 [k] を含む音節は、注音字母では「ㄊㄧ」[ci]、直音転写では「吸」[xi] のように、いずれも [k] が転写されていない。北京語では音節末に子音 /k/ が立たないため、また、直後に [k] 音が続くのでそれらしく発音できるため、あえて省いたものと思われる。しかし、125の책상 [tʃʰek-saŋ] では「ㄎㄧㄝ (ㄎ) 戸
ㄉ」、「切（克）賞」のように、「(ㄎ)」、「(克)」を用いて音節末子音 [k] を省かないで転写している。

9. 小孩子多大啦？

ㄚㄧ ㄉㄣ ㄇㄧㄝ ㄈㄨㄚ (ㄦ) ㄉㄧ (ㄇ) ㄉㄧ 《ㄚ

啊衣嫩・滅撒（兒）里（姆）尼嘎？

아이는 뱃살입니까？ [子どもは幾つになりましたか。]

a i nən miɛ saə lim ni ka

Ā yī nèn · miè sār lím ní gā ?

* 咥 /mɛtʰ/ は、音節末の /tʰ/ が不破音 [t] に中和して [mɛt] と発音されるが、この音節末子音 [t] は注音符号では「ㄇㄧㄝ」[miɛ]、直音転写では「滅」[miè] のように転写されていない。これは、子音 /s/ の前に立つ音節末子音 /t/ は、朝鮮語ではしばしば発音されず、/s/ 音を濁音化させるだけの発音現象を反映させた音声転写だと思われるが、北京語では音節末に子音 /t/ が立たないため、あえて省いたとも思われる。ただし、8の 뱃입니까 /meʃʰ-ip-ni-k'a/ [me-tʃʰim-ni-k'a] の場合、𠮩이가連音した現実発音 [me-tʃʰi] を音声転写に反映させ、注音字母では「ㄇㄧㄝ
ㄉㄧ」[miɛ tɕʰim ni ka]、直音転写では「滅啓」[miè qím ní gā] と転

写している。

10. 你家有人參加人民軍嗎？

丨ヶ ハ |ヶ 《メヶ オ ㄦㄚ 《ㄉㄚ ㄆㄚ 丨 丨 ㄆ (ㄇ) ㄩ | 《ㄚ
引民滾愛・那趕撒拉米・衣斯（姆）尼嘎？

인민군에 나간 사람이 있습니까？ [あなたの家には人民軍に参加した人はいますか。]

iən miən kuən aɪ na kan sa la mi i sm ni ka

Yīn mǐn gǔn ài · nà gǎn sā lā mī · yī sīm ní gā ?

* 有습니까 /it-s'wp-ni-k'a/ の現実発音は [i-s'wm-ni-k'a] で、朝鮮語では音節末子音 /t/ に /s/ 音が続く場合、/t/ 音が脱落するのが一般的である。注音字母では「丨 ㄆ」[i s]、直音転写も「衣斯」[i s] と転写されているが、これが現実発音を示したものか否かについては判断できない。13 の 있다 [it-t'a] では音節末音 [t] は脱落することなく必ず発音されるが、注音符号では「丨 ㄉㄚ」[i ta]、直音転写では「衣達」[yī dá] と転写され、音節末子音 [t] が音声転写に反映されていない。北京語では音節末に子音 /t/ が立たないためだと考えられる。

11. 你是軍屬真光榮！

《メヶ ハメ ㄓㄚ 《ㄚ ㄓㄠ 《ㄉㄤ ㄉㄨㄥ 《ㄉㄤ ㄏㄚ (ㄇ) ㄩ | ㄉㄚ
滾幕渣・嘎找根・榮光・哈（姆）尼達！

군무자 가족은 영광합니다！ [貴方は現役軍人の家族で誉れ高いです！]

kuən mu tʂa ka tʂəu kən zuyŋ kuəŋ xam ni ta

Gǔn mù zhā · gā zhǎo gēn · róng guāng · hām ní dá !

* ジュンムサ（軍務者）は朝鮮民主主義人民共和国で用いられる語。

* 「榮光」は朝鮮語では「ヨング」[jɔŋ-gwaŋ] だが、注音字母では「ㄉㄤ ㄏㄚ」[dʐʰŋ kwɑŋ]、直音転写では「榮光」[róng guāng] となっており、これは中国語語彙「榮光、róng guāng」からの音借である。さらに、

従来の朝鮮語にはない「榮光하다」という形容詞を派生させて用いている。従来の派生形容詞は「榮光스럽다」。

12. 請騰一些房子。

ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ

綁早 (姆)・納 (愛)・組希腰。

방 좀 내 주시오. [ちょっと部屋を空けてください。]

paŋ tsəum na-ai tsu ci iau

Bǎng zǎom nà-ài zǔ xī yāo.

* 좀 [ʃom] のスが口蓋音 [tʃ] ではなく、歯槽音 [ts] で転写されている。

13. 借些柴, 以後還您。

ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ

那暮・早 (姆)・比烈主免・早 (姆)・衣達・嘎剥 (奥) 紿斯 (姆) 尼達。

나무 좀 빌려주면 좀 있다 갚겠습니다. [薪をちょっと貸してくださったら、すこしあとでお返します。]

na mu tsəum pi lie̥ tsu mian tsəum i ta ka po-yu kei sm ni ta
Nà mù · zǎom · bǐ liè zhǔ miǎn · zǎom · yī dá gā · bā-ào gěi sīm nídá.

* 좀 [ʃom] の口蓋音 [ʃ] が、歯槽音 「ア」 [ts]、「早」 [zəom] の [z] で音声転写がなされている。

* 빌려 [pol-ljɔ] は注音字母では「ㄻ ㄻ ㄻ」 [pi lie̥]、直音転写では「比烈」 [bǐ liè] となっており、いずれも [l-i] の前のほうの [l] が音声転写に反映されていない。しかし、77の 말라に対しては、注音字母では「ㄇㄚ ㄻ ㄻ」 [maə. la]、直音転写では「馬 (兒) 拉」 [mǎə. lā] のように、[l-i] ではなく [r-i] となってはいるが、末音節子音ㄹ이가音声転写に反映されており、この点で統一性に欠ける。

14. 請借洗脸盆用一用。

ムセ アメ 去 扉 扉 ケ | カ | セ アメ テ | | 畏

色叔台（愛）・比烈組希腰。

세수태야（대야？）빌려주시오。[洗面器貸してください。]

sy̥ ſu tʰai ai pi lie̥ tsu ci iou

Sè shū tái-ài · bì liè zǔ xī yāo.

* ビル [pil-ljɔ] の第一音節末音 [l] が、音声転写に反映されていない。

* なぜか、대야となるべきところが태야となるように音声転写がなされている。

* 세수の部分が、朝鮮文字では서슈と表記しうる [sy̥ ſu] で音声転写がなされている。

* 주시오 [ju̥-ʃi-o] の주가口蓋音 [tʃu] ではなく歯槽音 [tsu] で転写されている。

15. 謝謝！

《幺 ロ ャ ム (モ) ロ | ケ ャ

稿麻斯（姆）尼達！

고맙습니다！[ありがとうございます！]

kou ma sm ni ta

Gǎo má sīm ní dá！

* 맙 [map] は、注音字母では「ロ ャ」 [ma]、直音転写では「麻」 [má] で、いずれも朝鮮語の音節末子音 [p] は音声転写に反映されていない。

中国語北方方言話者が朝鮮語を発音するときは、例えば察字 [ʃap-ʃi] を [ʃa-pi] のように音節末子音 [p] を脱落させて発音する誤りを犯すと、蘭曉霞（2012：61）は指摘している。しかし、22の畠シダは注音字母では「ケ幺（ケ） テ | ケ ャ」 [pyup c̚ita]、直音転写では「寶（布） 希達」 [bǎob xī dá] と転写され、音節末子音 [p] が「(ケ)」、「(布)」で示されている。これと同様に、124の畠上には「ケ ャ（ケ） 戸尤」 [pap

san]、「巴（布）賞」[bāb shǎng] を用いて [p] を反映させた音声転写がなされている。

16. 我們自己動手！ 您歇歇罷！

メカ！《丨カ丨𠂌》《ヘム(口)ヲ丨カ》

烏里給里・哈給斯（姆）尼達！

우리끼리 하겠습니다！ [私たちが自分でやります。（あなたは休んでください！）]

u li ki li xa kei sm ni ta

Wū lǐ gī lǐ·hā gěi sīm ní dá !

*「您歇歇罷！」（あなたは休んでください！）の部分が朝鮮語訳されていない。

17. 您真好！

カ尤 T丨𠂌 ヲカ ぢヲ (口) 卫ムム (口) ヲ丨カ》

黨信嫩・參（姆）早斯（姆）尼達！

당신은 참 좋습니다！ [あなたはとてもいい人です。]

tan̩ ciən nən tsʰanm tsəu sm ni ta

Dǎng xìn nèn · cānm zǎo sīm ní dá !

* 참 [tʃʰam] は、注音字母では「ぢヲ (口)」[tsʰanm]、直音転写では「參（姆）」[cānm] を用いて音声転写がなされているが、「ヲ」[tsʰan] や「參」[cān] の末子音 [n] を脱落させると朝鮮語 [tʃʰam] に近くなる。したがって、「ぢヲ (口)」と「參（姆）」は、反切法に似た音声転写法くなっている。

* 당신은 [tan̩-fi-nun] の部分の注音字母では「カ尤 T丨𠂌 ヲカ」[tan̩ ciən nən]、直音転写では「黨信嫩」[dǎng xìn nèn] と転写され、連音した現実発音を表記する原則からすれば、T丨𠂌 [ciən] の [n]、信 [xìn] の [n] は不要である。62にも類例がみられる。

18. 待我像一家人一樣。

ㄏㄉㄋ ㄩ ㄉㄊ (ㄍ) ㄍㄚ ㄨㄚ ㄍㄚ ㄈ (ㄇ) ㄉ ㄉ ㄉ
漢基班·吸(唔)瓦·嘎斯(姆)尼達。

한집안 식구와 같습니다. [私を家族同様に扱ってください。]

xan tci pan cik ka ua ka sm ni ta

Hàn jí bān · xīg wū wā · gā sīm ní dá.

*「待我像一家人一樣」(「私を家族同様に扱ってください。」)の朝鮮語対訳
「한집안 식구와 같습니다。」は「家族同様です。」という意味で、それが
生じている。

*식구 [sik-k'u] の発音表記が注音字母では「ㄉ」(ㄍ) ㄍㄚ 「ㄉ」[cik ka]、
直音転写では「吸(唔)」[xig wū] となっており、正しく音声転写がな
されていない。

19. 我們要走了！

メ カ 丨 カ サ カ メ ハ 《ㄚ 《へ ㄈ (ㄇ) ㄉ ㄉ ㄉ
烏里得論·嘎給斯(姆)尼達！

우리들은 가겠습니다! [私たちは行きます。]

u li ty luən ka kei sm ni ta

Wū lǐ dé lùn · gā gěi sīm ní dá !

20. 您家少了東西嗎？請查一下。

ㄇㄨ (ㄦ) 《ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
ム

暮(兒)跟尼·俄(布)捨折能基·查渣賣希腰。

물건이 없어졌는지 찾아보시오。[物がなくなっているかどうか調べてみて
ください。]

muə, kən ni ɤpʂɿ nɤŋ tɕai tsʰa tʂa pəu ci iau

Mùr gēn ni · éb shé zhé néng jī · chá zhā bāo xī yāo.

* 指す /tʃɔt-nun/ の現実音は、前の音節末音 /t/ が [n] に鼻音同化して [tʃɔn-nun] となるが、注音字母では「ㄓㄉㄢ ㄉㄨㄣ」[tʂɿ nvn] と転写されて前の音節末音 [n] は音声転写に反映されておらず、直音転写の「折能」[shě zhé] でも前の音節の末音 [n] は音声転写に反映されていない。また、この部分の最後の子音は [n] 音だが、[ŋ] 音で音声転写されており、[n] と [ŋ] の間に混乱が生じている。182にも類例がみられる。

21. 這東西搞壞了，我們賠償你，你要多少錢？

ㄇㄨ(ル) ㄍㄉㄉㄧ ㄇㄻㄻ ㄍㄻㄻㄅㄻㄻㄻ ㄩㄚㄩㄩ ㄍㄻㄻ
(ㄇ) ㄉㄧ ㄍㄩ

暮（兒）跟尼・毛斯給・戴思尼・耳馬・巴給斯（姆）尼嘎？

물건이 뜻쓰게 됐으니 얼마 받겠습니까？ [物が壊れましたので、（私たちがあなたに賠償しますが）幾ら要りますか。]

muə kən ni məu s kei tai s ni ə ma pa kei sm ni ka

Mùr gēn ní · móu sī gēi · dài sī ní · ēr mǎ · bā gēi sī mǔ ní gā ?

* 中国語「我們賠償你」の部分の朝鮮語訳がみられないが、ケアレスミスと思われる。

* 翼 [twɛt] の二重母音Neill [wɛ] の部分が、「ㄅㄻㄻㄻㄻ ㄩㄚㄩㄩ ㄍㄻㄻㄻ」[taɪ s ni]、「戴思尼」[dài sī ní] のように単母音Neill [ɛ] ([taɪ], [dài]) で音声転写がなされている。延辺地域の朝鮮語（咸鏡道方言）では、半母音/w/ をともなう上昇二重母音は、この半母音を脱落させて単母音化する特徴が見られるが、これを反映したものと思われる。

* 受け [pat] の音節末子音 [t] が発音転写に反映されていない。中国語北方方言話者は、たとえば 갖다 [kat-t'a] を가다 [ka-ta] のように音節末子音 [t] を脱落させて発音する誤りを犯すと、蘭曉霞（2012：62）は指摘している。

22. 再見吧！

ㄻㄚ ㄒㄧ ㄻㄺ (ㄻ) ㄒㄧ ㄻㄚ

達希·寶（布）希達！

다시 봅시다！ [またお会いしましょう。]

ta ci pyup cita

Dá xī · bǎob xī dá !

對駐地進行一般了解用語

[駐屯地で用いる一般的に知っておくべきことばについて]

23. 你叫什麼名字？

ㄻㄻ ㄒㄧ ㄻㄻ ㄻ ㄇㄧ ㄻ ㄻ ㄒㄧ ㄧ ㄻ

黨新·生名衣·摸西要？

당신 성명이 머시요？ [あなたのお名前は。]

taŋ ciɛn sŋyŋ miŋŋ i mo ci iau

Dǎng xīn · shēng míng yī · mó xī yào ?

*咸鏡道方言には標準語 무엇（なに）に対応するめしがあり、「ㄇㄛㄻ ㄒㄧ」

〔mo ci〕、「摸西」〔mó xi〕はこれを音声転写したものと思われる。

24. 這是什麼地方？

ㄧ ㄻ ㄍㄧ ㄻ ㄚ ㄇㄨ ㄻ ㄍㄧ ㄻ ㄧ ㄻ

腰給嘎·某甚搞西要？

요기가 무슨 곳이요？ [ここはなんというところですか。]

iau ki ka mu sən kau ci iau

Yāo gi gā · mǒu shèn gǎo xī yào ?

*요기 [jogi] の標準語形は여기 [jɔgi]。

25. 這裡美國鬼子到過沒有？

ㄧ ㄻ ㄻ ㄻ ㄇㄧ ㄻ ㄍㄨ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ

衣搞塞·米古闊（姆）·瓦戴斯（姆）尼嘎？

이곳에 미국놈 와셨습니까? [ここにアメリカの奴が来ましたか。]

i kau sai mi ku naum ua tai sm ni ka

Yi gǎo sè · mǐ gǔ nàom · wǎ dài sīm ní gā ?

*미국놈 [mi-guŋ-nom] (アメリカの奴) のㄱ /k/ が鼻音化した [ŋ] が音声転写に反映されていない。29の미국 (アメリカ) や 6、85、86の중국 (中国)、88の모택동주석 (毛沢東主席) でもㄱ [k] 音が音声転写に反映されていない。「国」、「沢」の北京語音は語末に /k/ 音が立たず、固有名詞であるこれらの語の音声転写では、中国語の発音を意識した可能性も考えられる。

26. 這裡有沒有敵特？

《幺 ムㄞ ケラ カメム ケメ (ㄦ) ㄓㄚ ㄧㄈ (ㄇ) ㄋㄧ 》『ㄚ

衣搞塞·板東不(恩)渣·衣斯(姆)尼嘎？

이곳에 반동분자 있습니까? [ここに反動分子いますか。]

i kau sai pan tuyŋ pun tʂa i sm ni ka

Yi gǎo sè · bǎn dōng bùn zhā · yī sīm ní gā ?

*中国語「敵特」(敵のスパイ) の対訳朝鮮語が「反動分子」となっている。

27. 河水可以喝嗎？

《ㄤ ㄇㄨㄞ ㄇㄛㄞ 》『ㄙ (ㄦ) ㄞㄨ ㄧㄈ (ㄇ) ㄋㄧ 』『ㄚ

尙木(兒)·摸割(兒)數衣斯(姆)尼嘎？

강물 먹을수 있습니까? [河の水は飲めますか。]

kəŋ muə mo k्यə ſu i sm ni ka

Gǎng mùr · mó gēr shǔ yī sīm ní gā ?

*먹の部分は、音声転写された [mok] を朝鮮文字で表記すると号となる。

1で 할아버지について説明したように、これは両唇音ㅁ /m/ に調音同化

して、ㅓ/ㅗ/가円唇母音化した状態を転写したものが、聴覚印象的に
は[o]より[ɔ]に近い。

28. 井水在哪裡？

メ ハメ (儿) サ カヨ 丨 戸ム

烏木（兒）・俄代衣少？

우물 어데 있소？ [井戸どこにありますか。]

u muə · y tai i şou

Wū mùr · é dài yī shǎo ?

*어데は어디에（どこに）の方言形。

29. 美國飛機來得兜嗎？

ㄇ 丨 《メ ケ 丨 フル 《 丨 テ 丨 (ㄇ) フ ャ (ㄇ) ッ 丨 《 ャ

米古・比橫給・西（姆）哈（姆）尼嘎？

미국 비행기 십합니까？ [アメリカの飛行機が凶行を働いていますか。]

mi ku pi xhyŋ ki cim xam ni ka

Mi gǔ · bǐ héng gi · xīm hǎm ni gā ?

* 미국 [mi-guk] は注音字母では「ㄇ 丨 《メ」[mi ku]、直音転写では
「米古」[mī gù] と転写され、音節末子音 [k] が音声転写に反映されて
いない。

*비행기の標準語形は비행기。

30. 防空洞在哪裡？

ケホ 《メム 《メ (儿) サ カヨ 丨 戸ム

幫工古（兒）・俄代衣少？

방공굴 어데 있소？ [防空壕どこにありますか]

pang kuyŋ kuə · y tai i şou

Bāng gōng gǔr · é dài yī shǎo ?

* 어데は어디에 (どこに) の方言形。

31. 哪裡有渡口？

ㄕ ㄉㄉ 《ㄙ ㄙㄅ 《ㄉ ㄉㄕ 《ㄚ (儿) 《ㄙ ㄊ | ㄉ ㄉ | ㄉ ㄉ
俄嫩搞塞·跟訥嘎 (兒) 搞西·衣斯 (布) 尼嘎?

어는곳에 건너갈 곳이 있습니까? [どこに渡る場所がありますか]

v nən kau sai kən n̄ kaə, kau ci i sp ni ka

É nèn gǎo sè · gēn nè gār gǎo xī · yī sīb ní gā ?

* 있습니까 /it-sup-ni-k'a/ の現実発音は [i-s'wm-ni-k'a] だが、注音字母では「/ 丨 ム (ㄉ) ㄉ | ㄉ ㄚ」[i sp ni ka]、直音転写では「衣斯 (布) 尼嘎」[yī sīb ní gā] と転写され、音節末音/p/ が鼻音化した [m] 音が音声転写に反映されておらず、鼻音同化する前の /p/ 音が「(ㄉ)」と「(布)」で転写されている。

* 어는는어느 (どの) の方言形。

* 高麗大学 (2009 : 4208) によれば、어는 (どの) は慶尚道方言。

32. 那莊子裡住軍隊沒有？

ㄓㄉ ㄇㄚ ㄦㄅ 《ㄨㄉ ㄉㄉ ㄉㄉ ㄧ ㄉ ㄉ | ㄉ ㄉ | ㄉ ㄉ
折馬兒愛·棍代·衣斯 (姆) 尼嘎?

저 마을에 군대 있습니까? [あの村に軍隊いますか。]

tʂy ma e ai kuən tai i sm ni ka

Zhé mǎ ér ài · gùn dài · yī sīm ní gā ?

33. 里人民委員會在哪裡？

ㄌㄧ ㄧ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ ㄉ
里·引民魚溫會·俄代衣少?

리인민위원회 어디 있소? [里人民委員会はどこにありますか。]

li ien miən y uən xuei y tai i şəu

Lǐ·yǐn mǐn yú wēn huì·é dài yī shǎo ?

*語頭で用いられる「里」(リ)の朝鮮語漢字音は一般的には頭音 [r] が脱落して [i] となるが、ここでは [i] 音で転写されている。李允甲(1992:45)によれば、中国朝鮮語では1948年から漢字語の頭音法則を廃棄する表記原則を採用しはじめていた。ただし、平安道方言では従来から語頭で [r] が発音される特徴がみられ、この「里」の発音もこのこととも関係があるようと思われる。

34. 離這裡有多遠？

丨幺 《丨戸セル ロヨ ヲヨ ロロ (ロ) ヲ丨 《ヨ

腰給捨・耳馬拿・摸(姆) 尼囁?

요기서 얼마나 멀니까? [ここからどれぐらい遠いですか。]

iou ki şy a ma na mom ni ka

Yāo gi shě·ěr mǎ ná·mōm ní gā ?

*요기 [jogi] の標準語形は여기 [jogi]。

*注音字母では「戸セ」[şy]、直音転写では「捨」[shě] が用いられて、朝鮮語音서 /sɔ/ の歯茎音 /s/ がそり舌音で音声転写がなされている。朝鮮語音서 /sɔ/ により近い中国漢字音を持つ「色」[sè]などの漢字が直音転写に用いられなかった理由はわからない。

*멀니까 [məm-ni-k'a] で、両唇音 [m] に後続する非円唇母音 ㅓ /o/ が調音同化して [o] となった状態が、音声転写されている。

35. 帶我去好嗎？

ア幺 (ロ) カヨ カ丨幺 カヨ カメ テ丨丨幺?

早(姆)・達遼達駐西腰?

좀 다려다 주시오? [(私を)連れて行ってくれますか。]

tsəum ta liou ta tʂu ci iou?

Zǎom·dá liáo dá zhù xī yāo?

*中国語「我」(私)が朝鮮語対訳文には直接的には反映されていない。会話の場面で判断できる場合、朝鮮語ではあえて表現しなくてもよい。

*注音字母「ㄉㄚ ㄉㄧㄠ ㄉㄚ」[ta liau ta]、直音転写「達遼達」[dǎ liáo dá]は、いずれも「다려다」[ta-rjø-da]を表しており、標準語데리다に對応する方言形다리다[ta-ri-da]の運用形である。なお、39でも注音符号では「ㄉㄚ ㄉㄧㄠ ㄉㄚ」[ta liau ta]、直音転写では「打遼打」[dǎ liáo dā]となっており、標準語形데려다ではなく、方言語形다리다の運用形다려다を転写している。

*『女四書諺解』(1736年)には「어린 아달 다리고」(幼い息子を連れて)という用例がみられる。

36. 廁所在哪裡？

ㄉㄧㄤ ㄉㄧㄤ ㄉㄧㄤ ㄉㄧㄤ
ㄉㄧㄤ ㄉㄧㄤ ㄉㄧㄤ ㄉㄧㄤ

別（恩）少・俄代衣少？

벤소 어데 있소？ [便所はどこにありますか。]

pien sou y tai i sou

Bién shǎo · é dài yī shǎo ?

*ベンソの標準語形は변소（便所）。崔鶴根（1990：646）によれば、咸鏡道・平安道・慶尚道・全羅道など広範に分布する方言形。

*そり舌音を持つ「ㄉㄕ」[ʂau]、「少」[shǎo]が、朝鮮語音소 [so] の転写に用いられている。

37. 河水在哪裡？

ㄍㄉㄨㄦ ㄉㄨㄦ ㄉㄨㄦ ㄉㄨㄦ
ㄍㄉㄨㄦ ㄉㄨㄦ ㄉㄨㄦ ㄉㄨㄦ

岡木（兒）衣・俄代衣少？

강물이 어데 있소？ [河はどこにありますか。]

kaŋ muə i y tai i sou

Gǎng mùr yī · é dài yī shǎo ?

* 어데 [ɔ-de] は어디에 [ɔ-di-e] の方言形。

* 소 [so] の歯茎音 [s] がそり舌音で音声転写されている。

38. 這裡有沒有木匠？

| 么 ㄍ | ㄞ ㄇㄠ (ㄞ) ㄩㄨ | ㄩㄠ

腰給愛・毛(克)數・衣少?

요기에 목수 있소? [ここに大工いますか。]

iəu ki aɪ mauk sə i ʂəu

Yāo gi ài · máok shù · yī shǎo ?

* 요기 [jo-gi] の標準語形は여기 [jɔ-gi]。

* 수 [su]、소 [so] の歯茎音 [s] がそり舌音で音声転写されている。

一般行軍用語

39. 請你帶一下路！

ㄍ | (ㄦ) ㄩㄠ (ㄇ) ㄉㄚㄚ ㄉㄧㄤ ㄉㄧㄤ ㄉㄨㄠ | ㄉㄠ

給(兒)早(姆)・打遼打主西要！

길 좀 다려다 주시오! [道案内してください。]

kiə tsəum ta liau ta tʂu ci iəu

Gir zǎom · dǎ liáo dǎ zhǔ xī yào !

* 吾 [tʃom] のスが歯槽音 [ts] で転写されている。3の解説*を参照のこと。

* 다려다については、35を参照のこと。

40. 請你給我找個帶路的！

ㄍ | (ㄦ) ㄉㄉㄚㄚ ㄏㄚㄚ (ㄦ) ㄩㄚ ㄉㄚㄚ (ㄇ) ㄇㄨ (ㄦ) ㄉㄚㄚ ㄉㄚㄚ ㄉㄨㄠ | ㄉㄠ

給(兒)安拿哈(兒)・沙拉(姆)木(兒)・插渣・主西要！

길안내할 사람을 찾아 주시오 ! [道案内してくれる人を探して下さい !]

kiə̚ an na xəə̚ sa lam muə̚ ts̄'a t̄sha t̄su ci̚ iou

Gir ân ná hâr · shâ lâm mûr · châ zhâ · zhû xî yào !

* 사람을의平唇母音一 [w] が円唇母音 [u] で転写されている。これは、その前の両唇音口 [m] の影響を受けて円唇母音化した音を、転写したものとみられる。

41. 哪裡是東方 ?

ㄗ ㄆㄚ ㄙ 『 ㄧ ㄉㄢ ㄕ ㄙ 『 ㄧ ㄧ ㄙ

俄訥早給 · 登早給要 ?

어나 쭈이 동쪽이요 ? [どちらの方が東ですか。]

v na tsou ki tyŋ tsau ki iou

É nà zǎo gi · dēng zǎo gi yào ?

* 어느 [ɔ-nw] が「ㄗ ㄆㄚ ㄙ」[v na]、「俄訥」[è nà] と音声転写されており、朝鮮文字で表記すると어나 [ɔ-na] となる。このような方言形は辞書では確認できないが、어느の古形 [ɔ-nΛ] の [Λ] が [a] に変化した形であると思われる。

* 쭈 [tʃ'ok] の口蓋音々 /tʃ'/ が歯槽音「ㄕ」[ts]、「早」[zǎo] の [z] で音声転写されている。

42. 那條路通哪裡 ?

ㄓ ㄔ 『 ㄧ (儿) ㄅ ㄕ ㄔ ㄕ ㄔ ㄕ ㄙ 『 ㄚ ㄔ ㄕ (ㄉ) 『 ㄧ ㄉ ㄧ ㄙ

折給 (兒) 樂 · 俄代老 · 嘎訥 (恩) 紿利要 ?

저 길로 어데로 가는 길이요 ? [あの道はどこに行く道ですか。]

tʂ̄v kiə̚ ly̚ v tai lōu ka nyən ki̚ li̚ iou

Zhé gir lè · é dài lǎo · gā nàn gi̚ lì yào ?

* 저 길로にみられる助詞豆の用法が理解できない。

43. 那條路是大路嗎？

ㄓㄔ ㄍㄧ(ㄦ) ㄉㄔ ㄍㄧ(ㄦ) ㄉㄔ ㄍㄧ(ㄦ) ㄉㄔ ㄍㄧ(ㄦ)

折給（兒）樂（恩）・肯給利要？

저 길은 큰길이요？ [あの道は大通りですか。]

tʂɿ kia̯ lvn kʰən ki li iou

Zhé gir lèn · kěn gi li yào ?

44. 路好走嗎？

ㄍㄧ ㄉㄔ ㄉㄔ ㄉㄔ ㄉㄔ ㄍㄧ ㄍㄧ

給利・早斯（姆）尼嘎？

길이 좋습니까？ [道はいいですか。]

ki li tsou sm ni ka

Gi li · zǎo sīm ní gā ?

* 좋습니까 [tʃot-s'w-ni-k'a] の子音スが口蓋音 [tʃ] ではなく歯槽音 [ts] で転写されている。

45. 能通驃馬嗎？

ㄇㄚ ㄉㄧ ㄍㄧ(ㄦ) ㄉㄨ ㄧ ㄉㄧ ㄍㄧ(ㄦ)

馬利・嘎（兒）數・衣斯（姆）尼嘎？

말이 갈수 있습니까？ [馬が通れますか。（中国語は「驃馬」（ラバと馬）となっている。）]

ma li ka̯e̯ su i sm ni ka

Máli · gār shù · yī sīm ní gā ?

46. 路兩側樹多不多？

ㄍㄧ(ㄦ) ㄍㄧ ㄉㄔ ㄉㄚ ㄇㄧ ㄍㄧ ㄉㄔ ㄉㄚ ㄉㄧ ㄍㄧ(ㄦ)

給（兒）嘎愛・拿木嘎・滿斯（姆）尼嘎？

길가에 나무가 많습니까？ [道端に木が多いですか。]

kiə ka aɪ na mu ka man sm ni ka
Gir gā ài · ná mù gā · mān sīm ní gā ?

47. 河面有多寬？

《尤 | 儿 ハ Y ㄩ Y ㄩ ㄕ (儿) ム (ハ) ㄩ | 《 Y
崗衣 · 耳馬拿 · 訥 (兒) 斯 (姆) 尼嘎？

강이 얼마나 넓습니까? [河幅はどれくらいですか。]
kaŋ i ə ma na nyr sm ni ka
Gǎng yī · ēr mǎ ná · nèr sīm ní gā ?

48. 河有多深？

《尤 | 儿 ハ Y ㄩ Y 《 | (ㄩ) ム ㄩ | 《 Y
崗衣耳馬拿 · 紿 (布) 斯尼嘎？

강이 얼마나 깊습니까? [河はどのくらい深いですか。]
kaŋ i ə ma na kip s ni ka
Gǎng yī ēr mǎ ná · gib sī ní gā ?

* 깊습니까 [kip-s'um-ni-k'a] は、注音符号では「《 | (ㄩ) ム ㄩ | 《 Y」[kip s ni ka]、直音転写では「紿 (布) 斯尼嘎」[gib sī ní gā] となっており、[m] 音が転写されていない。47の넓습니까では「ㄕ (儿) ム (ハ) ㄩ | 《 Y」[nvr sm ni ka]、「訥 (兒) 斯 (姆) 尼嘎」[nèr sīm ní gā] のように、同様の [m] 音が「(ハ)」、「(姆)」を用いて転写されていることからも、ケアレスミスだと思われる。

*「崗衣」(강이) と「耳馬拿」(얼마나) の間に中黒 (・) が挿入されるべきだが、ケアレスミスで挿入されていない。

49. 河水急不急？

《尤 ㄕ (儿) ハ Y ㄕ Y ㄕ (儿) ハ ㄕ (儿) ㄩ | 《 Y
崗愛 · 木 (兒) 沙利 · 爸樂 (姆) 尼嘎？

강의 물살이 바릅니까? [河の流れは速いですか。]

kong ai muə̯ sha li pa lym ni ka

Gǎng ài · mùr shā li · bà lèm ní gā ?

50. 前面有橋嗎?

ㄚタメ カメ カ ㄚ カ | 《ㄚ | ム (ㄇ) ㄩ | 《ㄚ

啊撲路・打利嘎・衣斯(姆)尼嘎?

앞으로 다리가 있습니까? [前方に橋がありますか。]

a pʰu lu ta li ka i sm ni ka

Ā pū lù · dā li gā · yi sim ní gā ?

* - 우루の標準語形は - 으로。前にある両唇音 ㅍ [pʰ] の影響によって、平唇母音 으 [ɯ] が円唇母音化して 우 [u] となり、さらに豆 [ro] が旱 [ru] に変化した形。咸鏡道方言で、両唇音の語幹末音の影響を受け、形態素境界のあとにくる - 으 [ɯ] で始まる語尾や助詞が円唇母音化して、우 [u] に変わる同化現象を示す一例。

51. 叫什麼橋名?

ㄎㄚ カ | ㄧ ㄌㄢ ㄇ | ㄇㄨ (ㄕ) ㄊ | ㄧ ㄾ

打利・衣樂米・木(俄)西要?

다리 이름이 무엇이요? [橋の名前は何と言いますか。]

ta li i ly mi muŋ ci iau

Dā li · yi lè mǐ · mùé xī yào ?

52. 什麼橋?

ㄇㄨ ㄞ ㄎㄚ カ | ㄧ ㄾ

무슨 다리요? [何という橋ですか。]

mu sən ta li iau

Mù shèn · dā li yào ?

53. 橋上能通汽車嗎？

ㄉㄚ ㄌㄧ ㄉㄧㄥ ㄔㄨㄥ ㄉㄧㄥ ㄍㄚ ㄍㄚ (ㄦ) ㄉㄨㄥ ㄧ ㄉㄨㄥ (ㄇ) ㄉㄧ ㄍㄚ
打利愛 · 札動差嘎 · 嘎 (兒) 數衣斯 (姆) 尼嘎？

다리에 자동차가 갈수 있습니까? [橋を自動車が通れますか。]

ta li ai tsha tuyŋ tʂ'a ka kae̤ ſu i sm ni ka

Dă li ài · zhá dòng chà gā · gār shù yī sīm ní gā ?

54. 前面叫什麼山？

ㄚ ㄉㄧㄝ ㄇㄨㄥ ㄉㄨㄥ ㄉㄧ ㄧㄉ

啊呸 · 木甚山尼要？

앞에 무슨 산이요? [前方は何という山ですか。]

a p̚ei mu sən ſan ni iau

Ā pēi · mù shèn shān ní yào ?

* 앞에 무슨 산이요? という朝鮮語は不自然。「앞이 무슨 산이요?」を転写しようとしたものと思われる。

55. 山上有樹嗎？

ㄉㄨㄥ ㄉㄧㄥ ㄚ ㄇㄨㄥ ㄧ ㄉㄨㄥ (ㄇ) ㄉㄧ ㄍㄚ

山愛 · 拿木 · 衣斯 (姆) 尼嘎？

산에 나무 있습니까? [山に木がありますか。]

ſan ai na mu i sm ni ka

Shān ài · ná mù · yī sīm ní gā ?

56. 山上有路嗎？

ㄉㄨㄥ ㄉㄧㄥ ㄍㄧ ㄌㄧ ㄧ ㄉㄨㄥ (ㄇ) ㄉㄧ ㄍㄚ

山愛給里 · 衣斯 (姆) 尼嘎？

산에 길이 있습니까? [山に道がありますか。]

shan ai ki li i sm ni ka

Shān ài gī lǐ · yī sīm ní gā ?

*ケアレスミスで「山愛」(산에)と「給里」(길이)の間に中黒(・)が挿入されていない。

57. 嶺陵不陡?

《么 《牙 《丫 《丫 夂丫 カメケ ㄦ | 《丫

搞蓋嘎·嘎怕倫尼嘎?

고개가 가파릅니까? [峠は険しいですか。]

kou kai ka ka pʰa luən ni ka

Gāo gài gā · gā pà lún ní gā ?

*ガパ릅니까 [ka-pʰ-a-rwum-ni-k'a] の [rwum] が注音字母では「カメケ」[luən]、直音転写では「倫」[lún]と書かれ、[m] 音であるべき部分が[n] 音で転写されている。

58. 山路驃馬可以走嗎?

𠂇 《丨 (儿) 𠂇 口丫 カ | 《丫 (儿) アメ | ム (ㄇ) ㄦ | 《丫

山給(兒)愛·馬利·嘎(兒)數衣斯(姆)尼嘎?

산길에 말이 갈수 있습니까? [山道を馬が通れますか。(45と同様、中国語は「驃馬」(ラバと馬)となっている。)]

shan giə ai ma li kaə shu i sm ni ka

Shān gir ài · mǎ lì · gār shù yī sīm ní gā ?

59. 離鐵路還有多遠?

丨么 《丨 𠂇 𠮾 𠮾 (儿) カ么 《丫 𠮾 ㄇㄚ ㄭㄚ ㄇㄛ (ㄇ) ㄦ | 《丫

要給捨·扯(兒)勞嘎·兒馬拿磨(姆)尼嘎?

요기서 철로가 얼마나 멉니까? [ここから鉄道の線路までどれくらい遠い

ですか。]

iou ki sy tsʰyə̃ lə̃ ka ã ma na mom ni ka

Yào gi shě chēr láo gā ér mǎ ná mó̃m ni gā ?

*요기 [jogi] の標準語形は여기 [jo-gi]。

*밉니까 [mɔ̃m-ni-k'a] の非円唇母音 + [ɔ] が、その直前の両唇音 [m] の影響で円唇母音化した + [o] が発音転写されている。

*ケアレスミスで「兒馬拿」(얼마나) と「磨（姆）尼嘎」(밉니까) の間に中黒 (・) が挿入されていない。

購置東西時用語 [物品を買い入れる時のことば]

60. 那裡有菜？

ㄔㄅㄔㄅ (ㄦ) ㄔㄅ (ㄦ) ㄕㄠ 《ㄚ ㄧ ㄈㄨ (ㄇ) ㄩ ㄧ 《ㄚ

俄德（愛）・蔡（愛）紹嘎・衣斯（姆）尼嘎？

어데 채소가 있습니까？[どこに野菜がありますか。]

ㄚ tʂ-ai tsʰai-ai ʂou ka i sm ni ka

É dé ài · cài-ài shào gā · yī sīm ní gā ?

61. 這裡有些什麼菜？

ㄧㄉ 《ㄧ ㄦ ㄇㄨㄙ (ㄣ) ㄔㄅ (ㄦ) ㄕㄠ 《ㄚ ㄧ ㄈㄨ (ㄇ) ㄩ ㄧ 《ㄚ

腰給愛・暮斯（恩）蔡（愛）紹嘎・衣斯（姆）尼嘎？

요기에 무슨 채소가 있습니까？[ここにどんな野菜がありますか。]

iou ki ai mu sn tsʰai-ai ʂou ka i sm ni ka

Yào gi ài · mù sīn cài-ài shào gā · yī sīm ní gā ?

*요기 [jo-gi] の標準語形は여기 [jo-gi]。

62. 多少錢一斤？

ㄏㄉ 《ㄣ (ㄣ) ㄩㄚ (ㄦ) ㄦ ㄇㄚ (ㄇ) ㄩ ㄧ 《ㄚ

漢跟（恩）納（愛）耳馬（姆）尼嘎？

한근에 얼맙니까？ [一斤幾らですか。]

xan kənn na ai ə mam ni ka

Hàn gēnn nà ài ēr mǎm ní gā ?

* 한근에 [han-gu-ne] の形態素境界に [n] 音が介入した한근네 [han-gun-ne] という形で、音声転写がなされている。17にも類例がみられる。

* ケアレスミスで「漢跟（恩）納」（한근에）と「耳馬（姆）尼嘎」（얼맙니까）の間に中黒（・）が挿入されていない。

63. 有秤嗎？請借用一下！

ㄓㄤ ㄨ (兒) ㄐㄾ (口) ㄅㄧ ㄉㄧ ㄉㄨㄤ ㄉㄧ ㄉ

折烏（兒）・早（姆）・比利組希腰！

저울 좀 빌리주시오！ [ちょっと秤を貸してください。]

tʂv uə tsəum pi li tsu ci iou

Zhé wūr · zàom bì lì zǔ xī yāo !

* 빌리주시오の標準語形は빌려주시오。

64. 請打一條子！（發票）

ㄧㄥ ㄉㄨㄤ ㄓㄤ ㄉㄤ ㄉㄤ ㄉㄤ ㄉㄤ ㄉㄤ

營素證・捨組希腰！

영수증 써주시오！ [領収証を書いて下さい！]

iŋŋ su tʂvŋ ſv tsu ci iou

Ying suì zhèng · shě zǔ xī yāo !

65. 能不能賤一些？

ㄐㄾ (口) ㄉㄨㄤ ㄍㄩ ㄏㄚ (兒) ㄉㄨㄤ ㄉㄤ ㄉㄤ ㄉㄤ

早（姆）・奴給哈（兒）素・俄斯（姆）尼嘎？

좀 높게할수 없습니까？ [少し安くしてもらえませんか。]

tsaum nu kei xae su·y sm ni ka

Zǎom nú gěi hār sù é sīm ní gā ?

***눅게** /nuk-k'e/ は「ヲメ ㄍへ」[nu kei]、「奴給」[nú gěi] と転写され、音節末子音 /k/ は音声転写に反映されていない。

***歛 [ɔp]** の音節末子音 [p] が音声転写に反映されていない。しかし、105では歛 [ɔp] を「ㄢ (ㄣ)」[yঁp]、「俄 (布)」[éb] のように [p] を反映させた発音転写をおこなっており、転写法に不統一がみられる。

***눅다** (눅개は副詞形) は舛다 (安い) の咸鏡道方言だが、中国朝鮮語や朝鮮民主主義人民共和国の朝鮮文化語では舛だとともに標準語として用いられる。

66. 你的價格貴了些。

ㄩ ㄦ ㄚ ㄇ (ㄇ) ㄩ ㄧ ㄉ ㄚ ㄩ

比沙 (姆) 尼達。

비쌉니다. [あなたの言い値は少し高いです。]

pi sam ni ta

Bī shām nidā.

67. 請找給找錢。

ㄩ ㄚ ㄇ ㄨ ㄩ ㄧ ㄉ ㄉ ㄉ (ㄉ) ㄉ ㄚ ㄉ ㄨ ㄉ ㄉ ㄉ

那暮基・道 (恩) 耳・組希腰。

나무지 돈을 주시오. [お釣りを下さい]

na mu tci taun a tsu ci iau

Nà mù jǐ dào èr zǔ xī yāo.

*나무지の標準語形は나머지。金泰均 (1986 : 114) によれば、나무지는咸鏡道方言。

一般對敵（李匪）用語 [敵（李承晩の匪賊）に対する一般用語]

68. 繳槍不殺！

テメム ケヤく | ハタツメ 《 | ハタツケケヤ

銃巴妻免・住給基・安嫩達！

총 바치면 죽이지 않는다！ [銃を渡せば殺さない！]

tʂʰuyŋ pa tɕʰi mian tʂu ki tɕi an nən ta

Chòng bā qī miǎn zhù gi jí ān nèn dá !

69. 投降吧！

テメ 厂尤 厂尤 カヤ

土航哈啦！

투항하라！ [投降しろ！]

tʰu xəŋ xa la

Tǔ háng hā la !

70. 我們優待俘虜。

メカ | ロケタム カム日 (儿) メカモ 厂ヲ カヤ

烏里嫩・炮勞日 (兒)・烏代漢達。

우리는 포로를 우대한다。[我々は捕虜を大切に扱う。]

u li nən pʰau lau zə̄ u tai xan ta

Wū lǐ nèn · pào láo rì wū dài hàn dá.

71. 你們為誰打仗？

カ尤 T | ケカセ カメケ ロメ 《メ日 (儿) ハ 厂モアセアヤメロメ 《

丫

黨信得倫・奴古日 (兒)・於害捨・沙烏嫩嘎？

당신들은 누구를 위해서 싸우는가? [お前たちは誰のために戦っているのか。]

tan ciən tʂ luən nu ku zə̄ y xai ʂ̄ ʂ̄ u nən ka
Dǎng xìn dé lún · nú gǔ rir · yú hái shě · shā wū nèn gā ?

72. 你們為美帝賣命！

ㄉㄉㄉ ㄊㄧㄉ ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ
ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ
黨信得倫・米捷日(兒)・於嗨捨・希(恩)明耳・巴侵達！

당신들은 미제를 위해서 신명을 바친다! [お前たちは米帝のために身命をささげているのだ!]

tan ciən tʂ luən mi tɕie zə̄ y xai ʂ̄ ciŋ miŋŋ a pa tɕʰiən ta
Dǎng xìn dé lún mǐ jié rir yú hái shě xin míng ēr bā qīn dá !

*母音ㄉに対し、「ㄉ」[y]、「於」[yu] を用いて、单母音 [ü] を示す音声転写がなされている。

73. 你們為李承晚賣命！

ㄉㄉㄉ ㄊㄧㄉ ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ
ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ
黨信得倫・衣勝滿兒・於嗨捨・希(恩)明耳・巴侵達！

당신들은 이승만을 위해서 신명을 바친다! [お前たちは李承晩のために身命を捧げているのだ!]

tan ciən tʂ luən i ʂ̄ŋ man a y xai ʂ̄ ciŋ miŋŋ a pa tɕʰiən ta
Dǎng xìn dé lún · yī shèng mǎn er · yú hái shě · xin míng ēr · bā qīn dá !

74. 快繳槍吧！

ㄉㄚㄚ(兒) ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ ㄉ ㄉㄉㄉ
拔(兒)利・銃兒巴妻拉！

빨리 총을 바치라 ! [早く銃をよこせ !]

paə̄ li · tsʰuyŋ ā pa tɕʰi la

Bár li · tsʰuəŋ ér bā qī lá !

75. 繖槍就是生路 !

彳メル ウツイ ハシメル ロイ ラ ハツイ (ル) ハメル ハツイ

銃兒・巴妻免・殺(兒)數衣達 !

총을 바치면 살수 있다 ! [銃を渡せば殺さない (生きることが出来る).]

tsʰuyŋ ā pa tɕʰi mian shā su i ta

Chòngr · bā qī miǎn · shār shù yī dá !

* 있다 [it-t'a] の [t] が音声転写に反映されていない。

76. 舉起手來 !

ハム (ム) ハセ ハセ ハツイ

少(恩) 得惹拉 !

손들어라 ! [手を上げろ !]

saun tʂ y la

Shǎn dé rě lá !

77. 不要怕 !

ロメ ハセ メセ ハツイ ハツイ (ル) ハツイ

暮捨握・哈基馬(兒) 拉 !

무서워 하지 말라 ! [こわがるな !]

muʂ y uo xa tɕi maā la

Mù shé wò · hā jī mǎr lá !

78. 那裡還有你們的人 ?

ハタチ ハタチ ハタチ ハタチ ハタチ ハタチ (ハ) ハタチ ハタチ ハタチ (ハ) ハタチ ハタチ

1. ヲム《ヤ

黨信瓜・嘎特（恩）撒拉米・啊基（克）歌代印能嘎？

당신과 같은 사람이 아직 어데 있는가？〔お前たちのような人間が、まだどこかにいるのか。〕

taŋ ciən kua ka tʰyən sa la mi a tɕik ou tai iən nyŋ ka

Dǎng xìn guā · gā tè-ēn sā lā mī · ā jík ôu dài yìn néng gā ?

*「啊基（克）」（ 아직）と「歌代」（어데）と「印能嘎」（ 있는가）の間に中黒（・）が挿入されていない。

79. 不准動！

メ(口) ハイ《リ ハイ・ロ》 カヤ

烏（姆）・基給基・馬拉！

움직이지 마라！〔動くな！〕

um tɕi ki tɕi · ma la

Wūm jī gi jī mǎ lā !

*「烏（姆）」（음）と「基給基」（직이지）の間に不要な中黒（・）が挿入されている。

80. 一個跟一個走！

カヤ カヤ《ヤ ヨヤ

大拉・嘎渣！

따라가자！〔(一人ずつ) ついて来い！〕

ta la ka tʂa

Dà lā gā zhā !

81. 跟我來！

ヲヤ カヤ カヤ メヤ

那大拉瓦！

나 따라와 ! [俺について来い !]

na ta la ua

Nà dà là wǎ !

*「那」(나) と「大拉瓦」(따라와) の間に中黒(・)が挿入されていない。

一般政治用語 [一般政治用語]

82. 中朝人民是一家。

ㄓㄨㄥ ㄉㄧㄢ ㄧㄤ ㄧㄬ ㄇㄧㄢ ㄧㄤ
中早引民恩 · 韓基比要。

중조인민은 한집이요。[中朝人民は同じ家族だ。]

tʂuyŋ̩ tsəu iən miən ən xan tɕi pi iəu

Zhōng zǎo yǐn mǐn ēn · hán jī bǐ yào.

83. 中朝人民團結萬歲！

ㄓㄨㄥ ㄉㄧㄢ ㄧㄤ ㄧㄬ ㄉㄧㄢ ㄍㄧ ㄦ ㄇㄧㄢ ㄩㄢ
中早引民胎給 (兒) · 满塞！

중조인민단결 만세！[中朝人民團結万歳！]

tʂuyŋ̩ tsəu iən miən tan kia, man sai

Zhōng zǎo yǐn mǐn dān gir mǎn sài !

84. 全世界人民團結萬歲！

ㄓㄨㄥ ㄉㄧㄢ ㄩ ㄱ ㄉㄧㄢ ㄍㄧ ㄦ ㄇㄧㄢ ㄩㄢ
真塞給 · 引民胎給 (兒) 满塞！

전세계 인민단결 만세！[全世界人民團結万歳！]

tʂən sai kei iən miən tan kia, man sai

Zhēn sài gěi · yǐn mǐn dān gēir mǎn sài !

*「引民膽給（兒）」（인민단결）と「滿塞」（만세）の間に中黒（・）が挿入されていない。

85. 中國人民志願軍萬歲！

ㄓㄨㄥ ㄍㄨㄧㄥ ㄇㄧㄢ ㄉㄧㄤ 《ㄨㄣㄉㄧㄤ ㄇㄢㄞ
中古引民機溫滾・滿塞！

중국인민지원군 만세！ [中国人民支援軍万歳！]

tʂuŋ˥ ku iən miən tɕi uən kuən man sai

Zhōng gǔ yīn mǐn jī wēn gǔn·mǎn sài！

* 국 [guk] の [k] が音声転写に反映されていない。

86. 朝鮮人民軍萬歲！

ㄔㄠ ㄕㄢ ㄧㄤ 《ㄨㄣㄉㄧㄤ ㄇㄢㄞ
早深引民滾・滿塞！

조선인민군 만세！ [朝鮮人民軍万歳！]

tsəuʂən iən miən kuən man sai

Zǎo shēn yǐn mǐn gǔn·mǎn sài！

87. 中國共產黨萬歲！

ㄓㄨㄥ ㄍㄨㄧㄥ ㄉㄧㄤ 《ㄨㄣㄉㄧㄤ ㄇㄢㄞ
中古共山黨・滿塞！

중국공산당 만세！ [中国共产党万歳！]

tʂuŋ˥ ku kuŋ˥ ŋsan tʂən man sai

Zhōng gǔ gòng shān dǎng·mǎn sài！

* 중국 [tʃuŋ-guk] の語末子音 [k] が音声転写に反映されていない。

88. 朝鮮勞動黨萬歲！

ㄔㄠ ㄉㄧㄤ ㄌㄠㄉ 《ㄨㄣㄉㄧㄤ ㄇㄢㄞ
早勞動黨・滿塞！

早深勞動黨・滿塞！

조선로동당 만세！ [朝鮮労働党万歳！]

tsən sən lau tuyŋ təŋ man sai

Zǎo shēn láo dòng dǎng · mǎn sài

89. 毛澤東主席萬歲！

모택동주석 만세！ [毛澤東主席万歳！]

毛太動主捨・滿塞！

모택동주식 만세！ [毛澤東主席万歳！]

mou tʰai tuyŋ tsu sy man sai

Máo tài dòng zhǔ shě · mǎn sài !

*택 [tʰek] と식 [sək] の [k] が音声転写に反映されていない。25の解説*を参照のこと。

90. 金日成將軍萬歲！

김일성장군 만세！ [金日成將軍万歳！]

給米（兒）盛掌滾・滿塞！

김일성장군 만세！ [金日成將軍万歳！]

ki miə syŋ tsəŋ kuən man sai

Gi mǐ shèng zhǎng gǔn · mǎn sài !

91. 斯大林大元帥萬歲！

스탈린 대원수 만세！ [スターリン大元帥万歳！]

斯大林・戴溫數・滿塞！

쓰딸린 대원수 만세！ [スターリン大元帥万歳！]

s ta liən tai uən ſu man sai

Sī dàlín · dài wēn shù · mǎn sài !

*「スターリン」は韓国では스탈린と綴る。

* 本小冊子が作られた当時、朝鮮民主主義人民共和国では쓰랄린と表記していた。1955年に平壤で制定された「조선어외래어표기법」(朝鮮語外来語表記法)でも、ロシア語子音c /s/ は сталин (スターリン) のように子音の前、および語末では濁音ך /s'/ で転写するように定められていた。その後、1969年に制定された「외국말적기법」(外国語表記法)では、ロシア語子音c /s/ は母音の前とbの前でのみ濁音ך /s'/ で転写し、それ以外では平音ㅅ /s/ で転写するように定められている。

一般用語單字、詞及短語 [一般用語単語、語句及びフレーズ]

92. 老大爺

ㄏㄚㄉㄚㄉㄜ ㄩㄧ

哈拉伯擠

할아버지 [おじいさん]

xa la po tci

hāla bó jǐ

93. 爹爹

啊伯擠

ㄚㄉㄜ ㄩㄧ

아버지 [おとうさん]

a po tci

ā bó jǐ

94. 老大娘

ㄏㄚ(儿) ㄇㄛ ㄉㄟㄧ

哈 (兒) 摸尼

할머니 [おばあさん]

xaə̄ mo ni

hār mō ni

95. 媽媽

さ ハ イ ヲ !

俄摸尼

어머니 [おかあさん]

ɤ mo ni

é mō ni

96. 大嫂

ヤ ヨ サ ハ イ ヲ !

啊折摸尼

아즈머니 · 아저머니 [おばさん]

a tʂɤ mo ni

ā zhé mō ni

* 標準語形は 아주머니。崔鶴根（1990：274～275）には、方言形として아즈마니（咸鏡道・平安道）、아즈마이（咸鏡道）、아저마이（黃海道）、아즈미이（江原道）などが記載されている。

97. 男同志

ヲ ラ ハ ム カ メ ム ハ メ

南（姆）盛凍木

남성동무 [男の同志]

nanm şyŋ tuyŋ mu

nánm shèng dòng mù

98. 女同志（姑娘通用）

丨幺 ヲム カメム ハメ

腰盛凍木

여성동무 [女の同志（未婚の女性に用いる）]

iou ſyŋ tuŋŋ mu

yāo shèng dòng mù

99. 你好

ヲヨイム フユトミ (ム) ヲイ フユ

安寧哈西（姆）尼嘎

안녕하십니까？ [お早うございます・今日は・今晚は]

an niŋŋ xa cim ni ka

ān níng hā xīm ní gā

* 안녕 [an-njɔŋ] (安寧) に対する直音転写「安寧」[ān níng] を朝鮮文字で表記すれば、안닝 [an-niŋ] と不自然な形になる。対訳朝鮮語「安寧」と同じ漢字を直音転写に用いた結果だと思われる。注音字母「ヲイム」[an niŋŋ] では안녕となる。

100. 我們

メカイ カサ (ル)

烏里得（兒）

우리들 [われわれ]

u li tʂə

wū lǐ dér

101. 你們

カカイ ドイ カサ (ル)

黨信得（兒）

당신들 [あなたがた]

tɕəŋ ciɛn tʂə

dǎng xìn dér

* 당신は元来、聞き手を高めていう語で、夫婦間でお互いを呼び合うときにも用いられる。また、筆者が2000年に平壌を訪問した時、貿易部次官が行った私たち日本側代表団に対する挨拶で、「皆様方」という意味での 당신들という語を連発していた。

102. 他們

坐坐 戸丫 カヤ (门户网站) カ坐 (兒)

折沙拉 (姆) 得 (兒)

저 사람들 [彼ら、彼女ら]

tʂəŋ ŋa lam tʂə

zhé shā lām dér

103. 謝謝你

《么 ハヤ 戸坐 (门户网站) ㄦ | カヤ

高馬捨 (姆) 尼打

고맙습니다. [ありがとうございます。]

kau ma ŋym ni ta

Gāo mǎ shěm ní dǎ.

* 맙 [map] に対して、注音符号ではハヤ [ma]、直音転写では「馬」[mǎ] となっており、音節末子音 [p] が音声転写に反映されていない。

104. 有嗎？

丨 戸坐 (门户网站) ㄦ | ㄍㄚ

衣捨 (姆) 尼嘎？

있습니까？ [ありますか。]

i sym ni ka
Yi shēm ní gā ?

105. 没有
ㄕ (ㄩ) 戸么
俄 (布) 少
 없소. [有りません。]
yip sou
Éb shǎo.

106. 好嗎？
ㄓㄔ ㄕ (ㄇ) ㄉㄧ ㄍㄚ
趙捨 (姆) 尼嘎？
좋습니까? [いいですか。]
tshau sym ni ka
Zhào shēm ní gā ?

107. 不好
ㄉㄚ ㄔㄨㄞ ㄔ
拿布奥
나쁘오. [よくないです。]
na pu ou
Ná bù ào.

*標準語形は나쁘다。金泰均（1986：116）によれば、나쁘다는咸鏡道方言。また、崔鶴根（1990：1658）によれば全羅道方言。両唇音ㅌ [p'] に調音同化して、直後の平唇音ㅡ [w] が円唇化してㆁ [p'w] が卑 [p'u] と変化したもの。

108. 懂嗎？

丫 𠂊 | (ㄇ) ㄉ | ㄍㄚ

啊西（姆）尼嘎？

아십니까？ [おわかりですか。]

a cim ni ka

Â xīm ní gā ?

109. 不懂

ㄇㄠ ㄌㄢ ㄩ

冒勒奥

몰라오。[わかりません。]

mau ly au

Mào lè ào.

* 몰라 [mol-la] の音節末子音 [l] が音声転写に反映されていない。

110. 吃飯吧

尼 𠂊 尼 𠂊 丫 𠂊 (𠂊) 𠂊 𠂊 𠂊

累擠・雜（布）數西要

진지 잡수시오。[お食事をなさってください。]

tɕien tɕi tsap šu ci iou

Jin ji · zab shu xi yyu.

111. 吃過了

ㄇㄛ ㄍㄝ ㄕ ㄞ (ㄇ) ㄉ | ㄉㄚ

摸割捨（姆）尼達

먹었습니다。[食べました。]

mo kɤ şɤm ni ta

Mō gē shěm ní dá.

112. 是 (對)

幺 (儿) ム (ㄇ) ㄩ 丨 ㄻㄚ

奥 (兒) 斯 (姆) 尼達

옳습니다. [その通りです。]

ouə̥ sm ni ta

Àor sīm ní dà.

113. 不對

幺 (儿) ㄎ 丨 ㄩ ㄻ ㄻㄚ

奥 (兒) 欺・安斯 (姆) 尼達

옳지 않습니다. [正しくありません。]

ouə̥ tɕʰi̥ an sm ni ta

Àor qī·ān sīm ní dà.

114. 不是

ㄚ ㄩ 丨 (ㄇ) ㄩ 丨 ㄻㄚ

啊尼 (姆) 尼達

아닙니다. [ちがいます。]

a nim ni ta

À nim ní dà.

115. 火柴

戸ム 丨 央

生洋

성양 (성냥の方言形か?) [マッチ]

ʂyŋ iŋ

shēng yáng

*崔鶴根 (1990: 917) によれば、성양は咸鏡南道・慶尚道方言で、標準語

形は성냥。

*咸鏡道方言では、語中で母音もしくは有声子音と、母音ㅑ [ja]、ㅑ [jɔ]、ㅕ [jo]、ㅕ [ju]、ㅣ [i] の間にある [n] 音が脱落する音韻現象がみられる。例えば、청년 [tʃʰoŋ-njan] (青年) の咸鏡道方言は청연 [tʃʰoŋ-jjan]。

116. 燈

かム

燈

등 [明かり、ランプ]

tʌŋ

dēng

117. 缶頭

《ヲアロ!セ

干子滅

간즈메 [缶詰]

kan ts mič

gàn zǐ miè

* 日本語「缶詰（かんづめ）」からの音借語。

118. 掃帚

ケトモヤカメ

比扎路

빗자루 (비자루?) [ほうき]

pi tṣa lu

bǐ zhā lù

* 9で指摘したように、音節末子音 [t] は音声転写には反映されないの

で、ここでも<「**ヰ**」[pit] は「**ヶ**」[pi]、「**比**」[bi] と転写されている¹⁴。

119. 水桶

ㄇㄨㄞ (ル) ㄉㄨㄥ

木 (兒) 通

물통 [水桶、バケツ]

muə̯ tʰuŋŋ

mùr tōng

120. 碗

ㄉㄚㄚ ㄉㄚㄚ (ル)

沙巴 (兒)

사발 [碗、鉢]

sa paa̯

shā bār

* 사 [sa] の歯茎音 [s] がそり舌音 [ʂ] で音声転写されている。

14 「朝鮮語文法」(1949年、朝鮮民主主義人民共和国朝鮮語文研究会、平壤。1950年11月に中国の延辺教育出版社で復刻版刊行)では、「朝鮮語新綴字法」にのっとり、사이시夭を廃棄した正書法に基づき、たとえば従来の「ヰヰ」[pit-pal] (雨脚)、젓가락 [ʃöt-k'a-rak] (箸)、「炙등」[kʰot-twun] (鼻筋) は絶音符「」を用いて「비·ヰ」、「저·가락」、「코·등」と表記していた。この場合、発音は従来と同様に [pi-p'al]、[ʃöt-k'a-rak]、[kʰo-t'wun] となる。ただ、本小冊子『常用朝鮮語言手冊』では漢字語の頭音法則を廃棄した形態主義表記は「리인민위원회 里人民委員会」しか見られないことから、「朝鮮語新綴字法」(1948年1月15日に北朝鮮朝鮮語文研究会において制定)の影響は極めて限定的であったとみられる。なお、北朝鮮での漢字語における頭音法則の廃棄は、「労働新聞」に1947年6月6日、7日、8日、10日の4回にわたって掲載された金寿卿の論文「朝鮮語學會『한글 맞춤법 통일안』中에서 改定할 몇 가지 其一 漢字語表記에 있어서 頭音し及已에 對하여」において、もっとも最初に提起された。また、この論文の末尾には1947年5月30日の日付が付されている。

121. 板櫈

丨 ハ イ

衣雜

의자 [ベンチ、(細長い)腰かけ]

i tsa

yī zá

*語頭の의は単母音 [i] で音声表記がなされている。なお、2つの単母音 [u] と [i] を続けて1音節で発音する二重母音의 [ui] は、綴り字発音とみられる。

*자 [tʃa] の硬口蓋音 /tʃ/ が歯茎音 ハ [ts]、雜 [za] で音声転写されている。蔡玉子（2005：21）や宮下尚子（2007：68）によれば、中国延辺地区の朝鮮語では、他の方言で硬口蓋音に属する／ス、ツ、ヌ／が歯茎口蓋破擦音 [ts/dz, tsʰ, ts'] で実現し、母音 [i] および半母音 [j] の前では硬口蓋音 [tʃ, tʃʰ, tʃ'] で実現するという。

122. 筷子

ㄓㄔ ㄍㄚ ㄉㄚ

折嘎拉

젓가락 (젓가락?) [箸]

tʂy ka la

zhé gā lā

*118を参照のこと。

123. 洗臉盆

ムホ 戸メ ㄉホ 丨 ㄚ

塞數呆呀

세수대야 [洗面器]

sai shu tar ia

sè shǔ dāi ya

124. 飯桌子

ㄻㄚ (ㄻ) 戸尤

巴 (布) 賞

밥상 [お膳、食膳]

pap ſanŋ

bāb shǎng

125. 辨公桌

ㄺㄧㄢㄻ (ㄻ) 戸尤

切 (克) 賞

책상 [事務机]

tɕʰie̞k ſanŋ

qiēk shǎng

* 상 [san] の [s] が、「ア尤」[ſanŋ]、「賞」[shǎng] のようにそり舌音
[s] で音声転写されている。

126. 鍋子

ㄍㄚ ㄇㄚ

嘎馬

가마 [釜]

ka ma

gā mǎ

127. 廁所

ㄻㄧㄢㄻ ㄩㄩ

別 (恩) 少

벤소 [便所]

pien sau

bién shǎo

*標準語形は변소 [pjɔn-so]。崔鶴根（1990：646）によれば、ベンソ [pen-so] は咸鏡道・平安道・慶尚道・全羅道方言。

128. 鐵罐

ヶ丫 (ヶ) ㄓㄨ

巴 (布) 逐

밥죽 · 밥竽 [しゃもじ]

pap tṣu

bāb zhú

*標準語形は밥주걱。金泰均（1986：243）によれば、咸鏡北道方言は밥죽と밥竽。また、崔鶴根（1990：743）によれば、밥죽 [bap-tʃ'uk] は慶尚北道・全羅南道方言、밥竽 [bap-tʃ'uk] は江原道・全羅南道方言（밥죽と밥竽は表記が異なるが、同じ発音－引用者注）。本小冊子では、159の 산중턱や258の저녁のように、音節末音 [k] が音声転写に反映されていない例がみられることから、同様に音節末音 [k] を反映させないで、音声表記されたものと思われる。

129. 繩子

ㄉㄠ ㄍㄣ

鬧跟

노끈 [繩]

nau kən

nào gēn

130. 钉子

ノム カタ《メ

毛打鼓

모다구 [釘]

mō ta ku

máo dǎ gǔ

*標準語形は吳（釘）。崔鶴根（1990：869）によれば、モダ구は咸鏡道・黃海道・平安道方言。

131. 鎌刀

カタ

娜

ナ [鎌]

na

nà

*ナ [nat] の音節末子音 [t] が音声転写に反映されていない。

132. 錘子

トトカタカ

張道理

장도리 [金づち、ハンマー]

tṣar̚ təu li

zhāng dào lì

133. 木頭

カタノメ

拿木

나무 [木、材木]

na mu

nó mù

134. 約子

アメ《ヤ カヤ》

數嘎拉

숟가락 [さじ、スプーン]

su ka la

shù gā lā

* 순가락 [sut-k'a-rak] の音節末音 [t] と [k] が音声転写に反映されていない。ただし、調音位置同化を起こすと、規範発音ではないが、[suk-k'a-rak] と発音されることがよくある。また本小冊子では、8の「식구」[sik-k'u] の例にもみられるとおり、音節末子音 [k] が音声転写に反映されないことがある。以上のことから、ここでの音声転写「アメ《ヤ カヤ》」[su ka la] は、[t] 音ではなく [k] 音が音声転写に反映されていないと判断することも可能である。

135. 斧

カム《メ

道顧

도꾸・도구 [おの]

tōu ku

dào gù

* 標準語形は도끼。金炳済（1980：324）によれば、도꾸は慈江道・平安道・江原道・慶尚道・全羅道方言で、도구は江原道・慶尚道方言。また、崔鶴根（1990：841）によれば、도구や도꾸は江原道・慶尚道・忠清道方言。

136. 錠

玄々 (ケ)

套 (布)

唇 [のこ]

tʰaup

tàob

137. 鋼刀

ㄓㄚㄤ ㄉㄨㄞ

銅都

작두 [押切]

tʂa tu

zhá dōu

* 音節末子音 ㄭ [k] が音声転写に反映されていない。なお、[k] が脱落した자두 [tʃa-du] のような方言形の存在は確認できない。

138. 鑿

ㄍㄻ (ル)

根 (兒)

ㄩ [のみ]

kənə

gēnr

* 北京語には音節末に子音 [l] が立たないため、朝鮮語の音節末子音 [l] はル化を表示する場合に用いられる「(ル)」、「(兒)」で音声転写がなされている。そして、「kənə」、「gēnr」の場合、ル化音の発音法に従えば [n] 音は脱落し、表記しようとする朝鮮語音ㄩ [kul] により近くなる。

139. 人民委員會

인민위원회 [人民委員會]

ien miən y uən xuei

yīn mǐn yú wēn huì

* 위가單母音 [ü] で発音転写がなされている。

140. 道（省）

도

道 [（朝鮮の行政区画）道]

təu

dào

141. 郡（縣）

군

滾

郡 [（朝鮮の行政区画の一つ）郡]

kuən

gǔn

142. 面（區）

면

免

面 [（朝鮮の行政区画）面]

mian

miǎn

143. 里・洞（村・郷）

ㄌ丨·ㄻㄨㄥ

利・東

리·동 [(朝鮮の行政区画の一つ) 里・洞]

li · tuyŋ

lì · dōng

*北京語には音節頭音が [r] の漢字がないため、리 [ri] の音節頭音 [r] は「ㄌ」[l]、「利」[lì] を用いて、[l] 音で音声転写がなされている。

144. 橋

ㄻㄚ ㄻㄧ

達里

다리 [橋]

ta li

dá lǐ

*143と同様に、다리 [ta-ri] の音節頭音 [r] は「ㄌ」[l]、「里」[lì] を用いて、[l] 音で音声転写がなされている。

145. 鐵路

ㄻㄮ (儿) ㄻㄾ

澈 (兒) 勞

철로 [鉄道]

tʂʰɿə̯ lóu

chèr láo

146. 公路

ㄻㄧㄻ ㄓㄤ ㄻㄾ

新張勢

신작로 [自動車道路]

ɕiən tʂəŋ lau

xīn zhāng láo

* 신작로（新作路）は従来の発音法では、[r] 音に先行する閉鎖音 [k] が共鳴音化した鼻音 [ŋ] の影響を受けて、[r] 音は鼻音同化して [n] 音に変わり [ʃin-ʈʂəŋ-no] となるが、ここでは [ʃin-ʈʂəŋ-lo] と音声転写がなされている。これは先行する鼻音の音節末子音に続く [r] を鼻音化させない発音法を反映しており、今日の中国朝鮮語や朝鮮民主主義人民共和国における発音規範と一致するものもある。本小冊子が編集された当時、朝鮮民主主義人民共和国の朝鮮語文研究会が編集した『조선어문법』（「朝鮮語文法」、1949 : 52）では、「先行音節の末音が有声音で、後続の音節の頭音も有声音の場合、原則的に同化がおこらないが、後続音節の頭音が [r] もしくは母音の場合、部分的に同化がおこる」とし、たとえば정렬 /ʃɔŋ-ɾjɔl/（整列）に対しては音韻規則「ŋ-r > ŋ-n」を示しており、当時は [ʃɔŋ-ɾjɔl] と [ʃɔŋ-njɔl] の二通りの発音を許容していた。

147. 船碼頭

ケメ ケメ

布都

부두 [埠頭]

pu tu

bù dōu

148. 車站

ㄓㄨㄥ ㄍ㄁ ㄓㄨㄥ

正割張

정거장 [停車場]

tʂyŋ kɿ tʂəŋ

zhèng gē zhāng

149. 汽車 (自動車)

ㄓㄥ ㄎㄜ ㄐㄤ

渣勁茶

자동차 [自動車]

tʂa tuyŋ tʂʰa

zhā dōng chá

150. 馬車

ㄇㄚ ㄉㄚ

馬茶

마차 [馬車、(ラバ・馬が引く) 荷車]

ma tʂʰa

mǎ chá

151. 牛車

ㄨㄉㄚ

烏茶

우차 [牛車]

u tʂʰa

wū chá

152. 驃馬

ㄉㄠ ㄈㄢ

腦賽

노새 [ラバ]

nou səi

nǎo sài

153. 爬犁

ヶㄚ (儿) ㄍㄨ

把 (兒) 呱

발구 [(朝鮮北部山間地方で牛馬が引いて物品を運ぶ大型の) そり]

pāo ku

bǎr gū

*中国語の爬犁 páli (そり) は北方方言で、現代共通語は雪橇 xuēqiāo。

154. 稻田

ㄉㄠ (ㄣ)

鬧 (恩)

논 [田]

nǎon

nàon

155. 菓園

ㄍㄨㄚ ㄉㄨ ㄨㄤ ㄨㄣ

庭數溫

과수원 [果樹園]

kua shù uān

guā shù wēn

156. 高地

ㄍㄤ ㄞ ㄧ

搞擠

고지 [高地]

kou tci

gǎo jī

157. 草地

タメ (儿) タヲ (ヲ)

撲 (兒) 盱 (恩)

풀판 [茂み、くさむら]

pʰuə pʰan-ən

pūr pən-en

*直音転写で用いられた「盼」[(ピンインで) pànn] で朝鮮語판 [pʰan] の音が転写できているのに、更に「(恩)」を後ろに添えた理由が分からない。なお、転写された音声を朝鮮文字で表記すると、풀판となるように思われる。

158. 山峯

アヲ 《么》《へ}

山稿給

산고개 [峰]

san kau kei

shān gǎo gěi

159. 山腰

アヲ 《么》《へ}

山中特

산고개、산중턱 [山の中腹]

san kau kei

shān zhōng tè

*中国語「山腰」の対訳朝鮮語として、注音字母では산고개、直音転写で

中国人民志願軍編「常用朝鮮語言手冊」とその成立背景

は산중턱が音声転写されている。このように2通りの対訳語が示されていることから、本小冊子の編集過程において、注音字母による音声転写と直音による音声転写は、別々に作業が進められていたものと推測される。

* 산중턱 [san-d͡ʒun-t͡ʃok] の語末の音節末音 [k] が音声転写に反映されていない。

160. 山

アラ

山

산 [やま]

san

shān

161. 山底下

アラ ロイ

山密

산밀 [山のふもと]

san mi

shān mì

* 산밀 [san-mit] の語末の音節末子音 [t] が発音転写に反映されていない。

162. 絶壁（陡壁）

アラ（ル）ウイム

折（兒）標

절벽 [絶壁]

tʂyə̃ piou

zhér biāo

*語末音 [k] が発音転写に反映されていない。

163. 平原

タノムメカ

平穩

평원 [平原]

pʰiŋŋ uən

píng wěn

164. 前邊

ヤタヘ

岬呸

앞에 [前に、前方に]

a pʰeɪ

ā pēi

165. 後邊

カメヘ (1)

堆 (衣)

뒤 [後、後方]

tuei-i

dui-i

*「뒤」の母音 ア に対しては二重母音 [ui] で発音転写がなされている。なお、発音記号 [u] は有声で円唇性を帯びた口蓋接近音をあらわす。

*蔡玉子（2005：23）によれば、中国延辺地区では母音 ア は早く話される時は円唇性の微弱な単母音 [ü] で発音されることがあるが、一般的な発話ではふつう二重母音 [wi (ui)] もしくは [i]、[u] で発音され、と

りわけ二重母音で発音される傾向が強いという。たとえば、쉰다（休む）は [suinda]、취（ネズミ）は [ʃui]、사위（婿）は [sawi] と発音されるという。また、母音ㅑは二重母音 [we]、[wε]、もしくは単母音 [e]、[ε] で発音され、したがって中国延辺地区では単母音はㅑとㅒを除いた 8 母音体系をなすという。しかしながら、139の인민위원회（人民委員会）、172の쉼시다（休みましょう）、211の위장하시오！（偽装してください！）では、ㅒが単母音 [ü] で転写されている。

166. 中間

ㄓㄨㄙ ㄍㄩ

中趕

중간 [中間、中央、真ん中]

tʂuŋŋ̚ kan

zhōng gǎn

167. 左邊

ㄉㄩ ㄉㄧㄉ (ㄣ)

怨片（恩）

왼편 [左側]

yan pʰian-ən

yuàn piàn-en

*「탸ㅓㅓ」[pʰian]、「片」[piàn] は朝鮮文字で表記すれば咺となるが、「(ㄣ)」[ən]、「(恩)」[en] を後ろに付すことによって편 [pʰjən] の音を転写しようとしている。168も同様。

168. 右邊

ㄉㄩ ㄉㄨㄉ (ㄣ)

奥倫片（恩）

오른편 [右側]

au luən pʰian-ən

ào lún piān-en

169. 向左轉

ㄓㄨㄞ ㄌㄠ ㄉㄠ ㄌㄚ

抓勞・島拉

좌로 돌아. [まわれ左]

tʂua ləu təu la

Zhuā láo · dǎo lá.

170. 向右轉

ㄨㄞ ㄌㄠ ㄉㄠ ㄌㄚ

烏勞・島拉

우로 돌아. [まわれ右]

u ləu təu la

Wū láo · dǎo lá.

171. 走快些

ㄎㄚ ㄉㄧ ㄍㄚ (ㄅ) ㄊㄧ ㄉㄚ

巴里・嘎（布）西達

빨리 갑시다. [早く行きましょう。]

pa li kap ci ta

Bā lǐ · gāb xī dá.

*빨리 [p'al-li] の第一音節の末音 [l] が発音転写に反映されていない。

172. 歇一下

ㄊㄩ (ㄅ) ㄊㄧ ㄉㄚ

徐（布）西達

쉼시다. [休みましょう]

cyp ci ta

Xúb xī dá.

* 쉼の母音ㅏが单母音 [ü] で転写されている。

173. 下雨了

ヶ丨《丫 么 (ㄇ) ㄭ丨ㄻㄚ

比嘎・奥（姆）尼達

비가 옵니다. [雨が降っています。]

pi ka oum ni ta

Bí gā · àom ní dá.

174. 下雪了

ㄆㄨㄥ ㄭ丨ㄻㄚ

努尼・奥（姆）尼達

눈이 옵니다. [雪が降っています。]

nu ni oum ni ta

Nǔ ní · àom ní dá.

175. 刮風了

ヶㄚ ㄻㄚ ㄇㄧㄭ ㄻㄚ

吧拉米・布（姆）尼達

바람이 불니다. [風が吹いています。]

pa la mi pum ni ta

Ba lā mī · bùm ní dá.

176. 打雷了

ケレ 《へくい(ハ)》 ㄻ ㄻ

本給・齊(姆) 尼達

번개 칩니다. [雷が落ちています。]

pən kei tɕʰim ni ta

Běn gēi · qím ni dá.

177. 卡賓槍

ㄻ ㄻ (儿) ㄻ ㄻ ㄻ ㄻ

卡(兒) 寶銃

칼빈총 [カービン銃]

kʰaə piən tʂʰuŋ

kǎr bīn chòng

* 칼빈はロシア語карабинからの音借語。韓国では英語 carbine からの音借語카빈を用いて 카빈총 (carbine 銃) という。

178. 六〇砲

丨ヌ ㄻ ㄻ ㄻ 丨 カ ㄻ ㄻ

有空米里炮

육공미리포 [六十ミリ砲]

iou kʰuŋ mi li pʰau

Yǒu kòng mǐ lì pào

* 육공 (ロクゼロ) は、標準発音では [juk-k'on]、육꽁 [juk-kʰon] となるような音声転写がなされている。

*「ミリ」は韓国では밀리と表記する。

179. 火箭砲

ㄏメㄚ ㄓㄣ ㄻ ㄻ

華枕砲

화전포 [ロケット砲]

xua tʂən pʰau

huá zhēn pào

* 今日、朝鮮民主主義人民共和国ではロケット포、韓国ではロケット포という。

180. 手榴弾

戸メ カ丨ヌ カヲ

數留弾

수류탄 [手榴弾]

ʂu liou tan

shù liú dàn

181. 地雷

リ丨カ丨セ

激烈

지뢰 [地雷]

tɕi liε

jí liè

182. 軍艦

《メム ハヲ (ム)》

滾漢 (姆)

군함 [軍艦]

kuyŋ̟ xanm

gǔn hàn̞m

* 舂に対して「ハヲ (ム)」、「漢 (姆)」と転写されているが、「ヲ」の末子音 [n]、「漢」の末子音 [n] を除いた音のあとに [m] を付けて読むこ

とを求めている。

* 군 [kun] に対して「ㄍㄨㄣ」[kuŋŋ] と発音転写したため、[n] であるべきところが [ŋ] となっており、[n] と [ŋ] の間に混乱がみられる。

183. 水雷

戸メ カ丨せ

數烈

수뢰 [水雷]

ʂu lie

shù liè

184. 戰壕

ㄓㄣㄉㄠ

枕毫

전호 [塹壕]

tʂən xəu

zhěn háo

* 朝鮮民主主義人民共和国では전호（戰壕）、韓国では참호（塹壕）という。

185. 地堡

ㄉㄠㄞ ㄉㄧ ㄍㄚ

道基嘎

또치까 [トーチカ]

təu tɕi ka

dào jī gā

* 韓国では토치카と綴る。

186. 防空洞

ㄻㄻ ㄍㄨㄥ ㄍㄨ (儿)

旁公古 (兒)

방공굴 [防空壕]

pʰan̚ kuŋŋ kuə

páng gōng gǔr

* 방공호 (防空壕) ともいう。韓国では방공굴とは言わない。

187. 報話機 (電台)

ㄇㄨ ㄵㄷ ㄍㄧ

暮枕給

무전기 [無線電話、小型無線通信機]

mu tʂən ki

mù zhēn gi

188. 飛機

ㄎㄧ ㄏㄨ ㄍㄧ

比衡給

비행기 [飛行機]

pi xvŋ ki

bǐ héng gi

* 標準語形は비행기。

189. 大炮

ㄉㄞ ㄾㄺ

待砲

대포 [大砲]

tai pʰou

dài pào

190. 坦克

タク タク

坦克

땅크 [タンク、戦車]

t'ang k'ak

tǎn kè

*「戦車」は朝鮮民主主義人民共和国では땅크、韓国では탱크という。

*音声転写通りに朝鮮文字で表記すると탕크となるが、탕크は「(液体や気体を貯蔵する) タンク」のこと。

191. 小砲

ソボ ボボ

少砲

소포 [小砲。機関銃や小銃など]

sou p'au

shǎo pào

192. 槍

イヌム

銃

총 [銃]

t'sʰuyŋ

chòng

193. 機関槍

《！《メラ イヌム

給關銃

기관총 [機関銃]

ki kuan tʂʰuyŋ

gi guān chòng

194. 手槍

«メニ(ム)ノメル

果(恩)銃

권총 [拳銃]

kuo-en tʂʰuyŋ

guō-en chòng

195. 子彈

ノメル ャ(ル)

銃・啊(兒)

총알 [銃弾]

tʂʰuyŋ aə

chòng ār

196. 砲彈

タム カタ

砲彈

포탄 [砲弾]

pʰou tan

pào dàn

197. 信號彈

タムカムカタ

新毫坦

신호탄 [信号弹]

ɕien xou tʰan

xīn háo tǎn

198. 高射砲

ㄍㄤ ㄞ ㄚㄥ ㄉㄠ

高殺砲

고사포 [高射砲]

kau sa pʰou

gǎo shā pào

199. 榴彈砲

ㄧㄡ ㄉㄢ ㄉㄠ

由彈炮

유탄포 [榴彈砲。曲射砲の一つ]

iou tan pʰou

yóu dàn pào

200. 平射砲

ㄉㄧㄥ ㄞ ㄚㄥ ㄉㄠ

平殺砲

평사포 [平射砲。カノン砲、平射歩兵砲など]

pʰiŋŋ sa pʰou

píng shā pào

201. 山砲

ㄉㄨㄥ ㄉㄠ

三砲

산포 [山砲。山地での使用に適するように、分解して運搬できるようにした火砲]

san p^bou

sān pào

202. 電話機

ㄓㄣ ㄏㄨㄚ ㄏㄧ

振話給

전화기 [電話機]

tʂən xua ki

zhèn huà gi

203. 電話

ㄓㄣ ㄏㄨㄚ

振話

전화 [電話]

tʂən xua

zhèn huà

204. 電線

ㄓㄣ ㄉㄣ

振深

전선 [電線]

tʂən sən

zhèn shēn

205. 洋鑓

《メ太 |

光衣

광이 [つるはし]

kwanj i

guāng yī

*標準語形は광이。古形は광이。崔鶴根（1990：806）によれば、[kwanj-i]ではなく [kwa-nji] という語形が慶尚北道、江原道でみられるという。この語形は第2音節の頭音に옛이응が立っている。さらに、上記語形の옛이응のところに、여린히응が立つ語形 [kwa-i'] が慶尚北道と江原道の方言にみられるとも記述されている。

206. 鐵鍊

アヤ (ヶ)

沙 (布)

삽 [スコップ、シャベル]

sap

shāb

207. 飯包

《ヤ ケ太

嘎幫

가방 [カバン]

ka邦

gā bāng

208. 背包

ケム ケヤ ケ |

保大利

보따리 [背囊、リュックサック]

pōu ta li

bǎo dà lì

209. 隠藏

ㄣ夕へ

恩呸

은폐 [隠蔽]

ən p̚ei

ēn pēi

*韓国では은폐と表記する。

210. 疏散

ㄏㄞ ㄄ ㄊ ㄧ ㄧ ㄩ

害奇西要

해치시오。[散開しなさい、散らばりなさい]

xai tɕʰi ci iou

Hài qí xī yào.

211. 偽裝吧！

ㄩ ㄓㄤ ㄏㄚ ㄕ ㄧ ㄧ ㄩ

於張哈西要！

위장하시오！[偽裝してください！]

y tʂaoŋ xa ci iou

Yú zhāng hā xī yào

* 위가单母音 /ü/ で転写されている。

212. 集合

니ㅣ 夕丫 (ㄏ)

基爬 (布)

집합 [集合]

tci pʰap

jí páb

*激音化した状態 [ㅈ] が音声転写されている。

213. 水

ㅁㄨ (儿)

暮 (兒)

물 [水]

muə.

mür

214. 火

ㄔㄨ (儿)

布 (兒)

불 [火]

puə.

bür

215. 油

ㄍㅣ カメㄎ (ㄇ)

給倫 (姆)

기름 [あぶら]

ki luənm

gi lúnm

中國人民志願軍編「常用朝鮮語言手冊」とその成立背景

*182と同様、畠を「カメヲ (門)」[luənm]、「倫 (姆)」[lúum] と転写しているが、「ヲ」[ən] の末子音 [n]、「倫」[lún] の末子音 [n] を除いた音のあとに「(姆)」[m] を続けて読むことを求めている。

216. 畠

戸ム 《ム (門)

紹稿 (姆)

소곰 [しお]

səu kaum

shào gǎom

*標準語形は소곰。崔鶴根（1990：711）によれば、소곰は朝鮮全土で用いられる方言形。

217. 大醬

ケメヲ イタ

端張

된장 [味噌]

tuan tʂəŋ

duān zhāng

*된의母音ヲが二重母音 [we] で音声転写されている。

218. 醬油

《ヲ イタ

敢張

간장 [醤油]

kan tʂəŋ

gǎn zhāng

219. 醋

ㄔㄠ

操

초 [酢]

tsʰau

cāo

220. 酒

ㄉㄨㄞ (儿)

數 (兒)

술 [酒]

ʂuə

shùr

221. 葱

ㄉㄚ

怕

파 [ネギ]

pʰa

pà

222. 蒜

ㄇㄚㄚ ㄔㄠ (儿)

瑪瑙 (兒)

마늘 [ニンニク]

ma nouə

mǎnǎor

* 標準語形は마늘 [ma-nwl]。마늘は朝鮮全土で用いられる方言形。

223. 鹹菜

« 丨 (ㄇ) ㄐ 丨

給（姆）敢

김치 [キムチ]

kim tɕʰi

gim qī

224. 白菜

ㄅㄞ ㄔㄞ

白採

바이차이 [ハクサイ]

pai tsʰai

bái cǎi

*「ハクサイ」は朝鮮語では 배추 [pɛ-tʃʰu] というが、ここでは中国語「白菜 báicài」が音借語として音声転写されたものと思われる。ただし、배
추の古形 [pʌi-tsai] が転写された可能性も考えられる。

225. 桔梗（菜）

ㄉㄞ ㄌㄚ ㄩ 丨

倒拉基

도라지 [キキョウ (蔬菜)]

təu la tɕi

dǎo lā jī

226. 豆芽

ㄔㄨㄥ ㄉㄚ ㄇㄜ (ㄉ)

控那暮（兒）

콩나물 [大豆もやし]

kʰuyŋ na muə

kōng nà mür

227. 豆腐

ㄉㄨㄥ ㄉㄨㄥ

堵布

두부 [豆腐]

tu pu

dǔ bù

228. 山芋

ㄍㄤ ㄍㄨㄤㄚ

稿咭嗎

고구마 [サツマイモ]

kou ku ma

gǎo gū ma

229. 土豆

ㄍㄚ (ㄇ) ㄓㄚ

嘎 (姆) 渣

감자 [ジャガイモ]

kam tʂa

gām zhā

230. 黄豆

ㄉㄨㄥ

控

콩 [大豆]

kʰuyŋ

kōng

231. 雞蛋

《へ カラ

給藍

계란 [鷄卵]

kei lan

gēi lán

232. 鶲

ㄻㄚ (儿)

達 (兒)

計 [ニワトリ]

tae̯

dár

*方言形 [tal] が音声転写されている。標準発音は [tak]。

*崔鶴根 (1990:1260)によれば、方言形 [tal] は咸鏡道・江原道・平安

道・全羅道・忠清道・慶尚道など朝鮮全土に分布している。

233. 鴨

ㄻ ㄌㄧ

奥利

오리 [アヒル]

ou li

ào lì

234. 豚肉

去刃 り 丨 《么 《丨

苔基稿給

대지고기 [豚肉]

tʰai tɕi kau ki

tái jī gǎo gi

* 朝鮮文字で表記すると태지고기となるように音声表記がなされている。

咸鏡道方言では대지고기 [tɕe-ji-go-gi] (崔明玉他 2002 : 345)。また、대지は咸鏡道・慶尚道・全羅道方言 (金炳濟1980 : 400)。咸鏡道方言では、w系二重母音の半母音 [w] を脱落させ音節核母音の単母音だけで実現させ、二重母音を避ける傾向が強い (蔡玉子2005 : 38)。この方言形もこうした音韻現象を示す一例である。標準語形ечен다 [kweŋ-n-tʃʰan-tʰa] が [kɛn-ʃʰɛn-tha、겐찮다]、標準語形환갑 [hwan-gap] が항갑 [haŋ-gap] となる方言形も、同様の例である。

235. 牛肉

戸么 《么 《丨

少稿給

소고기 [牛肉]

ʂau kau ki

shǎo gǎo gi

236. 辣椒

《么 イメ

稿出

고추 [トウガラシ]

kau tʂʰu

gǎo chū

237. 落花生

トヨ チメヨ ノム

納垮生

낙화성 [落花生]

na kʰua šyŋ

nà kuǎ shēng

*標準語形は낙화생。

*激音化した〔나콰성〕が音声転写されている。

238. 南瓜

ㄏㄠ ㄉㄚ (ㄉ)

毫拔 (克)

호박 [カボチャ]

hao pak

háo bák

239. 黄瓜

ㄩ ㄧ

奥依

오이 [キュウリ]

au i

ào yī

240. 高粱

ノメ ノメ

黍黍

수수 [コウリヤン、もろこし]

su su

shǔ shǔ

241. 白米 (大米)

| (ㄩ) ㄞㄚ (ㄦ)

衣 (布) 沙 (兒)

입쌀 [米]

ip saə.

yīb shār

242. 大麥

ㄩㄤㄌㄧ

暴利

보리 [麦、大麦]

pau li

bào lì

243. 小麥

ㄇㄧㄤㄭㄧ (ㄦ)

米 (兒)

밀 [小麦]

miə.

mīr

244. 蕎麥

ㄇㄤㄇㄧㄤㄭㄧ (ㄦ)

毛米 (兒)

모밀 [ソバ]

māu miə.

máo mǐr

*標準語形は麦밀。崔鶴根（1990：701）によれば、豆밀は江原道・忠清道・慶尚道・平安道方言。また、金炳済（1980：290）によれば、咸鏡道・江原道・黄海道・平安道方言。

245. 麵

ㄍㄚ ㄉㄨ

嘎路

가루 [小麦粉などの穀物の粉]

ka lu

gā lù

246. 番米

幺 (ㄩ) ムメ ムメ

奥 (克) 簍簌

옥수수 [トウモロコシ]

auk su su

àok sù sù

247. 小米

亞么 (ㄩ) 戸丫 (ㄦ)

早 (布) 穀 (兒)

좁쌀 [粟]

tsaup sae

zǎob shār

248. 元 (一千元等用)

ㄨㄣ

溫

원 [(中国の貨幣単位) 元 ('一千元' 等で用いる)]

uən

wēn

249. 斤

《ㄣ

跟

근 [斤]

kən

gēn

250. 兩

丨ㄉ

羊

양 [(度量衡の一つ) 両]

iəŋ

yáng

251. 捏

戸ㄜ (ㄇ)

捨 (姆)

섶 [(度量衡の一つ) 石]

ʂv̥m

shěm

252. 斗

ㄇㄚ (ㄦ)

馬（兎）

말 [(度量衡の一つ] 斗)

maə

mär

253. 升

云刃（刃）

苔（愛）

되 [(度量衡の一つ] 升]

tʰai-ai

tái-ái

* 되は [tō] ではなく、[tɛ] を示す音声転写がなされている。

* 刃 [ai] のあとに、さらに (刃) [ai] が重ねられた理由がわからないが、母音 ㅐ が長母音であることを示そうとしたのかも知れない。崔鶴根 (1990: 1479) によれば、대 [tɛ:] は全羅南道の方言形、대 [tɛ] は慶尚道・全羅道の方言形。

254. 尺

寸々

渣

자 [(度量衡の一つ) 尺]

tʃa

zhā

255. 寸

寸々（ㄣ）

草（恩）

총 [(度量衡の一つ) 寸]

tsʰcun

cǎon

256. 里 (計算路途用)

ㄌㄧ

離

리 [里 (道のりを計算するのに用いる)]

li

li

*朝鮮語漢字語の語頭にくる [r] 音を脱落させないで、[l] 音で表音転写されている。

257. 早晨

ㄚㄑㄧ (ㄇ)

啊氣 (姆)

아침 [朝]

a tɕʰim

ā qīm

258. 晚上

ㄓㄗㄧㄤ

折鳥

저녁 [夕方、晚]

tʂv niou

zhé niǎo

*저녁 [ʃɔ-njɔk] の末音 [k] が音声転写に反映されていない。

259. 上午

幺 坐ㄣ

奥振

오전 [午前]

ao tsən

ào zhèn

260. 下午

幺 厂ㄨ

奥呼

오후 [午後]

ao xu

ào hū

261. 中午

坐ㄥ オ

正奥

정오 [正午]

tʂyŋ̩ au

zhèng ào

262. 一點鐘

厂ㄤ ㄊㄧ

汗希

한시 [一時]

xan ci

hàn xī

263. 二點鐘

ㄉㄡ ㄊㄧ

都希

두시 [二時]

tou ci

dōu xī

264. 三點鐘

ㄉㄞ ㄊㄧ

塞希

세시 [三時]

sai ci

sāi xī

* 音声転写通りだと새 시 [sε ſi] となるが、文献では새 (さん) の方言形
새の存在は確認できない。

265. 四點鐘

ㄉㄧㄝ ㄊㄧ

捏希

네시 [四時]

nie ci

niē xī

266. 五點鐘

ㄉㄚ ㄉㄜ ㄊㄧ

打捨希

다서 시 · 다스 시 · 다쓰 시 [五時]

ta sy ci

dǎ shě xī

*標準語形は다섯 시。崔鶴根（1990：1477）によれば、다서は慶尚道・忠清道・江原道方言、다씨は慶尚道方言、다스は咸鏡道方言、다쓰は咸鏡道・平安道方言。崔明玉他（2002：341）によれば、다스 [ta-si] は咸鏡道方言。金泰均（1986：147）によれば、다서と다스は咸鏡道方言。

267. 六點鐘

| ヌ 戸 サ ツ |

尤捨希

여서 시 · 여스 시 · 여쓰 시 [六時]

iou sy ci

yóu shě xī

*標準語形は여섯 시。崔鶴根（1990：1493～1494）によれば、여서は慶尚道・江原道方言、여스と여쓰は咸鏡道方言。金泰均（1986：375）によれば、여서と여스は咸鏡道方言。

*[iou]、[you] を朝鮮文字で表記すれば요だが、요서、요스、요쓰という方言形は確認できない。1の3つめの*を参照のこと。

268. 七點鐘

| (儿) 《幺 (ㄩ) ツ |

衣 (兒) 高 (布) 西

일곱시 [七時]

iə̯ kəup ci

yīr gāob xī

269. 八點鐘

| ヲ タ サ (儿) ツ |

呀得 (兒) 西

야들 시 · 야덜 시 · 야들 시 [八時]

ia tva̠ ci

ya dér xī

*標準語形は여덟 시。崔鶴根（1990：1491～1492）によれば、야들은咸鏡道・平安道方言、야덜은慶尚道方言、야들은慶尚道・忠清道・全羅道方言。崔明玉他（2002：342）によれば、야들은咸鏡道方言。金泰均（1986：374）によれば、야덜과 야들은咸鏡道方言。

270. 九點鐘

丫厂么 (ㄩ) T I

啊好（布）西

아홉시 [九時]

a xəup ci

ā hǎob xī

271. 十點鐘

丨ㄡ (ㄩ) T I

尤（兒）西

열시 [十時]

iouə ci

yóur xī

272. 十一點鐘

丨ㄡ (ㄩ) ㄏㄢ ㄒ I

尤（兒）旱西

열한시 [十一時]

iouə xan ci

yóur hàn xī

273. 十二點鐘

トヌ(ル) ケヌ ツ

尤(兒) 都西

열두시 [十二時]

iouə, tou ci

yóur dōu xī

274. 幾點鐘

ミセツ

滅西要

멧시요. [何時ですか。]

mie ci iou

miè xī yào.

* 咲の標準語形は喫。喫 [met] の音節末音 [t] が音声転写に反映されていない。ただし、現実発音を反映したものとみることもできる。

275. 半點鐘

ケタツ

伴西

반시 [半時間]

pan ci

bàn xī

276. 分

ケメ(ケ)

不(恩)

분 [分]

pun

bùn

277. 五分鐘

幺 ケメ (ㄣ)

奥不 (恩)

오분 [五分]

əu pun

ào bùn

278. 十分鐘

ㄊㄧ (ㄣ) ケメ (ㄣ)

息 (布) 不 (恩)

십분 [十分]

cip pun

xībùn

279. 二十分鐘

ㄧ ㄊㄧ (ㄣ) ケメ (ㄣ)

衣息 (布) 不 (恩)

이십분 [二十分]

i cip pun

yī xībùn

280. 三十分鐘

ㄉㄚ (ㄇ) ㄊㄧ (ㄣ) ケメ (ㄣ)

沙 (姆) 息 (布) 不 (恩)

삼십분 [三十分]

sam cip pun

shām xīb bùn

281. 四十分鐘

厖 𠂊 𠂊 (ㄔ) 𠂊 𠂊 (ㄣ)

沙息 (布) 不 (恩)

사십분 [四十分]

sha cip pun

shā xīb bùn

282. 五十分鐘

么 𠂊 𠂊 (ㄔ) 𠂊 𠂊 (ㄣ)

奥息 (布) 不 (恩)

오십분 [五十分]

au cip pun

ào xīb bùn

283. 十五分鐘

𠂊 𠂊 (ㄔ) 么 𠂊 𠂊 (ㄣ)

息 (布) 奥不 (恩) (二十分鐘三十分鐘等類推) [二十分、三十分など類推]

십오분 [十五分]

cip au pun

xīb ào bùn

*連音しない状態での発音転写がなされている。

(以下數字計算具體物件用，例如錢數等)

[以下の数字は具体物を計算するのに用い、例えばお金の数など]

284. 一

ㄏㄚ ㄉㄚ

哈那

하나 [(固有数詞) 一]

xa na

hā nà

285. 二

ㄉㄨ (儿)

杜 (兒)

둘 [(固有数詞) 二]

tuə

dùr

286. 三

ㄉㄢ ㄧ

捨衣

서이 [(固有数詞) 三]

ʂy i

shě yī

* 標準語形は汭。崔鶴根 (1990: 1487) によれば、서이は咸鏡道・平安道・黃海道・江原道・慶尚道方言。金炳済 (1980: 357) によれば、서이は咸鏡道・兩江道・平安道・黃海道・慶尚道方言。

287. 四

ㄉㄚ ㄧ

訥衣

너이 [(固有数詞) 四]

na i

nè yī

* 標準語形は汭。金炳済（1980：355）によれば、咸鏡道・平安道・慶尚道・忠清道・全羅道方言

288. 五

ㄣㄚ 戸ㄕ

達捨

다서·다써·다스·다쓰 [(固有數詞) 五]

ta s̚y

dá shě

* 標準語形は다섯。崔鶴根（1990：1477）によれば、다서は慶尚道・忠清道・江原道方言、다써は慶尚道方言、다스は咸鏡道方言、다쓰は咸鏡道方言。金炳済（1980：355）によれば、다쓰は咸鏡道・両江道・平安道・慈江道方言。

289. 六

ㄧㄠ 戸ㄕ

腰捨

여스·여쓰·여서 [(固有數詞) 六]

iau s̚y

yāo shě

* 標準語形は여섯。崔鶴根（1990：1493～1494）によれば、여스・여쓰は咸鏡道方言、여서は慶尚道・江原道方言。金炳済（1980：359）によれば、여쓰は平安道・咸鏡道・慈江道・両江道方言。

290. 七

ㄧ (儿) ㄍㄤ

衣（兒）稿

일고 [七]

iə̯ kəu

yīr gǎo

*標準語形は일곱。崔鶴根（1990：1493～1495）によれば、일고は慶尚道・忠清道・全羅道・江原道・平安道・濟州道方言。

291. 八

丨ㄚㄉㄢ (儿)

呀得（兒）

야들·야덜·야들 [(固有数詞) 八]

ia tɾə̯

ya dér

*標準語形は여덟。金炳済（1980：358～359）によれば、야덜は江原道・忠清道・慶尚道方言、야들は平安道・咸鏡道・江原道方言。崔鶴根（1990：1491）によれば、야들は咸鏡道・平安道方言、야덜は慶尚道方言、야들は咸鏡道・平安道・黃海道・江原道方言。崔明玉他（2002：342）は方言形「yadilbi」（야鄙）、名数詞に先行する冠形詞形として「yadi」（야드）、「yadip」（야듭）、「yadil」（야들）を挙げている。金泰均（1986：374）は咸鏡道方言として야달、야덜、야들を挙げている。

*梅田（1993：133）は、「あまり多くないが、ソウル方言などのeに対して、この言語（延辺地域の咸鏡道方言－引用者注）でaがあらわれる語例がある」として、「jatəp」（야덥）を例示している。このことからも、本小冊子の編者の中に咸鏡道方言話者が含まれていたと思われる。

292. 九

ㄚㄉㄢ (ㄎㄨ)

啊好（布）

야홉 [(固有數詞) 九]

a xəup

ā hǎob

293. 十

丨么 (儿)

要 (兒)

열 [(固有數詞) 十]

iəuə,

yào

294. 十一

丨么 (儿) ハナ ナ

要 (兒) 哈那

열하나 [(固有數詞) 十一]

iəuə, xá na

yào hā nà

295. 二十

戸メ 口メ (儿)

數暮 (兒)

수물 [(固有數詞) 二十]

su muə,

shù mùr

* 標準語形はス물。수물は朝鮮全土で用いられる方言形。

296. 三十

戸ぞ カぞ (ㄎ)

捨勒（恩）

서른 [(固有数詞) 三十]

ʂy lvn

shě lèn

297. 四十

ㅁㄚㄴ

馬很

마흔 [(固有数詞) 四十]

ma xən

mǎ hēn

298. 五十

ㅓㅁㄴ

訓

쉰 [(固有数詞) 五十]

ɕyən

xùn

* 쉰の母音ㅓに対して、単母音 [ü] で音声転写がなされている。

299. 六十

ㅣせ ㅓ메ㄴ

也順

예순 [(固有数詞) 六十]

iɛ ŋuən

yě shùn

300. 七十

丨 カサ (ㄣ)

衣勒 (恩)

일흔 [(固有数詞) 七十]

i lysn

yī lèn

301. 八十

丨 ャ カサ (ㄣ)

呀得 (恩)

야든 [(固有数詞) 八十]

ia tyn

yā dún

* 標準語形は여든。崔鶴根 (1990: 1492) によれば、야든は咸鏡道・平安道・黃海道・全羅道・濟州道方言。金炳済 (1980: 358~359) によれば、咸鏡道・慈江道・兩江道・平安道・黃海道方言。

302. 九十

ヤ ハ ハ

啊恨

아흔 [(固有数詞) 九十]

a xən

ā hèn

303. 百

ケハ (ㄻ)

倍 (克)

백 [(漢数詞) 百]

peik

bèik

304. 千

彳匚

陳

천 [(漢数詞) 千]

tʂʰən

chén

305. 萬

口弓

滿

만 [(漢数詞) 万]

man

mǎn

306. 億

弋 (弓)

俄 (克)

억 [(漢数詞) 億]

yk

ék

(以下數字用於連續數數用) [以下の数字は連續数を数える時に用いる]

307. 一

丨 (儿)

中国人民志願軍編「常用朝鮮語言手冊」とその成立背景

衣 (兒)

일 [(漢數詞) 一]

iə

yīr

308. 二

|

衣

이 [(漢數詞) 二]

i

yī

309. 三

ムヤ (厃)

撒 (姆)

삼 [(漢數詞) 三]

sam

sām

310. 四

ムヤ

撒

사 [(漢數詞) 四]

sa

sā

311. 五

ム

奥地

오 [(漢數詞) 五]

au

ào

312. 六

丨ㄡ (ㄕ)

尤 (克)

육 [(漢數詞) 六]

iouk

yóuk

313. 七

ㄅㄧ (儿)

奇 (兒)

칠 [(漢數詞) 七]

tɕʰiə

qir

314. 八

ㄉㄚ (儿)

怕 (兒)

팔八 [(漢數詞) 八]

pʰaə

pàr

315. 九

ㄍㄨ

古

予 [(漢數詞) 九]

ku

gǔ

316. 十

乚丨(ㄅ)

吸 (布)

십 [(漢數詞) 十]

cip

xīb

317. 十一

乚丨(ㄅ) 丨(ㄋ)

吸 (布) 衣 (兒)

십일 [(漢數詞) 十一]

cip iə

xīb yír

*連音しない形が音声転写されている。

318. 二十

丨 乚丨(ㄅ)

衣西 (布)

이십 [(漢數詞) 二十]

i cip

yí xīb

319. 三十

ム イ (ㄇ) ㄊ ㄧ (ㄩ)

撒 (姆) 吸 (布)

삼십 [(漢數詞) 三十]

sam cip

sām xīb

320. 四十

戸 イ ㄊ ㄧ (ㄩ)

沙吸 (布)

사십 [(漢數詞) 四十]

sa cip

shā xīb

321. 五十

么 ㄊ ㄧ (ㄩ)

奥吸 (布)

오십 [(漢數詞) 五十]

ao cip

ào xīb

322. 六十

丨 又 (ㄅ) ㄊ ㄧ (ㄩ)

尤 (克) 吸 (布)

육십 [(漢數詞) 六十]

iouk cip

yóuk xīb

323. 七十

ㄎㄧ (儿) ㄊㄧ (ㄅ)

奇 (兒) 吸 (布)

칠십 [(漢數詞) 七十]

tɕʰiə. cip

qír xīb

324. 八十

ㄉㄚㄚ (儿) ㄊㄧ (ㄅ)

怕 (兒) 吸 (布)

팔십 [(漢數詞) 八十]

pʰaa. cip

pàr xīb

325. 九十

ㄍㄨ ㄊㄧ (ㄅ)

咁吸 (布)

구십 [(漢數詞) 九十]

ku cip

gū xīb

(百千等數目與上計算具體物件數同)

[百、千などの数も、上のように具体的なものの数を数える場合と同じです。]

III. 「常用朝鮮語言手冊」が成立した歴史的背景

III-1. 注音字母、「国語羅馬字」の公布

本小冊子『常用朝鮮語言手冊』では注音字母と漢字を用いた直音方式によって、中国語に対応する対訳朝鮮語の音が2通りに転写されている。しかし、朝鮮語を表記する朝鮮文字（ハングル）は用いられていない。ところで、中国共産党系の人々によって普及運動が展開されていた「ラテン化新文字」は用いられていない。以下において、本小冊子で「ラテン化新文字」が用いられず、注音字母が用いられた背景について考察してみることにする。

注音字母が用いられたのは、のちにも述べるように、当時、中国人民解放軍の中で、注音字母を漢字のルビとして活用した識字運動が進められていたことが、大きく影響していると考えられる。また、「ラテン化新文字」が用いられなかつた理由として、陝甘寧辺区において毛沢東が行った整風運動（1942年-1943年）で、「教条主義批判」の名のもとでソ連や中国共産党内の「留ソ派」（ソ連に留学・亡命してコミニテルンや、レーニン、トロツキーの革命思想から影響を受けた人々）に対する否定的態度から、ソ連の少数民族言語政策の一環として始まった「ラテン化新文字」の普及が中止されていたことを上げることができる。陝甘寧辺区では、1943年に「ラテン化新文字」の普及にブレーキがかけられるとともに、1,000個の漢字を非識字者に覚えさせる識字運動だけをおこなうように方針転換がなされた。

注音字母は、1913年に読音統一会（The Conference for Unifying the Pronunciation of Characters）において、「注音字母」の名称で会議を通過し、その後、1918年に中華民国北京政府（北洋軍閥政府）教育部において正式に公布された表音文字である。注音字母とは、「字母」という語が用いられていることからもわかるように、漢字に代わる中国語の表記手段として利用できるという含みを持たせた名称だった。

注音字母は古漢字を簡略化・楷書化したものを、字母として設定したものである。それまで、さまざまな人々によって考案されていた表音文字による中国語表記法が、声母符号と韻母符号を用いた「双拼法」(たとえば、「快」は k-uai のように「声」と「韻」の 2つの音綴り) であったのに対し、注音字母は介母を声母とも韻母とも結合させずに、これに独立の文字を当てた「三拼法」(たとえば、「快」は k-u-ai のように「声」と「介」と「韻」の 3つの音綴り) を採用して、3 文字以内ですべての音節が表記できることを特徴としている。このことによって、字母数が 40 に減少し、本稿「はじめに」で字母一覧を示したように、北京語は 37 個の字母（子音字母 21 個、母音字母 16 個）で表記できるようになった¹⁵。なお、注音字母は日本の仮名と同様、インドの佛教文化の影響を受けて成立したともみなされている¹⁶。

その後、趙元任、錢玄同らが中心となって作成された「国語羅馬字拼音法式」方案（1926 年定稿）が、南京国民党政府において公布された（1928 年に「注音字母第 2 式」として公布）。これは中国語をローマ字で表記する方案としては、はじめて法定化されたものだった。その特徴は、ラテン文字を採用し、それ以外の新たな字母や附加符号を用いなかったこと、ラテン文字を用いて四声を表示したこと、および、単語単位に綴ったことである。しかし、語形態を示すラテン文字と、声調表示のためのラテン文字が混在して、表記が大変複雑になっており、また北京語に基づく「国語」以外の表記には適さないなどの限界性を有していた。

15 漢字（朝鮮文字でも表記される）と朝鮮文字を混用する朝鮮語は数千の CVC 構造の音節を有する。陰曆 1443 年 12 月（陽曆 1444 年 1 月）に創製された朝鮮文字（「訓民正音」）は、「初声」（音節頭音の子音）、「中声」（音節核をなす母音）、「終声」（音節末音の子音）に分けて文字をあてがい、「終声字」（内破音）に対して「初声字」（外破音）と同じ音素文字を「復用」して字母の数を減らすことによって、28 の字母すべてを表記しうる書写体系創製を成功させた。中国で文字改革を進めるにあたり、近隣の日本語や朝鮮語の表記法も参考にされていたが、「ラテン化新文字」の創製にあたって、朝鮮文字から何らかのヒントを得ていたか否かについては、明らかでない。

16 周有光「中国语文的时代演进」、National East Asian Language Resource Center, The Ohio University, 2003 年、99 頁

その後、「ラテン化新文字」運動がおこるが、蔡元培は、魯迅、郭沫若、巴金、陳望道、茅盾、胡風ら700余名とともに発表した声明「我々が新文字を普及させることに関する意見」(1936年7月1日)において、注音字母は「四角ばった漢字の注音のための道具で、四角ばった漢字の付属品にすぎない」と批判し、また、「国語羅馬字」に対しては、「北平話（北京語－引用者注）を国語として崇奉し、国語統一を提唱すると銘打ってはいるが、実際には北平語独裁を行っている」と、批判している¹⁷。

なお、ラテン文字もローマ字も同じものを指すが、「国語羅馬字」が公布された後、瞿秋白（1899-1935）、吳玉章（1878-1966）らによる「ラテン化新文字」運動がおこったので、これらを区別するために、この2つの文字呼称が使い分けられて、今日に至っている。

「新」の一字を加えた「ラテン化新文字」という呼称は、「ブルジョア的」な「国語羅馬字」に比して、労働者・農民など被抑圧階級を文化的に解放しようとする思想に根ざした、革命的な識字運動のための文字だというイメージを喚起させるものだった。

1930年に開かれた中国国民党中央執行委員会において、「注音字母」は「注音符号」と改称され、文字ではなく「音標符号」にすぎないものとされた。その理由は、表音文字である注音字母で各方言を表記するとき、口頭語では互いに通じない諸方言を統合しうる書写体系を形成し得ないため、北京官話の発音を統一し、標準漢字音の注記に用いることに、その使用範囲を限定することによって、漢字に代わる表記手段ではないことを明確にさせるためだった。これは、「ラテン化新文字」が漢字に代わりうる文字として、各方言ごとに書写体系を確立させるものとして位置付けられていたのとは対照的で、「羅馬（ローマ）字」と「拉丁（ラテン）化新文字」のように呼称が区別されてきた背景をなしている。

17 蔡元培「我們對推行新文字的意見」(1936年7月1日発表)『中國文字拉丁化文獻』、拉丁化出版社、1940年、153頁

「漢語ピンイン（拼音）方案」の策定過程でも「注音字母」から「注音符号」への言い換えと同様な改変が行われた。「ラテン化新文字」の表記法を基礎として作成され、1955年に全国文字改革会議で通過・承認された「漢語拼音文字方案」が、1956年には「文字」の2文字が省かれた「漢語拼音方案」に変更されたのも、これは漢字に代わる文字ではないと釘をさすためだった。最終的に、周恩来は1958年1月10日の政治協商会議全国委員会で行った報告「当面の文字改革の任務」において、「はっきりと述べておかなければならぬのは、漢字表音案（「漢字拼音方案」のこと－引用者注）は漢字の音を標記したり、共通語をひろめたりするためのものであって、漢字にとってかわらせる表音文字では決してないということです。漢語表音案の第一の用途は漢字の音を標記することなのです」¹⁸と口酸っぱく念を押している。

その後、「中華人民共和国国家通用言語文字法」（2000年10月31日）は、「「漢語ピンイン（拼音）方案」は、中国の人名、地名と中文文献のローマ字つづり法の統一的規範であるとともに、漢字使用が不便、もしくは使うことができない領域で用いられる。」（第18条）と規定し、「ピンイン（拼音）」の使用領域がより明確に限定されて、今日に至っている。

お互いに通じない多彩な地域方言や、さまざまな民族語が用いられている中国では、漢字による書面語なしには、中国語による全国的の意思疎通を図ることができず、秦の始皇帝時代からの「書同文」の機能は、今も有効に作用している。このことについて、カールグレンも「文献上の支那語は本當の意味で支那に於る一種のエスペラントになつてゐる。たゞ支那人同志で話が通ぜず、各種の方言に従つて語詞の發音、語彙、文法上の補助詞の用法等は各々異なつてゐても、一度文字に表現するとなれば此等の相違は消滅し、發音は問題でなくなるのである。」¹⁹と論じている。

18 周恩来「当面の文字改革の任務」「中国の文字改革」、外文出版社、1958年、16頁～17頁

19 カールグレン『支那言語學概論』（再版）、文求道書店、1940年、294頁

「統一文字である「漢字」とその言語様式である「漢語」の受容こそが自称他称ともに「漢人」意識を持つ人々の増大をもたらし、それがまた「中國＝中華」世界の拡大を推し進めた」²⁰のであり、したがって、これと正反対の方向に向かって、各地域方言が方言ごとにラテン文字で表記されるようなことになれば、政治的統一を搖るがす起爆剤にもなりかねない。このことに対する恐れは、今後とも相当期間拭い去られることはないだろう。なぜならば、たとえば1998年から2000年にかけて実施された「中国語言文字使用情況調査報告」によれば、「普通話」（全国共通語）での会話で意思疎通が図れる人は、たかだか全国平均で53.6%（都市部66.03%、農村部45.06%）にすぎない状態にあるからである²¹。

III-2. 「ラテン化新文字」運動

漢字排斥を強く主張していたのは、瞿秋白の『中国拉丁化字母』の考案に始まる「ラテン化新文字」運動だった。この運動は、ソ連の少数民族言語に対するラテン文字を用いた識字運動の一環として始まったもので、中国語をラテン文字で表記し、漢字を用いずにシベリア在住の中国人労働者に対して識字運動が展開された。

1933年に中国のエスペランティストによって国内に紹介されたこの「ラテン化新文字」運動は急速な広がりを見せ、1934年8月から1937年8月までの3年間で、70以上の「ラテン化新文字」運動の組織が結成された。この運動は、北方方言に基づいた『北方話拉丁化方案』以外に、寧波の方言に基づく『寧波話拉丁化草案』（1934年11月）をはじめとし、潮州、四川、上海、蘇州、湖北、廣西、無錫、廈門、福州、客家、廣州、温州、海安など各地の方言に基づく「ラテン化新文字」方案を作り出した。これは、「国語羅馬字」運動が進めていた、北京語に基づいたことばを「国語」とする

20 加々美光行『中国の民族問題』、岩波書店、2008年、14頁

21 Kim Potowski 'Language Diversy in the USA'、Cambridge University Press、2010、82頁

「国語統一運動」をブルジョア的であると批判し、「言語は分岐から統一に至る」（語言從分岐到統一）という言語の発展法則があるという理論に基づくものだった。それは、各地の方言（土語）ラテン化運動から普及を始めて各地の文化を発展させ、「藍青官話」（似て非なる官話、地方訛りのある北京語）を全国共通の北方語として表記し、各地の方言を政治、経済、交通、教育の推移に応じて次第に融合させ、将来、民族統一語に変えるというものだった²²。

当時、ソビエト言語学界を支配していたマルの没後、その高弟ブイコフスキーはマル理論の解説書「マルとその理論」を著わした。そこで、印欧比較言語学は「現代の諸言語の起源を想像して、原初には個々の原初言語があり、のちにそれがバラバラになり、新しい個々の言語に分かれた」ことを前提としていることに関して、「インドヨーロッパ論者は、原初言語の単一から出発したピラミッドをば、一単位から多様へ、人間言語の多様な形態の広般な分散へ進むように頭を下にして立てた」が、マルのヤフェティード理論は「多数の、自分の形成に固定することのない全言語の発展段階の同様性から出発して、共通的単一的言語の一定の道での生長に向かって進む」とみなしたと解説している。そして、「マールの考えによれば、この言語の単一性は種々な言語の交配によって生長し、種々な言語の数はますます少なくなっていくのである」とマルの理論を解説している²³。「ラテン化新文字」運動の推進者たちが主張した「言語は分岐から統一に至る」という論は、言語の「交配」と「混合」を通じて多数の言語から共通的単一的言語へと生長するという、マルの議論から影響を受けたものだと思われる。

上海新文字研究会が発表した『拉丁化中国字運動新綱領草案』（1939年7

22 林漢達「漢語拼音方案採用歐洲形式的經過和問題」「中國文字改革問題」、新建設雑誌出版社、1954年、113頁～115頁

23 ブイコフスキー「ソヴェート言語學」（高木弘訳編）、象徴社、1946年、47頁～48頁

月）において、倪海曙は「言語は分岐から統一に至る」について詳述しているが、それは客観的条件が備わるに従い、方言間の口頭語と書面語の接触の機会が増えるとともに、各地方方言の語音と文法上の相違点を出来るだけ調査して比較研究を行い、各種の詳細かつ正確な語音文法対照表を作成し、今日の方言をより高次元の民族統一語へと導くというもので、これが「中国民族語」を生み出す、最も合理的かつ徹底した道であると主張した²⁴。

瞿秋白の盟友で、「ラテン化新文字」運動を積極的に支持した魯迅は、『門外文談』（「素人のことば談義」、1934年執筆、1935年出版）で、各地の方言ごとに、それぞれ別個の書写体系を確立していく「ラテン化新文字」運動と、当時展開されていた「大衆語」論争とを絡めながら、さながらマルの「交配」と「混合」を通じて「言語は分岐から統一に至る」という議論と相通じる、次のような主張をおこなった。

「いまラテン字で書くとすれば、標準語を書くのか、それとも土語を書くのか？ 標準語を書くとすれば、人々にはできないだろう。もしも土語を書けば、他地方の人々には見てもわからないし、かえって溝ができる、全国に通用している漢字に及ばなくなる。これは大きな弱みだ！ 私の考えはこうだ。最初の啓蒙期には、各地それぞれその地方の土語を書き、他の地方と意志が通じなくなってしまって頓着するに及ばない。ラテン化の書き方を採用しない以前、我が国の、字を知らない人々は、漢字でもってお互いの気持ちを通じ合っていたわけではない。いや、むしろ新しい利点が生ずる。少なくとも同じ言語区域では、お互いに意見を交換し、知識を吸収することができる。（中略）啓蒙期には方言を用いるが、それと同時に漸次、標準語の語法と語彙を加えていくべきだと思う。はじめに固有のものを用いるのは、一地方の言語文章の大衆化であり、新しいも

24 同上、114頁

のを加えて行くのは、全国の言語文章の大衆化である。何人かの読書人が書斎で相談して作った方案は、むろん大抵は通用しない場合が多いが、といってすべてを成り行きに任せておくのも、よい方法ではない。今日、船着場、公共機関、大学などでは、もはやいかにも共通語らしいものが確かに行われており、お互いに話している言葉は、「国語」でもなければ、北京語でもない。めいめいその田舎の音、田舎の調子をおびているが、そうかといって方言でもない。話す方も骨が折れ、聴く方も骨が折れるにしても、とにかく思ったことが言えるし、聞いてわかるのである。もしこれを整理して、発達させたならば、大衆語の中の一支力になり、将来は主力になるかも知れない。私は、方言の中に「新しいものを加えて行く」ことが必要だといったが、その「新しいもの」の起源はここにある。この、自然から生れ、それに人工を加えた言葉が一般化した時、我々の大衆語文は、大体統一したといえる。」²⁵

このような魯迅の考えは、一部特權階級に独占されていた文字言語生活を、広範な一般大衆が獲得するために、ラテン文字化を通じて漢字漢文の桎梏から脱却し、あくまでも一般大衆のことばに立脚しつつ言語の全国的統一を図ろうというものだった。

また蔡元培は、声明「我々が新文字を普及させることに関する意見」(1936年7月1日)において、「各地方方言の新文字は、中国の統一を阻害するかもしれない」と恐れている人がいることに対し、「中国の各地方の言葉は異なっているが、我々が普段思っているほどひどくはない。なぜなら、国内の各地方のことばは、漢語と各地方の土語が相互に同化し、克服した結果だからである。これらの間の相違には規律性がある。我々はそれらの間の異なる規律を指摘しさえすれば、ほとんどが容易に通じ合うことができる」²⁶

25 魯迅「門外文談」「魯迅選集」(第5版)第11巻、岩波書店、1973年、70頁～71頁

26 前掲「中國文字拉丁化文献」、154頁

と、まるでローマ帝国のラテン語がロマンス諸語を形成した歴史を思い起させるような議論を展開しながら、「ラテン化新文字」運動の方言（土語）ラテン化運動が持つ危うさへの懸念を、払拭しようと努めた。

しかし、こうした方言ラテン化運動に対しては批判が絶えず、黎錦熙は方言文字を「隔山」（山を隔てる）の文字であるとしたとえ、統一的な文字は「過山」（山を越える）の文字であるから、「国語統一」に反対する新文字は「隔山」の文字であって、落伍した思想であると断じた。

III-3. 瞿秋白と「ラテン化新文字」の創製

漢字を排斥し、その代わりにラテン文字で中国語を表記しようとする試みにおいて、果敢に先駆者的役割を果たしたのは瞿秋白（1899-1935）だった。幼少時から家庭的に恵まれず、貧しさの極致にあった彼は、中華民国政府（北洋軍閥政府）外交部（外務省）が対ロシア外交官養成のために設立した、授業料がいらない俄文（ロシア語）専修館（北京）に入学し、「ただ、将来飯を食うための技術」を身につけるために、ロシア語とフランス語を学んだ²⁷。そのあと、「震報」（The Morning Post）という新聞のモスクワ特派記者に採用され、1920年10月16日に北京を発ち、1921年1月25日にモスクワに赴任したが、これは革命後のロシアに派遣された中国人ジャーナリストの嚆矢となった。なお、瞿秋白は1922年に中国共産党入党して、「震報」から免職されている。（1923年1月、北京に帰国）

この間の経緯は、紀行文『餓郷紀程』に詳しく書かれている。「餓郷」（餓えた郷）は、「俄罗斯」（ロシア）の「俄」の代わりに、同音の「餓」を用いて少しひねってみせたタイトルだったが、瞿秋白がソ連滞在中の1922年に上海で出版されたときには、友人によって『新俄国遊記』と改題され、さらに1954年に再刊された時には『餓郷紀程』という元々のタイトルにも

27 瞿秋白「言わざもがなのこと」（原題：『多余的話』）『中国現代文学選集17』平凡社、1963年、80頁

どり、「新俄國遊記」という副題が添えられている。

瞿秋白はモスクワに到着した10日後に「全露中国労働者大会」に出かけたが、ロシア各地から集まった代表は200人近くで、彼らはヨーロッパ・ロシアにいた4万人の中国人を代表する人々だったという。そして、この代表たちのなかで「文字を識り書物をよむ」ものは極めて少なかったと、この紀行文は当時の在ソ中国人のことを紹介している²⁸。

ロシア・ソビエト社会主义共和国外務人民委員会東方局は、通訳としてコロクロフを瞿秋白にあてがった。幼いころ、父とともに中国新疆で過ごしたことがある郭質生という中国名を持つこの男は、通訳はあまりうまくなかつたし、瞿秋白はロシア語がそれなりに話せたので、「もともと彼はいらなかつた。しかし後に私は郭質生とついに終生の知己となつた」²⁹と書いているように、帰国後も国民党政府の監視の目をかいくぐりながら、書簡を交わしたりしていた。

1927年4月の蒋介石による上海での反共軍事クーデターにともない第1次国共合作が崩壊したあと、1928年に亡命のためロシアを再訪した瞿秋白は、共産党最高幹部の職から解任され、駐コミニテルン中共代表としてモスクワにとどまることになった。この頃には、シベリア在住の中国人は10万人ほどになっており³⁰、その多くは中国東北部から中ソ国境を越えてきた

28 瞿秋白「革命のモスクワへ」（原題：『餓郷紀程』）『中国現代文学選集3』平凡社、1963年、279頁

29 同上、280頁

30 John De Francis (1950: 87~89)によれば、この10万人という数字は Laikhter の “O Latinizatsii Kitaiskoi Pis'mennosti [On the Latinization of the Chinese Script]” (Kul'tura i Pis'mennost Vostoka, No.9, 1931年、22頁) によるもので、ここにドゥンガン人 (Dungans, or Chinese Moslems、東干人) が含まれていたかは不明だという。1926年のソビエト・ロシアにおける人口センサスによれば、中国人92,030人、ドゥンガン人14,600人となっている。遠東（極東）にいた中国人の多くは都市部に居住し、ウラジオストクに22,000人、ハバロフスクと布拉ゴヴェシチエンスク（黒河対岸の都市）にそれぞれ4,000人、チタに2,000人、イルクーツクに1,000人いたという。また、1926年の人口センサスの時点で、中国人のうちの19%がソビエト連邦の市民 (citizens) とみなされていた。ドゥンガン人は、その多くが農民で、6,004人がキルギス、8,455人がカザフに居住していた。なお、

人々だった。そして、彼らの中には読み書きができる者はほとんどいなかった。

瞿秋白の妻であった楊之華は、「回想の瞿秋白」（原題：『憶秋白』、1958年）において、瞿秋白が1928年にコロクロフと再会した時のことを、次のように綴っている。

「ある日のこと、一人のソ連人がたずねてきた。その人（コロクロフ—引
用者注）は中国文学博士で、1921年に秋白が訪ソした時からの友人であ
った。彼は秋白に2冊のノートをおくった。それは秋白がかつてかれの
家でローマ字母を研究していたときのノートだというのである。それか
ら秋白は、林伯渠、吳玉章らと自発的に小グループをつくって、経常的
に中国の文字改革の問題を研究し始めた。そして「中国ラテン化字母」
という小冊子を書きあげた。」³¹

この楊之華の追憶から、ソ連側がコロクロフを瞿秋白のもとに送り、「ラ
テン化新字母」の創造を勧めたことがうかがわれる。中国語の「ラテン化
新文字」運動には中国語や甘肅方言や陝西方言に基づく東干語（ドゥンガ
ン語とかジュンヤン語とも呼ばれる）の研究者ドラグーノフ（Alexandr
Dragunov、中国名：龍果夫、1900-1955）も参与している。ドラグーノフ
はレニングラード大学とウラジオストク遠東大学で教職についている間、
漢字ラテン化委員会委員を兼職していた。また彼は、「ジュンヤン語ラテン
化字母」制定（1932年）において、中心的な役割を果たした。

このころ、ソ連では全ソビエト新字母中央委員会の指導の下に、少数民族
にラテン文字による書写体系をあてがって、少数民族の識字率を高める
政策がとられていた。

倪海曙（1950：115）は、当時の在ソ中国人の約7割が遠東に住んでいたという。

31 楊之華「回想の瞿秋白」（原題：『憶秋白』、1958年7月発表作）『中国現代文学選集17』、平凡社、1963年、39頁

ソ連におけるラテン文字化とは、少数民族の諸言語の表記文字をアラビア文字やキリル文字ではなくラテン文字に変更すること、もしくは書写体系を有しない言語にラテン文字を用いた新たな書写体系を創出することをいう。Lenore A. Grenoble (2003: 45, 48)によれば、1917年のボルシェビキ革命当時、コーカサスのグルジア語、アルメニア語や中央アジアのチュルク系言語などにおいて、わずかに13の言語が書写規範を有し、19の言語が文字を有していただけだった。革命後、近代化と経済発展を図るためには、無文字の少数民族言語をラテン文字化することが、当時、少数民族政策の重要な課題と位置づけられ、特にシベリアの諸言語における言語調査と、書写体系の創造が課題とされていた。こうした言語政策の流れにおいて、シベリアに在住していた中国人労働者の識字問題にも、関心が向けられることとなった。その後、1936年になると、ラテン文字化政策がロシア文字化（キリル文字化）政策へと変更されたが、その当時、新アルファベット連邦中央委員会はソ連内に居住する102の民族（nationalities）のリストを示し、このうち書写言語を持たない民族は、わずか12に過ぎないまでにラテン文字化が進められたことを、明らかにしていた。中央アジアでは、1922年にアゼルバイジャンでの自主的なラテン文字による表記法改革がおこなわれ、1932年までチュルク系の諸共和国で、ラテン文字による正書法が採用されていった³²。その主な目的は、補助記号を用いても3つの母音しか表記できない子音中心のアラビア文字は、母音調和をもつチュルク系言語の表記には適していないことなどの言語内的要因のみならず、アラビア文字が抱え持つイスラム教文化の「後進性」と、その「桎梏」から脱

32 青覚・栗献忠『苏联民族政策的多维持审视』、中央民族大学出版社、2009年、193頁。なお、ソ連の1926年人口センサスでは、151の民族、115の言語使用が確認されていた。また、革命前のロシアにおける識字率は都市部では60%、農村部では20%だったが、少数民族の場合は極端に低く、例えばチュルク系のキルギス人は0.6%、トルクメン人は0.7%、ウズベク人は1.6%、カザフ人は2%にすぎなかつた。（栗洪升主編『中国与前苏联民族問題対比研究』、中央民族大学出版社、163頁）

却させるためであったとされ³³、この「文化革命」を通じて、汎イスラム主義思想と汎チュルク主義思想に打撃を加えるという、微妙な政治的動機が強く働いていた。このことをテリー・マーチン（2011：238）は、「ラテン文字化の目的は、迷信深いムスリムが古色蒼然たる文字への奴隸的な崇拜から解放され、アラビア語を操る聖職者への依存を断ち切ることだった」と表現している。

1928年12月から1929年にかけて、モスクワの中国労働者共産主義大学³⁴附設中国問題研究所とレニングラードのソ連科学アカデミー付属東洋学研究所において、中国共産党員の瞿秋白、呉玉章、林伯渠、蕭三、およびソ連の中国研究者のコロクロフらによって、中国語表記のラテン文字化に関する問題が検討されることになった³⁵。それは、シベリアの中国人労働者たちを対象に、習得に莫大な時間を要する漢字・漢文による識字ではなく、ラテン文字で表記した中国語で識字を進めるもので、ソ連における言語政策の一環として、瞿秋白らが「ラテン化新文字」を創造した。

瞿秋白は1929年2月、コロクロフの協力のもとに「中国拉丁化式母方案」を書きあげ、同年5月に中国労働者共産主義大学出版社から「стражов（ストラーホフ）同志著」（ストラーホフは瞿秋白がロシアで用いていたペンネーム）として、《Djungguoh Latinsshe Dzeemuu Tseauxann》（『中国拉丁式字母草案』）がガラス印刷（コロタイプ版）による大型本（27cm×18cm）

33 周有光『汉语拼音文化津梁』、新華書店、2007年、53頁

34 孫文（号は中山）の没後、第1次国共合作下の1925年にソ連と中国共産党によつてモスクワに設立された中山大学の後身。蒋介石の反共クーデターによって中国共産党が多大な犠牲を蒙つて国共合作が崩壊した後に改称されたもの。中国人革命家養成機関で、多いときには400名の中国人留学生が在籍したが、かつてから国共合作に反対していたトロツキーを支持する留学生が多数派を占める中で、スターリン派の呉玉章や林伯渠らは、中国革命の性格規定にかかわる中国の土地問題の研究を行い、トロツキー派との激論を繰り返していた。（呉玉章「回忆林伯渠同志」「呉玉章文集」（下）、1227頁参照）

35 大原信一「中国の「国語羅馬字」と「拉丁化新文字」にかんする覚え書」『同志社大学外国文学研究』第6号、同志社大学外国文学会、1973年、55頁

で200部出版された³⁶。この草案のラテン文字によるタイトルからもわかるように、「国語羅馬字」と同様に、四声をラテン文字で本文中に組み込むため、文字数も非常に多くなる、複雑な表記法だった³⁷。その後、瞿秋白はコロクロフの協力を得てこれを改作し、同年10月10日に「中国拉丁化字母」を書きあげたが、これが実質的に「ラテン化新文字」の最初の草案となつた。これは1930年春にモスクワで刊行された雑誌『中国問題』第2期に瞿維托のペンネームで掲載され、その後、ロシア語で書かれた小冊子『中国拉丁化的字母 (ZHONGUO LATINHUADI ZEMU)』(「中国ラテン化の字母」)として、中国労働者共産主義大学出版局から3000部刊行された³⁸。

当時、ソ連におけるラテン化文字運動はソ連全土に拡大しつつあり、1930年5月までに、36の民族言語が新アルファベットを採用していた。

1930年8月15日、新チュルク文字連邦中央委員会（ソヴィエト連邦中央執行委員会通常会議で創設が決定された組織）は、ソヴィエト連邦中央執行委員会民族会議幹部会の提案によって、アゼルバイジャンのバクーからモスクワに移され、組織名称も新アルファベット連邦中央委員会（All-Union Central Committee of the New Alphabet or *Vsesoiuznyi tsentral'nyi komitet novogo alfavita*、「全ソ連新文字中央委員会」とも和訳される）と改称されている。この名称変更は、新アルファベット連邦中央委員会が持つ汎チュルク主義の傾向が批判され、ラテン文字化運動が汎チュルク的な

36 川上久寿「ソ連における瞿秋白」『人文研究』52号、小樽商科大学、1976年、42頁の注2

37 中村雅之（2006：2）は瞿秋白が江蘇省常州出身であること、入声を含めた5声の声調を認めていること、北方方言にも基づけば「dun/dong」と表記されるべき「敦／東」を「dun/don」と表記したように、「n」と「ng」の表記上の区別に鈍感であったことなどから、この瞿秋白の『中国拉丁化的字母』の表記は、事実上、（広義の）南京官話を基礎にしているとみなしている。これは後に、1931年の「中国文字ラテン化の原則」で北方方言に基づく表記法に修訂された。

38 費錦昌主編『中国语文現代化百年記事（1892-1995）』、語文出版社、46頁；倪海曙編『拉丁化新文字运动的始末和编年纪事』1987年、70頁～71頁。瞿秋白は、普通、ロシアでのペンネームстрапахвの頭の3字母を音訛したペンネーム「瞿維宅」あるいは「史維宅」を使っていた。（曹靖華 1963：73）

志向から離れて、新たに国際主義の任務を担うことを明確にさせるために、おこなわれたものだったという。こうして、ラテン文字化運動はチュルク系諸言語のみならず、シベリアの諸言語にまで、その対象とされるようになつていった³⁹。

『中国拉丁化的字母』が刊行されると、これはソ連の学術団体から注目を浴び、1930年5月23日、ドラグーノフはモスクワの中国問題研究所で、瞿秋白のこの字母方案についての報告をおこなった。その場に出席していたソ連の各民族のラテン文字化運動の関係者たちは、この方案に原則的に同意し、モスクワの中国問題研究所とレニングラードのソ連科学アカデミー付属東方学研究所で共同研究が進められることになった。そして、ドラグーノフ、コロクロフと瞿秋白によって、この修訂版を作成する専門グループが構成された。

その後、間もなくして瞿秋白が帰国したのち、吳玉章、林伯渠はウラジオストクに移動し、ドラグーノフ、コロクロフ、アレクセーエフ、吳玉章、林伯渠、蕭三、徐特立らによって研究が進められ、ドラグーノフが提議したQとVを除く24のラテン字を用いた字母による写字法が考案された⁴⁰。こうしてつくられた修訂版『中国北方話拉丁化方案』は、1931年5月、全ソ連新字母中央委員会によって批准された。

ソ連共産党の少数民族言語政策の一環として、1931年9月26日から29日まで、極東と東西シベリア各区の代表、ソ連中央行政委員会の新アルファベット連邦中央委員会の派遣団、及びシベリア在住の中国人労働者2千余名⁴¹が参加して、第1次ラテン化中国字代表大会がウラジオストクで開催

39 テリー・マーチン「アファーマティブ・アクションの帝国—ソ連の民族とナショナリズム 1923～1939」、明石書店、2011年、245頁。なお、1920年代から1930年代にかけて、ソ連政府は極東・シベリア地方に居住する文字を持たない少数民族の諸言語に対して、52種類の書写体系を創造した。（果洪升主編『中国与前苏联民族问题对比研究』、中央民族大学出版社、1997年、167頁～168頁）

40 邢公晚「重提拉丁化運動」「一九四九年中國文字改革論文集」（杜子勁編）、大衆書店、1950年、29頁

41 よく、「参加的有蘇聯各地華僑代表和中國工人二千多人」（倪海曙 1950：119）のよ

された。そして、13項目にわたる「中国文字ラテン化の原則」と、20項目にわたる「中国ラテン化字母及びラテン字母を用いた写字法」がシベリアの中国人労働者に対する教育用として、正式に採択された。

「中国文字ラテン化の原則」全13項目は、おおよそ次のようなことをうたっており、その後、国民党政府サイドの「国語運動」に反対しつつ進められた、「ラテン化新文字」運動の基本的骨子を示すものとなった。

- (第1) 中国の漢字は古代と封建社会の産物で、統治階級が苦しく暮らす大衆を圧迫する道具の一つであり、広範な人民の識字にとっての障碍物であって、今の時代にそぐわない。
- (第2) 象形文字を徹底的に廃除し、純粹な表音文字に置き換えるなければならない。また、象形文字の字画をもちいて表音文字をつくること、たとえば、日本の仮名や朝鮮の表音文字（ハングル）、中国の注音字母のような改良的な方法に反対する。
- (第3) 真にわかりやすく、労働大衆化した文字をつくらなければならぬ。
- (第4) 現代科学の要求にかなった文字を採用しなければならない。
- (第5) 國際化の意義を重要視しなければならない。
- (第6) ラテン字母を採用し、漢字をラテン化してこそ、以上の目的を達成することができる。また、そのようにしてこそ、形式において民族的で、内容においては国際的・社会主义的な中国勤労者および労働者の文化を発展させることができる。
- (第7) 中国古来の文言は中国の統治階級の言語であって、大衆の生き生きとしたことばとは遊離している。文言（文語）を学習することの困難性は、漢字それ自身を学習することより、決して小さくはない。こ

うに書かれるが、現場にいた呉玉章（1887：1312）は「工人一千多」（労働者千余名）と書いており、正確なことはわからない。

のような特權的言語は、中国の労働大衆があまねく文字を身に付けるうえで、「万里の長城」をなしている。漢字をラテン文字化する文字革命は、言文一致実現のための闘争である。

(第8) ラテン化を初級教育の道具とみなして、これまで通りに漢字と文語を教えようとする、自由派ブルジョア階級の態度に反対する。ラテン文字を用いて、中国労働大衆の口語に基づく書面語を形成することによって、大衆の言語を発展させる可能性をもたらすことができる。

(第9) ブルジョア階級の、いわゆる「国語統一運動」に反対する。ある特定の地方の発音を、全国の標準音とはしない。中国各地には、大まかにいえば、北方方言、広東方言、福建方言、江蘇・浙江の一部地方の方言、湖南・江西の一部地方の方言があるが、各地方の方言ごとに異なる綴り方を用いて、各地の文化を発展させなければならない。そして、まず北方方言を標準として教科書と辞書を編纂し、その後、その他の地方の方言を標準とした編纂作業を行う。

(第10) とりわけ、極東の中国人労働者の間で、正確でない話し方や不適切な翻訳語が用いられているが、これらはラテン化の過程で正しくして、新しい文字と文化を建設しなければならない。

(第11) ラテン文字化することによって、世界革命や政治や科学技術に関する術語を、中国語の中に容易に迎え入れることができる。そして、外来語を借用しようとするブルジョア民族主義の理論に反対するとともに、中国の一切の革命・政治・科学技術関連の術語を一律に、いますぐ国際的な字母に置き替えようとする、「左」派の主張にも反対する。

(第12) 新文字の実行によって、すぐに漢字を廃止するのではなく、新文字を大衆の生活の中で次第に推し進め、適当な時期に至ってから廃止する。

(第13) ラテン化の出発点は労働者の生活のことばに依っているので、中国語方言研究の仕事は、文化政治的な意味において最も重要である。

各方面から方言を研究し、これを広範に発展させることは、非常に必要なことである。

また、この「写字法」は瞿秋白の草案に基づいて修訂されたもので、吳玉章、林伯渠、蕭三、王湘寶、ドラグーノフらが起草者となっていた。このようにして、中国ラテン化字母は、モスクワの新アルファベット連邦中央委員会の批准を経たものとなった。また、「遠東地区新字母委員会」（「遠東」は「極東」の意）が設立され、シベリアにおける中国人労働者に対するラテン化新文字の普及と、識字運動が推進されることになった。1932年には、新アルファベット連邦中央委員会から《Latin-xua Zhunguo Wenz Pinjin xo Sjefa di Cankaoshu》（『拉丁化中国文字拼音和写法的参考書』[「ラテン化中国文字の表音および正書法参考書」]）（蕭三主編）がラテン化新文字表記の中国語と、漢字表記の中国語と、ロシア語の、2言語3文字体系対照の形で出版された。

テリー・マーチン（2011：249、250）によれば、1930年から1932年にかけて、新アルファベット連邦中央委員会がラテン文字化の重点目標に位置づけたものが3つあり、そのひとつが、中国語と朝鮮語のラテン文字化だったという。そして、中国語と朝鮮語のラテン文字化が重視された理由として、「一つはラテン文字化を強制しようとする対象の圧倒的多数が国外におり、しかも共産主義革命にかなりの期待が持てる地域の人々だったこと」、および、中国語と朝鮮語は「表音文字たるラテン文字への切り替えが相当に厄介」であることが挙げられていた。

朝鮮語に関しては、ラテン文字アルファベット案が承認されたが、実際には用いられなかった。中国語の場合、相互に理解不可能な方言が乱立しているため、中国語のラテン文字化に反対する人々は、「表意文字の漢字しか中国を一つに束ねるものはない」と主張したが、「ラテン文字派」は「こうした主張はソ連の民族政策に矛盾する。人工的な「国家語」ではなく、方言を優先すべきだ」と反論したという。そして、互いに極めて近い言語

であるチェチェン語とイングーシ語に2つの別々の文章語が作られることにより、別々の自治州が生まれたように（1922年11月30日にチェチェン自治州成立、1924年7月7日にイングーシ自治州成立。1934年1月15日に合併）、「民族語による地域区画」という原則にのっとり、中国語の5大方言それぞれに、5つの異なるラテン文字アルファベットを作ることになったという。

このような方針に対して、中国人の中には、将来の共産主義中国の領土保全を危うくすると憂慮する人もいたが、「ブルジョア民主革命の制約下にあっても、各民族の言語と文化の自由な発展、および独自国家の形成を含む諸民族の完全な自決権は、民衆的な多民族国家を成立させる基本条件である」という論理で説き伏せられたという。

テリー・マーチンが紹介した、上記のようなソ連における中国語のラテン文字化をめぐる議論から、瞿秋白らの「ラテン化新文字」運動における基本理念の原型を読み取ることができる。

「ラテン化新文字」はソ連共産党の少数民族言語政策の一環としてつくられたものであつただけに、「ラテン化新文字」が中国国内に伝えられると、これに抵抗感を示す風潮が見られたため、「我々が新文字を普及させることに関する意見」（1936年7月1日）では、ウラジオストクの華僑も中国人であるということを誤解してはならず、この方案は外国でつくられたものではあるが、やはり中国人の作品であるから差別してはならないと、わざわざ言及していた。

中国における文字改革は、ソ連の民族政策や中ソ関係との関連において考察することも必要である。中国で「ラテン化新文字」運動が展開されてきたころ、ソ連ではすでに1936年から、少数民族諸言語の書写体系において国際主義実現にとって最もふさわしいとされたラテン字母による表記をやめ、キリル字母に置き換える運動が始まっていた。1954年10月に訪中してから1年余りの間、中国科学院語言研究所および中央民族学院の顧問として、中国少数民族の民族識別工作と文字改革に多大な指導的影響力を

及ぼしたセルデュченコ（1956：76）は、中国で講演した内容をもとに書いた自著で、ソ連の各少数民族が、その兄貴分にあたるロシア民族のロシア語とキリル文字化を自主的に受け入れたのだと、次のように主張している。

「ソビエト国家が建国されて、はやくも20年が経過した。この10月革命以後の20年の間に、ソ連の各族人民の社会政治的、文化経済的発展の方向に根本的な変化が生じた。ソ連各族人民の関係、および彼らの兄、すなわち偉大なロシア人民との関係にも、根本的な改変が生じた。レーニンとスターリンの民族政策も、ソ連の各族人民と異なる言語を話す人民を、緊密な一つの不可分な大家族として団結させる各民族友好の政策であり、各族人民がロシア人民とロシア文化を信頼しない状況は、すでに過去のものとなった。まさにこのような条件のもとで、ソ連の各族人民はロシア語とロシア文字に対する態度を改変させ、そして、自民族のより一層の発展のため、統一的なソビエト国家、すなわちソビエト社会主义共和国連邦をより一層強固にするために、彼らは極力、ロシア語とロシア文字を使用し始めた。」

ソ連内少数民族に対するロシア化政策の一環として進められた、少数民族語のキリル字母化政策の目指すところは、以下のように、いみじくもセルデュченコ（1956：77）自身が、さまざまな少数民族の言語文化をロシアの言語文化に接近させることにあったと述べている。

「なぜ、ラテン字母をロシア字母に置き替えるのか？その主なわけは次のとおりである。

(一) ロシア字母はロシア人民に対して巨大な文化政治的意義を有しているのみならず、ソ連内のその他の各族人民にとっても、同様に重大な意義を有している。

- (二) かつて、ツァーリズムの政策によって、あのような不信頼を醸し出すところとなつたが、旧ロシアの各民族がすべてのロシア民族を信頼しない状況はすでに解消された（ツァーリズムはかつて、常に強制的手段を用いてロシア語を旧ロシア帝国の各少数民族に受け入れさせ、かつ主に布教し、ロシア化の目的のためにおこなつたが、このためにある種の不信頼感が醸成された）。
- (三) ロシア文字は多くの書写上と教育学上の長所を有している。
- (四) ロシア語とソ連内の多数の民族文字の間にある書写上の不一致現象を除去し、各少数民族の学校で学習に障害を与えていた民族語とロシア語の不一致現象を解消する。

その後、中国文字改革研究委員会創立大会（1952年2月5日）で馬叙倫がおこなつた開会辞において、「また、3、4か月前に主席は、文字は必ず改革しなければならず、世界の文字と共通した表音式表記の方向に進まなければならぬ。形式は民族的で、字母と方案は現有の漢字に基づいて制定しなければならぬと、私たちに指示しました」と、文字改革に関する毛沢東の指示を紹介した。この指示には、「ラテン化新文字」運動を否定するとともに、ロシア文字は用いないようにしろという含みがあったと解することができる。事実、ソ連は中国に対して中国語表記を漢字からロシア文字に置き替えないかと働きかけたこともあった。北朝鮮でも1950年代には「語彙の国際化」（すなわちロシア語化）と称して、かつて日本語経由で朝鮮語に借用された「トラクター」などの外来語をロシア語式発音に基づいて語形を改変する作業が進められていた。このように、社会主义兄弟国家間の国際語たるロシア語は、国内のみならず国境を越えてその浸透を図っていたが、ソ連の言語政策を通じたロシア化の企図に対しては、周辺民族から少なからず警戒の目にさらされていた。

III-4. 陝甘寧辺区における「ラテン化新文字」運動の抑制

中国共产党および中国労農紅軍が建設した中華ソビエト共和国に対する国民革命軍（国民党政府軍）の包囲殲滅作戦に耐え切れず、共产党・紅軍は中華ソビエト共和国（その中心は人口約300万人の江西中央ソビエト区）を放棄して脱出し、結果的に江西省瑞金から陝西省延安までの約12,500キロに及ぶ「長征」（Long March、1934年～1936年）をおこなうこととなった。そして、陝西省・甘肃省・寧夏省一帯に新たな革命根拠地として陝甘寧革命根拠地を建設した（1937年8月の第2次国共合作後、それまでソビエト区と呼ばれていた中国共产党支配地域は「辺区」と改称され、国民政府はこれを正式の行政機構として承認した。「辺区」とは省境地帯に複数の省をまたいで建設された革命根拠地のこと、中国語では「陝甘寧辺区」と呼ぶ。「辺」は境界、「区」は区域の意）。

陝甘寧辺区において、1940年1月4日から9日間にわたり、陝甘寧辺区文化協会代表大会が開かれ、呉玉章を主任とする新文字運動委員会が設立された⁴²。その後、1940年11月7日に陝甘寧辺区新文字協会の設立大会が延安で開かれ、辺区政府は「ラテン化新文字」に法律上の合法的地位を与え、新文字を用いても、漢字を用いても、法律上同等の効力を有することが、陝甘寧区政府の林伯渠主席によって宣布された。また、あわせて、陝甘寧区政府の法令、公告などの重要な公文書は、すべて「ラテン化新文字」で印刷するとともに、漢字でも印刷することが宣布された。そして、この日を「中国文字革命記念日」と議定した⁴³。こうして、「ラテン化新文字」運動は陝甘寧辺区においても、徐々に進められていた。

そんな中で、1941年12月7日から3日間にわたって開催された、陝甘寧辺区新文字協会第1回年会で呉玉章がおこなった報告「新文字を適切に普

42 栗洪武『陝甘寧辺区新文字教育运动編年纪事』、陝西師範大学出版社、1994年、60頁～61頁

43 費錦昌主編『中国语文现代化百年记事（1892-1995）』、語文出版社、1997年、87頁

及させる過程における経験と教訓」⁴⁴において、文字改革の歴史を回顧しながら、「ラテン化新文字」運動に対する劇的ともいえる反省と見直しがなされた。

この会議の「主席団」には、林伯渠、李鼎铭、吳玉章、徐特立、羅邁（李維漢）、喬木、蕭三、歐陽山、張繼祖、景林、政義（盧正義）が選出されたが、注目すべきことは、「名誉主席団」として、孫科、張一燭、吳稚暉、陶行知、黎錦熙、趙元任、周弁明、董必武、成倣吾、林語堂、葉籟士、陳鶴琴らが招待されたことである⁴⁵。国共合作時代であればこそその画期的なもので、共産党統治下、国民党統治下を問わず、文字改革運動の重鎮が一堂に会したものだった。それゆえ、吳玉章は注音字母や「国語羅馬字」に対する最大限の賛辞を惜しまず、文字改革運動での大同団結を訴えかけた。

報告では、まず、辺区における「ラテン化新文字」運動の成果を評価しつつも、新文字の普及は、一部の限られた人々だけの問題ではなく、また、数百年、数千年にわたる人類の生活と不可分の問題であるから、この間の小さな成果に自己満足することなく、虚心にこれまでの運動を反省し、欠点と過ちを改めなければならないと前置きをしたうえで、まず、「ラテン化新文字」運動が「排他主義」（原文は「閥門主義」）に陥っていると、自己批判した。

「ラテン化新文字」は瞿秋白と何人かの共産党員によって提起され、遠東の中国人労働者によって現行方案が承認されたために、新文字は共産党とは密接な関係にある。それゆえ、新文字の普及は共産党が果たすべき責任であるとみなし、一部の同志はつねに極左的スローガンを口にして、新文字をひどく政治的なものにし、おのずから排他的傾向が作り出された。このように、出発時から濃厚な政治的色彩を帯びていたため、国民党側は新文字運動を「赤化運動」とみなし、過度の拒絶反応を引き起こす原因とな

44 「吳玉章文集 上」、重慶出版社、1987年、642頁～649頁

45 費錦昌主編『中国语文現代化百年紀事（1892-1995）』、語文出版社、1997年、93頁

っていると、自己批判的に指摘した。

注音字母に対しては、漢字改革を行うものではなく、また漢字の注音符号ではあるが、「漢字改革にとって大きな進歩の第1歩であり、その偉大な功績は決して消え去ることがない」と高く評価した。

「国語羅馬字」の制定に対しては、根本的な漢字改革の始まりであると高く評価し、呉玉章自身がその修訂作業で中心的役割を果たした1931年のラテン化新文字方案についても、「国語羅馬字」がおこなってきた漢字改革事業を、ただ単に受け継いで、改良したものに過ぎないと指摘したことは、「ラテン化新文字」運動を主導してきた呉玉章にしては、全く自虐的としか言いようのないものだった。こうした発言は、果たして呉玉章の自発的意愿に基づくものだったかどうか、疑わしく思われる。そして、今後は排外主義の過ちを改め、新文字を一党一派の少数者のこととは考えず、皆が心を一つにし、協力しあってこそ、偉大な文字改革の任務を完成させることができると主張した。

また、呉玉章は「ラテン化新文字」運動におけるセクト主義（「宗派主義」）の誤りについても言及した。「ラテン化新文字」は「国語羅馬字」の発展したものであり、「国語の統一」か「各地の方言の発展」か、あるいは四声表示が必要か必要でないかを巡って、双方にいくらかの相違はあるが、これらはさほど根本的なことではない。双方が心を合わせて協力し、共通の目的に向かって提携しなければならないのに、排他主義やセクト主義によって互いに攻撃しあい、学術的に論争するのではなく、政治と党派の問題になっていると批判した。

さらに「主觀主義」的に独りよがりな考えに陥り、新文字や漢字に対する客観的な判断が疎外されていると指摘した。

引き続いて、今後の陝甘寧辺区新文字協会の任務として、次の3点をあげている。

- (1) 文字改革運動関係者が団結し、各種の言語改革運動に携わる団体や人々、たとえば、趙元任、黎錦熙、周弁明、林語堂、更にはカールグ

レン、ドラグーノフらと広範に連絡を取り合い、エスペラント団体とも密接に協力し合わなければならぬ。

- (2) 辺区政府の新文字普及を援助することに、より適切かつより一層努力しなければならない。
- (3) 文字を改革する研究をより深めなければならない。

新文字協会で呉玉章がおこなった報告は、おおまか以上のような内容だったが、これをどう評価すべきだろうか。まず、注音字母や「国語羅馬字」制定の当事者であった重鎮学者たちを前にして、文字改革運動における国共合作、漢民族大同団結を訴えかけた報告内容が、呉玉章個人で作成されたものとは、到底考えられない。慎重な党内論議を経なければならぬ、国民党支配下の知識人を懐柔して取り込もうとする党の重大政策といえる内容だからである。藤井（宮西）久美子（2003：81）は、「瞿（秋白）と共にソ連で「ラテン化新文字」の研究に携わった呉だからこそ、過ちにいち早く気付き、方向修正を訴えることができた」と呉玉章個人の思考に基づく発言であるかのようにみなしているが、そのことを証明するすべはない。むしろ、依然として「ラテン化新文字」の普及が新文字協会の今後の任務として盛り込まれていることから、呉玉章は党内会議において、新文字反対派の意見に対して、みずから節を曲げることはしなかったのではないかとも考えられる。

また、新文字運動の過ちに気づき、「方向修正を訴えた」ことゆえに、「呉は瞿の文字改革理念の継承者である」という藤井の主張では、瞿秋白がそのような方向修正を望んでいたであろうという根拠も示されておらず、單なる憶測の域を出ない言説である。

さらに、「呉による批判もあって、陝甘寧辺区では、1942年以降は、新文字だけに固執することなく漢字による識字教育も行われることになった」という記述は事実に反する。たとえば、長征直後の1936年冬に陝北省で農

民対象に行われた「冬学」では、「漢字冬学」が主とされ、「漢字冬学」において条件が整ったところでは、まず新文字を教え、さらに新文字での注音を利用して漢字を教えることにしていたし⁴⁶、陝甘寧辺区新文字協会第1回年会が開かれた前後の時期、すなわち1941年11月中旬から1942年1月までの「冬学」でも「新文字冬学」と「漢字冬学」が並行して実施されていたからである。

「ラテン化新文字」運動に対する抑制措置は、1942年の「整風運動」からとられ始めたと見ることができると考えられる。

1942年から1943年にかけておこなわれた整風運動とは、「党風、学風、文風」の三風を整頓する「三風整頓」運動、及び形式主義的、官僚主義的な文体である「党八股に反対する闘争」を指す。

「三風整頓」は、政治的に毛沢東の専制的指導権確立を図るもので、「党風」の整頓とは、具体的には党内に残存する「留ソ派」や反対派の肅清を狙ったものだった。

第2次国共合作後、共産党支配地域に対する国民党による封鎖が解除されたあと、国民党支配地域から知識人たちが次々と延安に移ってきたが、「整風運動」はこれらの知識人の「プチブル性」を克服させ、「眞の労働者・農民・兵士のための文芸、眞のプロレタリア階級のための文学・芸術」を徹底させるというリトマス紙を用いて、毛沢東が知識人たちに仕掛けた思想闘争であり、肅清劇だった。

資本主義文化を受け継ぐことなしには、社会主义は建設できないとしたレーニンの文化論と同様、フランス文学を好んで読むなど、その豊かな命生活のなかで西欧ブルジョワ文化から多くを学びとったトロツキーは、「各々の階級が自らの芸術を、徹頭徹尾、自らのうちからのみ作り出すかのように考えること、とりわけプロレタリアートが新たな芸術を閉鎖的な芸術ゼミナール、芸術サークル、プロレトクリト（プロレタリア文化、

46 上掲『陝甘寧辺区新文字运动編年纪事』、19頁

Proletarskaya kul'tura) 等々を通じて創り出すかのように考えることは、子供じみたことだろう。一般に、歴史的人間の創造活動は継承的である」(トロツキー「文学と革命」、1925年)と主張して、ロシアの非文化性に警鐘を与えていた。西欧ブルジョア文化を知らない毛沢東の政治主義的文化・文学論の押し付けに対し、モスクワに留学し、レーニンやトロツキーの思想にふれた「留ソ派」知識人たちは、相当な閉塞感を覚えたに違いない。

1942年5月、延安で開かれた「文学・芸術座談会」でおこなった講話(いわゆる「文芸講話」)のなかで、毛沢東は「彼ら(労働者・農民・兵士—引用者注)は、長いあいだ封建階級およびブルジョア階級に支配されていたために、字が読めず、文化をもたぬということ、そのために彼らは、普遍的な啓蒙運動といったものを切実に要求しており、自分たちが今すぐ必要な、受け入れやすい文化知識や文芸作品を手に入れて、自分たちの闘争意欲と勝利への確信を向上させ、自分たちの団結を強め、それによって自分たちが一心同体となって敵と闘争できるようになりたいと切実に要求している」とし、「彼らにとって、何よりも必要なのは、まだ‘錦上に花を添える’(より良いものを加える)ことではなくて、やはり‘雪中に炭をおくる’(最も困っていることに救いの手を差し伸べる)ことである。であるから、現在の条件のもとでは、普及活動の任務の方がずっと切実である」と論じた。そして、「普及活動」('雪中に炭をおくる')を重視しつつ、その過程で「向上」も伴わなければならぬと主張しつつ、いつまでも‘人・手・口・刀・牛・羊’(画の比較的簡単な漢字で、どの小学国語読本でも、最初の教課に配置されていた漢字)をくり返すとすれば、そのような普及活動には意味がないと論じた。これが「文芸講話」で毛沢東が文字教育について触れた唯一の部分だが、明らかに人民大衆の文化水準を向上させるための文芸「普及活動」は、漢字による識字教育を前提として行うことを言明したものだった。

若林満他(1995:73)は、「この政策(「ラテン化新文字」による識字運動—引用者注)は、大衆の要求と合致しなかった。中国の農民たちは、幼

年から漢字を見るに慣れていたので、漢字がローマ字に代わることに戸惑い、文盲状態の農民にとっては尚更わかりにくく、あまり歓迎されなかった」とし、「整風運動は政策の基本を大衆路線に置いたため、「新文字」の推進は再検討を余儀なくされ」たため、「“普及”の大衆路線に基づき、文盲を一掃する基本政策は、農民に親しみやすい漢字の読み書きを教える、という識字教育に転換することとなった。従って、延安「整風運動」以後、識字教育が広範に推進されることになった」と指摘している。

これより前の1941年11月中旬から1942年1月までの農閑期に、全辺区28県・市で「新文字冬学」が実施された。栗洪武（1994：27）によれば、その実施規模は283か所（このうち23か所は「女冬学」）、受講者は5,712人（このうち、婦女子は621人）で、この数値には軍部隊、工場、民教館（民衆教育館）で実施されたものは含まれていない。若林満（1995：73）は「新文字冬学」の実施規模を400か所、受講者1万余名の青年男女文盲者だったと指摘している。なお「新文字冬学」のほかに、辺区内12の県で漢字による識字教育「漢字冬学」も並行して実施されたが、受講生は5,926名で、上記「新文字冬学」と同規模のものだった。「冬学」実施後にその成果を比較しながら総括されたように、従来通り漢字による識字を進めるべきだとする主張が依然強くみられる中で、1941年の「新文字冬学」は、「ラテン化新文字」による識字と、「漢字」による識字との間にみられる効率性の優劣を試すための試行的段階にあった。

モスクワのコミニテルン執行委員会から延安の中国共産党中央委員会に派遣された連絡員で、ソ連国営タス通信の特派員として、1942年から1945年まで延安に滞在したピョートル・ウラジミロフは、その間の事情を、スターリン体制のもとで生きていたロシア共産党员の視点から、中国共産党的監視の目から逃れやすい日記帳に記録していたが、彼は整風運動が「反ソ」運動的な様相を呈していることを見抜いていた。

ウラジミロフは1942年5月17日付日記に、毛沢東が1942年2月で行った講話について、「突然、セクト主義者、教条主義者、経験主義者、主觀主義

者を非難し始め、彼らを共産党最大の敵と決めつけた。この毒舌の中で、彼は誰の名もあげなかつた。」⁴⁷と書いており、その約1年後の1943年4月10日付日記では、毛沢東のいう「教条主義者」とは「ソ連やマルクス・レーニン主義や國際主義に対する公然たる反感を具体的にしたものにはならない」ことに気付いたと書いている。また、毛沢東が整風運動で党内での学習を義務付けた22冊の本（「二十二書」）は、「公然たる反ソ・反マルクス主義の文献は含まれていないが、学習を義務づけられた古典小説（『三国志』『紅樓夢』『水滸伝』－引用者注）と並んで、民族的尊大さや、ソ連への否定的態度を醸し出すように編集されている。」⁴⁸とウラジミロフは記している。

さらに、整風運動の「反ソ」的性格を明確に見抜いて、1943年8月28日付の日記では、「“三風整頓”運動なるものは実は、“教条主義者”と“モスクワ派”をなぶるものにはならない」⁴⁹と記し、1943年12月23日の日記では、整風運動における「反党」分子の摘発に及んだことを、以下のように記録している。

「“三風整頓”運動が苦い実を結びつつある。中共中央委政治局拡大会議は博古、王明、楊尚昆その他“モスクワ派”的“降伏主義的、メンシェビキ路線”暴露の結果を総括した。彼らの政策は反党的烙印を押された。“モスクワ派”に思想的指導を受けている“教条主義者”は“国民党の前に叩頭し”、中国革命の思想に“西洋のマルクス主義的ドグマ”を持ち込むことを授けた、革命の裏切り者の烙印を押されている。」⁵⁰

こうした反ソ的な政治的肅清の動きは、ソ連生まれの「ラテン化新文字」

47 ピョートル・ウラジミロフ『延安日記 上』、サイマル出版社、1973年、16頁

48 同上、101頁

49 同上、132頁

50 同上、167頁

運動にも影響が及ばないはずもなかつたが、漢字を排斥することへの抵抗感も強く存在していた。かつて、1941年8月に辺区政府は、政府布告で「新文字に対する認識が不十分で、積極的に学習せず、これを用いることに消極的であつたり拒絶したりする者がいる。幹部の中にも模範を示さず、また、新文字で書かれたものの使用を拒絶する者がいる」⁵¹と指摘していたが、字を知らない庶民の中には漢字を習得したがるものも多く、識字層の中にも「ラテン化新文字」に拒絶感を示すものが、少なからずいたからである。

その後、1942年3月27日から28日まで、辺区教育庁が開いた「新文字冬季総括会」において、教育庁の庁長柳湜は、「今日、辺区の新文字運動はともかく始められましたが、新文字を採用して文盲を完全になくすことは困難です。なぜなら、漢字の影響が大きく、庶民が新文字を学んだところで読むものがないからです。」⁵²と話し、「ラテン化新文字」普及の前に横たわる隘路を指摘している。

栗洪武（1994：30）によれば、1942年春に始まった「整風教育學習」で、「ラテン化新文字」運動に対して「点検」が加えられ、「主觀主義思想の影響」が「克服」されたという。そして、「たとえ新文字が辺区で合法的地位を有し、漢字と同等の効力を有していると認識していても、漢字は社会において絶対的優位を占めている。したがって、新文字はその使用において多くの隘路がある」として、「ラテン化新文字」に対する漢字の優位性が確認された。また、「ラテン化新文字」を教える教師が不足しているため、辺区の全域でこれを広めることは困難であるとして、「1942年冬は新文字掃盲（識字－引用者注）教育実験の地域範囲を縮小、延安県を中心として新文字冬季学校を行ない、力量を集中してさらに実験を深める。その他の地方で依然として新文字冬季学校を行ってもよいが、辺区政府は人を派遣しない」⁵³

51 栗洪武『陝甘寧辺区新文字教育运动編年纪事』、陝西師範大学出版社、1994年、102頁

52 同上、144頁

53 同上、30頁

と、「ラテン化新文字」運動を抑制する決定を下した。その後、「1943年後半に新文字運動は停頓状態に陥った。3年半におよぶ陝甘寧辺区新文字掃盲教育運動は停止し、その歴史を終えた」⁵⁴とされている。

イギリスの新聞マンチェスター・ガーディアン紙 (Manchester Guardian) の重慶特派員として訪中したベルリン生まれのユダヤ系ドイツ人ガンサー・スタイン（もしくはグンター・シュタイン、Gunther Stein）は、1944年6月9日に延安に入り、その後約4か月にわたり、延安を中心に辺区の実情を調査し、当時の識字運動についても *The challenge of red China* (邦訳『延安 一九四四年』、みすず書房、1962年) に記録している。これによれば、辺区の民衆の90%が全くの非識字者で、その知的水準は中国の他の地域に比べてさえ甚だ低かった状況に対し、中国共産党は2つの方面からの教育を図った。その一つは、年齢に関係なく読み書き能力を身に付けさせる近道として、漢字ではなく「ラテン化新文字」による識字運動をおこなうことであり、もう一つは児童の義務教育を実施することだった。しかし、これらは「余りに急進的であり、時代に先んじすぎていた」ために、失敗に帰したという。「ラテン化新文字」については、「村の集まりや党幹部との談話で、普通の農民たちは、子供らばかりでなく彼ら自身にとっても、漢字が必要だと語った。読み書きを習おうとするなら、役人、地主、商人が読んだり書いたりし、また、それで書物がすべて印刷してある文字による以外しようがない」と、話したという。

また、郷紳や多くの知識人は「一切の必要文献を新文字で再版するだけの、便宜がないではないか。すでに漢字を身につけた人たちを、一夜で再教育するなんて、出来っこがない。それよりは、漢字をいろいろに発音する方言を統一するとか、共通の副次言葉として、北京官話を採用することの方が、先決問題である。しかも、それにこれからが、平和時にあってにせよ、数十年を要するだろう。」と公然と語ったという。そして、「ラテン

54 同上、33頁

化新文字」を学んだ人々には、その効果があったが、「エスペラントを話す仲間と同様に、孤立した集まりであった」状態で、「ラテン化新文字」は普及するに至らなかつたと書いている。義務教育については、「経済的改善や学校施設の整備が追いつくまで、数年間延期する」とされ、「ラテン化新文字」については、「平和と政治的統一が訪れる時代となって、話し言葉の統一が——中国の眞の近代化にとって不可欠な条件が——見ごとに達成される、次の世代位まで延期する」とされ、「何はともあれ、“たつた”千字を利用して『群衆報』（週刊紙『辺区群衆報』）のことで、『陝西日報』の前身——引用者注）を読めるようになることが目標に掲げられ」たと、ガンサー・スタインは記録している⁵⁵。

上に紹介したように、陝甘寧辺区における「ラテン化新文字」運動に対する反応は否定的なものとなつており、すでにこの時代に決着がつけられていたものとみられる。このような決着は、明らかに毛沢東の整風運動が契機となっており、「ラテン化新文字」がソ連の少数民族に対する言語政策の一環として成立したという生い立ちは、「反ソ」、「反モスクワ」的姿勢を示していた毛沢東にとって、快いものではなかつたと思われる。その確かな証明を筆者はなし得ないが、遅くとも、整風運動を進めていたころには、毛沢東は「ラテン化新文字」運動に否定的な姿勢を固めていたと考えてよいだろう。1921年の中国共産党結党時からの古老党员であり、陝甘寧辺区政府主席であった林伯渠は、かつて瞿秋白、呉玉章とともにソ連滞在中に『中国ラテン化字母』という小冊子を作つた人物である。それだけに毛沢東は、「ラテン化新文字」に対する否定的見解の披瀝には、慎重を期していたのかもしれない。

ソ連で「ラテン化新文字」創製に直接かかわり、新文字委員会の主任であった呉玉章は、陝甘寧辺区における「ラテン化新文字」運動で中核的役割を担つていたが、1952年の中国文字改革研究委員会設立大会の場で、言

55 ガンサー・スタイン『延安 一九九四年』、みすず書房、1962年、182頁～183頁

語上部構造論を主張していたことを自己批判することを通じて、中華人民共和国建国後、「ラテン化新文字」運動の指導部が、公的にその旗を降ろすこととなった。

III-5. 文字の上部構造論とスターリン論文

1950年6月まで、ソ連の言語学界ではグルジア人のニコライ・ヤコヴ列ヴィチ・マル（1865年-1934年）による「新言語理論」が独裁的な影響力をふるっていた。この理論は、マルの愛弟子であり、アカデミー会員であったメシチャニノフによって継承・補充され、史的唯物論に理屈を合わせて、言語を上部構造とみなすものだった。マルの「新言語理論」形成のプロセスと、言語が上部構造であるということを、メシチャニノフは1948年に刊行した小冊子で、次のように論じている。

「マルは、（言語発生の一引用者注）最初のはじまりの段階から現代の生きた言語に至るまで、言語のすべての発達過程に関心を持っていた。ソ連の豊富な言語が地球上の多様多彩な無数の言語の一般的背景の上で考察され始めた。新言語理論は、こうして一般言語学の新たな方向となつたのである。依然として歴史学者としての関心に満ち溢れていたマルは、特に言語学的な自己の仕事の中でも以前と同様、同じ歴史学者としてとどまっていた。このようなわけで、マルはその言語を使用している人民の歴史に対する知識なしに言語を研究することは、全く不可能なことであると考えていた。ここから、社会的現象である言語は、その研究過程それ自体の中でも、過去と現在のその構造の細目にわたって、社会的根底から必ず説明されなければならないというマルの主張が帰結し、また、それゆえに“言語と社会”というテーゼとして定式化される、マルの基本命題が提起されることとなる。このテーマの究明はマルをして、社会および社会的なすべての現象（したがって言語までも）の発展に関するマルクス・エンゲルス・レーニン・スターリンの理論の主要命題と緊密

に接触させた。ここに、社会的基盤と言語と思惟の弁証法的統一の土台の上に構築される、唯物論的言語理論の基礎が置かれることとなった。社会形態の歴史的発展過程、経済構造と労働活動条件の変化は、存在する意識の規範のなかに、そしてまた言語の現存体系、すなわち語彙論と文法論の中にまで反映されることとなる。語の内容のみならず、文法的規範の使命、そして文法的規範それ自体までも変化させことがある。
(中略) 言語はそれ自体のみで変化するものではない。言語の変化は物質的必要と、発達するイデオロギーの緊迫した要求を満足させながら、伝達の必要な手段として言語を利用する社会的環境がもたらすものである。」⁵⁶

このような言語を上部構造とみる理論は、ソ連共産党の影響下で瞿秋白、吳玉章たちによって進められた中国語のラテン文字化作業にも影響を及ぼしていた。上述の第1次ラテン化中国字代表大会（1931年9月、ウラジオストク）で採択された「中国文字ラテン化の原則」は、その第1項で「大会は中国の漢字は古代と封建社会の産物で、統治階級が苦しく暮らす大衆を圧迫する道具の一つである」とし、「中国にもとからある文言（文語）は中国の統治階級の言語である」（第7項）として、言語が上部構造であるかのような見解を打ち出していた。

瞿秋白の『中国拉丁式字母草案』（1929年）や『中国拉丁化的字母』（1930年）は、中国語における「ラテン化新文字」の最初の方案であつただけに、瞿秋白が「ラテン化新文字」の創始者であるといわれるゆえんである。この小冊子の冒頭で瞿秋白は、「中国の漢字は、大衆にとって本当にとても難しく、ただ紳士階級（有力地主や退職官吏－引用者注）だけがそれを学ぶたくさんの時間を有しているのであって、それゆえ、漢字は政治文化上の

56 メシチャニノフ「“新言語理論”發展의 現段階」（金寿卿訳）『조선어 연구』第1卷第2号、朝鮮語文研究会（平壌）、1949年、64頁～65頁

障害」になっており、「漢字廃除に反対するのは、実は紳士階級の定見である。彼らは漢字に頼って知識を独占でき、平民大衆を圧迫している」と、漢字が知識と情報の階級的な独占を保持させていた状況を指摘している。そして、ブルジョア的な「国語」の押し付けに対して、方言ラテン化運動を対置していた。周有光は、こうした瞿秋白の運動を批判して、次のように論じた。

「瞿秋白は中国の方言をソ連の民族言語と同列に扱った。この主張の共通的な特徴は、ただ中国の言語の分岐現象を見ただけで、中国人民の国家意識がすでに高揚し、大衆は「書同文」から「語同音」に前進することを切実に求めていることを見なかったことである。漢語ピンイン方案は国家共通語のピンイン方案であって、地域方言のピンイン方案ではない。」⁵⁷

「瞿秋白は中国の方言をソ連の民族言語と同列に扱った」という周有光の批判は、必ずしも当を得ていない。周有光は清朝から受け継いだ広大な漢民族統治地域において、ひたすらスターリン主義的な、漢民族全体に通じる国家語建設への希求を前提にして、瞿秋白を批判しているだけで、世界革命論が生き残っていた時代の、瞿秋白が理想とする思想とはかみ合っていない。

中国語の諸方言をラテン文字化することについての反対意見は、ソ連で「ラテン化新文字」をつくるとき、すでに内部で議論されていたことであって、決して中国語方言と少数民族言語を同列に扱ったわけではなかった。「ラテン化新文字」運動が進められた当時、「男女、種族、宗教」の如何にかかわらず、人々は法の前に一律に平等であるべきだとする理念は、方言話者間の平等を実現しようとする志向性を高めたとしても、何ら不思議な

57 周有光『汉语拼音文化津梁』、新華書店、2007年、184頁

ことではない。

瞿秋白は方言（土語）にそれぞれ「ラテン化新字母」を採用することによって、多種類の言語文字が併存する過渡期の到来を想定していた。このことについて、ソ連から帰国して半年ほど経った1931年2月7日付けのコロクロフあての手紙で、次のように明確に記している。

「普通話は依然として保存、発展させなければならず、同時に方言には表音方法をつくるなければならず、これらを“共存”させ、将来漢字を廃止したのちには、中国に必ず“多種言語文字の”国家の時期が生じるだろうと思います。」⁵⁸

中国共産党の民族政策は、かつてはレーニン、スターリンの民族政策を踏襲して、ソビエト社会主义共和国連邦をモデルにした連邦制国家建設を構想していた。1931年11月7日から18日まで、革命根拠地であった江西省中央ソビエト区の瑞金で開かれた中国労農兵ソビエト第1回全国代表者会議で「中華ソビエト共和国憲法大綱」（1931年11月7日）が採択されたが、これは将来の本格的な憲法作成への一里塚をなすはずのものだった。

この「憲法大綱」は、「男女・種族（漢・満・蒙・回・藏・苗・黎および中国に居住する台湾人・朝鮮人・安南人など）・宗教を分かたず、ソヴェトの法律の前では一律に平等」（第4条）であるとしたうえで、以下のように民族自決権の承認、連邦への加入・離脱の自由、自己の自治区域を樹立する完全自決権を認めていた。

「第14条　中国ソヴェト政権は、中国領域内の少数民族の自決権を承認し、つづいてさらに、各弱小民族が中国から離脱して自ら独立国家を樹立

58 人民文学出版社《新文学史料》編輯組「新文学史料」1982年第4期（総第17期）、人民文学出版社、1982年11月、92頁

する権利をも承認する。モンゴル族・回族・チベット族・苗族・黎族・朝鮮人など、およそ中国領域内に居住するものは、中国ソヴェト連邦に加入しましたはそれから離脱し、もしくは自己の自治区域を樹立する完全自治権をもつ。(中略) ソヴェト政権はさらに、これらの民族の中で彼ら自身の民族文化と民族言語を発展させなければならない。」⁵⁹

個人的にも瞿秋白を支え、「ラテン化新文字」運動に一役買った魯迅は、「新文字について」(關於新文字)という文で、「四角の文字である漢字は実

59 しかし、中華人民共和国建国（1949年10月1日）の直前の9月21日から9月30日にかけて開催された中国人民政府協商會議において、中華人民共和国最初の臨時憲法として採択された「中国人民政府協商會議共同綱領」（1949年9月29日）では、「大民族主義と偏狭な民族主義に反対し、民族間の差別、各民族の団結を圧迫し分裂させる行為を禁止する」（第50条）と規定され、この連邦制プランは廃棄された。そして、民族自決権は「民族を分裂させる行為」として否認された。そして、今日でも民族自治権は否定されており、「民族自治」ではなく、中華人民共和国から分離独立が許されない「民族区域自治」にレベルダウンされている。

上記「共同綱領」が採択された直後の1949年10月5日、第2野戦軍前線委員会が作成した「少数民族工作に関する指示」の草案に対して、共産党中央が見解を示した第2野戦軍宛の電文で、「共同綱領」の民族政策に関する規定にしたがって民族工作を行うように指示している。そして共産党中央はこの電文の中で、従来の民族政策を継承しない理由について次のように述べている。

「各少数民族の“自決権”問題について、現在、進んで強調すべきではない。かつて内戦の時期にあっては、我が党は少数民族を味方に引き入れるため、国民党の反動的統治に反対するため（彼らは各少数民族に対しては特に、大汉族主義を示していた）、以前はこのスローガンを強調していたが、これは当時にあっては全く正確なものだった。ただし、現在の状況はすでに根本的変化が生じており、国民党の反動統治は基本的に打倒され、我が党が指導する新中国がすでに誕生している。我々の国家的統一大業のために、帝国主義、およびその手先が中国民族の團結を分裂させようとする陰謀に反対するため、帝国主義および国内各少数民族の反動分子が利用して、我々が守勢の位置に落ち込まないようにするために、国内民族問題において、ふたたびこのスローガンを強調してはならない。」（中共中央文献研究室編『建国以来重要文献选編（第一冊）』、中央文献出版社、1992年、24頁）

当時、第2野戦軍は福建省、浙江省、江西省で国民党軍との戦いに勝利を収めたあと、少数民族が多く居住する四川省、貴州省、更には雲南省へと進撃する準備を整えているところだった。したがって、こうした少数民族地域の解放に伴って講ずべき民族政策を準備する必要があつたため、共産党中央にお伺いを立てたのだった。共産党中央から送られた上掲の返電は、少数民族に対する

に愚民化政策の有力な道具である」「漢字は中国労働大衆の体にできた化膿したもの」であるから、取り除かなければならないと言っている。

こうした主張に対しては、漢字の学びにくさと、労働大衆の不識字という根本的に異なるものを混同して論じて、漢字が統治階級の文字であると推論することは間違いであり、漢字の学びにくさは文字それ自体の形式の問題であり、労働大衆の不識（漢）字は社会教育の程度問題であるため、漢字廃除の理由にはならないといった反論がなされていた⁶⁰。

吳玉章は『新文字と新文化運動』という著作を、1940年2月に魯迅の『門外文談』と一緒にして『新文字論叢』という名の単行本で出版したが、その冒頭で文字は上部構造であると、次のようにドグマチックに断言していた。

「文字は文化の道具である。それは他の芸術、宗教、文学等と同様に人類社会の上部構造である。社会の経済的基礎が変化すれば、上部構造においても遅かれ早かれ変革が生じる。このため、私たちはそれぞれの国の文字変革の歴史を研究するとき、文字変革それ自体を研究するだけなく、その変革の経済的基礎も研究しなければならない。」⁶¹

また、「ラテン化新文字」運動を積極的に推進していた倪海曙（1949：13）は、「中国の生産方式の停滞により、中国の社会経済は決して西洋のような資本主義的発展を獲得していない。だから、中国の文字も古代的制度を保留しつづけている」と述べ、漢字は古代的制度に対応した遅れた遺物

政策を、時代状況ごとに都合よく変化させる権謀術数に満ちたものとしか言いようがない。その後、「共同綱領」の規定に基づいて、「中華人民共和国民族区域自治実施綱要」（1952年8月8日中央人民政府委員会第18次会議批准）第2条で、「各民族自治区はすべて中華人民共和国の分離できない一部分と為す」と規定された。

60 張瀕非「土語拉丁化批判」、抗戰出版社、1938年、8頁～9頁

61 吳玉章『新文字與新文化運動』、華北大学出版、1949年、1頁～2頁

であると論じた。文字の書体については、「甲骨文、金石文、篆、隸、楷、草、さらには俗字等の変化を経てきたが、システムは同じで大同小異だった。即ち書体からいうと、現在あまねく用いられている楷書もすでに2000年前の漢王朝の遺物となっている」とし、今日用いられている漢字の書体も、過去の遺物であると述べている。

この倪海曙の論理は、文字にも封建制度から資本主義制度に至る過程、即ち下部構造の変化に応じて、文字も上部構造として変化するという認識に基づいている。ヒエログリフからローマ字へと変遷していったように、通時的に象形文字から表音文字への変化が普遍的な文字の発展法則であるとの前提に立つ論理であるが、封建社会から資本主義社会への社会発展とともに、文字が上部構造として、そうした下部構造の変遷に対応する史的唯物論的な変化が生じることの論証は、どこにも見られない。

ところが、1950年6月22日、マルの言語理論を批判して、言語は上部構造ではないと言明したスターリンの論文「マルクス主義と言語学の諸問題」がソ連共産党機関紙「プラウダ」に掲載されるや、そのおりを食らって「ラテン化新文字」運動は、とどめを刺される羽目に陥る。

「マルクス主義と言語学の諸問題」の冒頭で、「(問) 言語は土台の上に立つ上部構造であるというのは正しいか。(答) いや、正しくない。」という問答のあと、スターリンは次のように説明している。

「ロシア社会とロシア語を例にとってみよう。最近の30年間に、ロシアでは古い資本主義的土台が根絶され、新しい社会主义的土台が建設された。これにおうじて、資本主義的土台のうえに立つ上部構造は根絶され、社会主义的土台に照應した新しい上部構造がつくりだされた。したがって、古い政治的・法律的その他の機関は新しい社会主义的機関におきかえられた。だが、それにもかかわらず、ロシア語は基本的には10月革命前と同じであった。(中略) 言語は、この点で上部構造とは根本的にちがっている。言語は、一定の社会のなかで、あれやこれやの土台によって、

つまり古い土台とか新しい土台とかによって生み出されるのでなく、何世紀にもわたる社会の歴史といくつもの土台の歴史との歩み全体によって生み出されるものである。言語は、なにかある一階級によってつくられるのでなく、社会全体によって、社会のすべての階級によって、何百もの世代の努力によってつくられたものである。言語は、なにかある一階級の要求を満足させるためにつくられたものではなく、社会全体の、社会のすべての階級の要求をみたすためにつくられたものである。だからこそ、言語は、社会にとって単一な、社会の全成員にとって共通な、全国人民の言語としてつくられているのである。」⁶²

天津のロシア帝国領事館の秘書官の子として山東省で生まれたアルタイ言語学者ニコラス・ポッペが『回想録』（“Reminiscences”、1983年）のなかで、「彼（マル）の説を支持する人々、それに精通していた人々の大部分は、無節操な悪漢のような連中で、マルと意見を異にする人々のことを反革命分子、反マルクス主義者呼ばわりしていた」と書いているように、マルの言語理論が絶対的な権力をふるっていたソ連国内とは異なる中国でも、人々の変わり身は素早かった。張芷という人が書いた『論中國文字改革的統一戰線』（「中国文字改革の統一戦線を論ず」）の初版（1950年7月）では、それぞれの民族の文字は、当然のこととして、それぞれの社会の上部構造であると明確に述べていたが、「本書は『論中國文字改革的統一戰線』の第三版修訂本である」と明記して、同じ出版社から書名を変えて出版された『條條道路通向拼音文字』（「いろいろな道がピンイン文字に通じる」）（1953年1月）では、上記初版本で上部構造論を論じていた部分がごっそりと削除され、「漢字はそれ自体階級性を有さない」と、正反対のことを述べている。ここからも、中国において言語や文字が上部構造であるという議論は、なんら論証もなしえないまま、ソビエト言語学からの受け売りをし

62 田中克彦『「スターリン言語学」精読』、岩波書店、2000年、184頁、187頁

たものに過ぎなかつたことがうかがわれる。このように、以前主張していた論と全く正反対の論を提示するのに、ただ改訂版で該当部分をごそりと差し替えることによって、口を拭ってしまうやり方は、およそ学問には似つかわしくない。独裁権力から白か黒かを迫られるとき、身を挺する覚悟でもない限り、とどのつまり政治の従僕に甘んずるしかない。

「ラテン化新文字」運動に与しなかった黎錦熙は、早くも1950年9月に「中国文字改革運動の問題において、スターリンの“マルクス主義と言語学の諸問題”を論ずる」という長文の論文を北京「光明日報」学術特集号で発表し、たとえば以下のように「ラテン化新文字」運動が論じてきた言語の上部構造論を批判した。

「漢字はかつて封建統治階級によって独占され、労働者農民大衆は事実上識字の権利を剥奪されていた。しかし、漢字それ自体が複雑で難しいことは封建統治階級が有利な条件を利用して独占するのに有利で、封建統治階級が文字を独占したことは事実だが、しかしこのことによって漢字がその本質に於いて階級性を有しないという判断をくつがえすことはできない。もし、農民の経済的地位が改変されれば、漢字が複雑で難しくとも学んで身につけることができる。」⁶³

スターリン論文発表2周年を迎えるにあたって書かれた「中国の文字は階級性を有するのか否か、突然変化するか否か？」と題された論文では、「太平天国の農民革命軍もそれ（漢字）を用いて布告をだし、法律を書き、當時としては進歩的意義のある思想を宣伝した。五四運動以後に至ると、毛主席はマルクス・レーニン主義の著作を書き、人民革命の道理を宣伝するのにも、この文字を用いた。このことからわかるように、漢字は封建階

63 鄭林曇「中國文字有没有階級性 會不會突變？」『中國文字為什麼必須改革』、東方書店出版、1953年第3版（1952年第1版）

級のためにのみ奉仕するのではなく、労働者農民人民大衆のためにも奉仕するのである」⁶⁴などと、スターリン論文を一字一句なぞるかのような議論が展開されていた。

1952年、倪海曙が周有光に語ったところによれば、ソ連に行った毛沢東が中国の文字改革を如何にすべきかとスターリンに尋ねたところ、中国は大国であって、自分の字母を持つのがよいと話したという。前でも触れたように、毛沢東は北京に戻ったあと、中国文字改革研究委員会に民族形式のピンイン文字を制定することを指示するとともに、上海新文字研究会は北拉（北方話拉丁化新文字）の普及を停止し、新方案ができるのを待つよう指示した⁶⁵。

1952年2月5日から開催された中国文字改革研究委員会設立大会で、委員会副主任となった吳玉章は、まず文字改革問題に関し、文字が上部構造であって階級性を有するという主張、および民族の特徴と習慣を考慮することなく、漢字をすぐにでもピンイン（拼音、表音）文字と取り替えることができると思っていたことは誤りであったと、次のように明確に自己批判した。

(1) 文字は社会の上部構造であると考え、また文字は階級性を有していると考えていました。2年前、スターリンが「マルクス主義と言語学の諸問題」を発表したあと、私はようやく、それまでの考えがまちがいであったことを、認識するに至りました。私は『新文字与新文化運動』（「新文字と新文化運動」、1949年7月—引用者注）で、次のように述べました。

“文字は文化の道具であり、それはその他の芸術、宗教、文学等々と同様に、人類社会の上部構造です。”

64 同上、4頁

65 上掲『汉语拼音文化津梁』、179頁

この話はまちがっていました。私はマルの本を読むことすらしないで、そのような誤った観点を持っていました。

(2) 民族の特性と慣習を考慮せず、さらにこれを無視しました。漢字は直ちに表音文字に取り替えるように考えていました。それは事実上、現実からかけ離れた幻想でした。中国人は表音式表記の慣習を持っておらず、以前は本を読む人も少なく、反切と音韻学のわかる人はさらに少ないです。漢字はもうすでに悠久の歴史を有し、文化生活においてしっかりとした基礎を有しているので、その改革は漸進的なものでなければならず、また荒っぽく携わってはなりません。」⁶⁶

このように、中国共産党の言語政策担当部署の中核部にいた呉玉章ほどの人物でさえ、マルが書いたものを読みもしないで、その主張を教条的に振りかざしていた現実に鑑みると、マルの「新言語理論」などをまともに読んだ上で議論した人が、いったいどれほどいたのであろうかと疑われる。ただ、マル自身が言語上部構造論についてのまとまった著作を発表しておらず、愛弟子のメシチャニノフによって「新言語理論」が体系化され、彼を取り巻くエピゴーネンたちによって広められていったということからすれば、それも無理からぬことではあっただろう。高木弘（本名は大島義夫、エスペランティスト）は、ブイコフスキーがマルの言語理論を紹介した解説書『マールとその理論』を収録した翻訳書『ソヴェート言語學』で、高木みずからが書いた「言語学の現状とソヴェート言語学」という一文でそのことに触れ、「マールの研究は実証的なものが大部分であって、彼自ら理論を体系的に紹介したことがない。そのことは、彼の立てた理論そのものがまだ本当にまとめられていないことにも基いている。したがって、マールが死ぬ前の年に、彼の仕事の繼承者の一人であるブイコフスキーが述べたこの紹介は、最も適當なものだと思う。これによって、マールの理論

66 中國語文雜誌社編「中國文字拼音化問題」、1頁

の内容、ヤフェティード学の諸達成の輪郭を、われわれ知ることができる。これ以上のことは、「マール選集」の実証的研究を直接にマールの言葉から知るべきであろう⁶⁷と書いている。

吳玉章は完全降服するかのように、きっぱりと自己批判することによって、みそぎを済ませた。そして、1952年の中国文字改革委員会の設立を契機に、「ラテン化新文字」運動は文字改革の方向性から完全に外され、漢字字体の簡略化、「漢語拼音方案」の制定へと突き進んでいった。1954年12月23日には中国文字改革研究委員会を改組し、國務院直属機関である中国文字改革委員会が組織されたが、吳玉章はこの委員会の主任に昇格している。

表面的だけであったにしろソ連一辺倒の時代において、スターリン論文「マルクス主義と言語学の諸問題」が「ラテン化新文字」運動を推進していく人々に与えた衝撃は大きく、言語政策の要職にとどまって生き延びるためにには、自己批判は不可欠なことだっただろう。上記中国文字改革研究委員会の場で、引き続いて吳玉章は、まず漢字の簡易化を進め、現実から遊離して文字改革を行ってはならないとする毛沢東の指示を伝達した⁶⁸。「現実から遊離した文字改革」とは「ラテン化新文字」運動を指していたことは、吳玉章の自己批判の内容と照らし合わせてみても明らかである。こうした経緯をみると、スターリンの言説が金科玉条とされていた当時、スターリン論文「マルクス主義と言語学の諸問題」の発表が「ラテン化新文字」運動に最後のとどめを刺すこととなった。

III-6. 「速成識字法」を通じた人民解放軍における識字運動

中華人民共和国の建国が宣言された1949年ころ、注音字母は初等教育では依然として広く利用されていたが、教科書では採用されず、「注音漢字」の刊行物は全く刊行されていなかったため、注音を十分に利用できず、

67 ブイコフスキイ「ソヴェート言語學」(高木弘訳編)、象徴社、1946年、12頁～13頁

68 上掲『中国语文現代化百年記事(1892-1995)』、155頁

教育の効率が遅々として上昇しなかった⁶⁹。

非識字率が8割を超えるとみられていた当時、識字教育は急務とされていた。中華人民共和国建国（1949年10月1日）直後に開催された中央人民政府教育部第1次全国教育工作会议（1949年12月23日～31日）では、「労農大衆がたやすく文化科学を身に付けることができるようにして、闘争と建設の武器とし、人民民主主義独裁の武器を強化発展させる」ために⁷⁰、1951年から全国的規模での識字運動を開始することが決定された。また、1950年9月20日に開催された第1次全国工農教育会議でも、全国的に識字教育を展開し、識字率を高めることが決められた。

そのような状況のもと、人民解放軍西南軍区政治部教養科目担当教員の祁建華は、1949年から注音字母を利用した「速成識字法」を編み出して、軍隊内での識字教育に大きな成果を上げていたという。その教授法は3段階に分かれ、第1段階は「識字の杖（ステッキ）」（すなわち、注音字母と注音字母の使用法）をマスターする段階で、一日で37の「杖」（字母）を覚え、更に1日半かけて杖の使用法（拼音法、すなわち表音式表記法）を訓練して、2日半で「杖」をマスターさせるというものだった。

第2段階では『注音單字表』を一気にマスターさせるものである。この表には2,368⁷¹の常用される漢字が収録されており、すべての漢字に標準「国音」に基づいた漢字音が注記されている。80時間から100時間の「突撃」によってこれら2,368字のすべてを「占領」させるが、ただし字音と簡単な字義（読める、話せる）だけを「占領」し、字形（書ける）は「占領」しない。

第3段階は教科書や、その他の大衆向けの読み物、新聞雑誌を講読する

69 黎錦熙「論注音字母」「中國文字改革問題」、新建設雜誌社出版、1952年、65頁

70 劉立德他編『新中国扫盲教育史纲』安徽教育出版社、2006年、21頁

71 筆者の手元にある『注音單字本』（中國人民支援軍政治部翻印、1954年）の注音單字表には2,394字収録してあると卷頭の「説明」に記されている。実際には2,408字だが、このことから注音單字表は統一的に確定されたものではなかったようである。

が、この段階では注音字母は用いないようにしていた⁷²。読み物や新聞雑誌講読の段階でも注音字母を用いるべきだと主張する人々がいたが、「速成識字法」を推進する人々は、この主張を受け入れなかつた。このことについて、倪海曙は「漢字改良」、つまり漢字使用の廃絶が目的ではないかと疑わされることを心配したためだとみていた。「ラテン化新文字」運動の最先頭に立っていた倪海曙にとってみれば、このような時代の雰囲気は、漢字を用いらずラテン文字だけで中国語を表記しようとする「ラテン化新文字」運動が封じ込められ、すでに完全に展望を失っていたことを、重苦しく自覚させるものだったといえる⁷³。

本稿では、「常用朝鮮語言手冊」（1952年）で「ラテン化新字母」が用いられなかった歴史的背景を考察してきたが、このような状況では「ラテン化新文字」運動に近づくことすら危険視されかねない圧迫感が漂つていて思われる。

「速成識字法」は軍でも高く評価され、1951年に中共軍事委員会総政治部は「速成識字法」を全軍において広範に普及させるよう通告を出している⁷⁴。

その後、1952年5月15日には、教育部は「各地で“速成識字法”的教育実験工作を展開することに関する通知」を出し、河北省を実験区に確定したのち、引き続いて山西省、東北地方、天津などにも対象地域を拡大して、政府レベルでの展開が図られた。しかし、1952年秋以降の「速成識字法」を用いた識字運動は、一定の成果を収めたとはいえ、識字が非常に簡単なことだと安易に考えたことにより、向こうみずな進め方がなされたと批判されている⁷⁵。それは、150時間に識字学習時間を短縮した「速成識字法」は、学習時間があまりに短く、生半可な学習であるために、一度学んでも

72 黎錦熙「字母与注音论从」文字改革出版社、1958年、51頁～52頁

73 大原信一「中国の識字運動」、東方書店、186～187頁

74 上掲「中國文字改革問題」、65頁

75 中国教育年鑑編輯部編「中国教育年鑑（1949～1981）」、中国大百科全書出版社、1984年、577頁

元の木阿弥になる現象が生じ、信頼しうる効果が得られないという批判だった。

この教授法は要するに、日本語でいえば仮名文字を覚えた後、ルビを振った漢字の音と意味を習得するというもので、戦前の日本では、総ルビの新聞や大衆向け読み物を通じて、日常的に広く実践されていたものである。このことから、多くの日本人は小学校しか卒業していなかったにもかかわらず、高度な文章読解能力を身に付けていた。中国でも国民党政府は注音字母による総ルビを試みたこともあったが、活字の铸造が思うように進まず、そのうち始まった抗日戦争、国共内戦による社会的混乱のはざまで実現し得なかった。

1952年当時、「速成識字法」は軍のみならず社会全体で高く評価されていた。中国文字研究委員会設立大会（1952年2月5日）において郭沫若がおこなった講話でも、「速成識字法」に言及しつつ、「速成識字法」は注音字母が今日においても、いまなお利用できる道具であることを私たちに示した」と、注音字母の有用性について肯定的に語った。このことは、本書を取り上げた『常用朝鮮語言手冊』において注音符号が用いられた背景として、特に注目すべきことだろう。

おわりに

本稿で紹介・分析した小冊子『常用朝鮮語言手冊』は、朝鮮戦争に参戦する、朝鮮語が話せない中国人将兵たちのために編纂されたもので、注音字母、および漢字を用いた直音方式によって、朝鮮語音が2通りに転写されている点において、興味ある文献である。

そして本稿では、『常用朝鮮語言手冊』を全文紹介し、対訳朝鮮語を示した注音符号および漢字による音声表示をIPA及び現行「漢語ピンイン（拼音）方案」に準じて示した。そして、言語面での分析を加え、最後に、この小冊子が、「ラテン化新文字」ではなく注音符号を用いて編纂された歴史

的背景を考察した。

中国漢字音を用いて他言語の音声を転写することは、固有名詞に関しては古代からおこなわれてきたところであるが、今日、中国語は普及しても、みずからの民族語を表記する書写体系が確立していない少数民族言語では、時には、便宜的にその言語全体が漢字を用いて転写されることがある。たとえば、オロチョン（鄂倫春）語の場合、筆者が訪れた黒龍江省黒河市愛輝区新生鄂倫春族郷にあるオロチョン族民族小学校では、IPAに準じたローマ字で書かれたオロチョン語の教科書が用いられているが、内モンゴル自治区ホロンバイル（呼倫貝爾）地方のハイラル（海拉爾）にあるオロチョン族民族小学校では、すべて漢字を用いて音声転写されたオロチョン語の教科書を使用して、教育がおこなわれている（2000年現在）。

『常用朝鮮語言手冊』は、表音文字である注音字母による朝鮮語音の転写では統一性が確保されているが、急いで編集されたこともあるってか、直音方式で用いられた漢字の選択にはばらつきが見られ、漢字を用いた直音方式による体系的な朝鮮語転写法が確立されていたとは、とうてい思われない。現代北京語では入声 /-p, -t, -k/ が用いられないなど、朝鮮語とは音韻構造が異なる中国漢字音を用いて朝鮮語を転写しようとするのは、そもそも非常に無理のあることである。しかし、急に朝鮮半島に派兵されたこととなつた兵士たちに、朝鮮文字を教える余裕などあるはずもなく、注音字母を知らない兵士のために、急場しのぎに漢字を用いた直音方式も採用されたものと思われる。現代語の朝鮮文字は40個の字母からなるが、その正書法と発音法が相当に複雑なために、習得が容易ではないことも、朝鮮文字が用いられなかつた理由であろうと思われる。

中国の朝鮮族は、文革終了後の1977年になって「朝鮮語規範集」を確立させたが、それまでは独自の朝鮮語言語規範を持たず、1950年代末の「漢語大躍進」時代や文革期を除いて、基本的に朝鮮民主主義人民共和国の言語規範に準拠していた。

北朝鮮では、公的には1954年の「朝鮮語綴字法」の成立によって朝鮮語

規範が確立したとされるが、この綴字法の基本的枠組みはすでに1948年の「朝鮮語新綴字法」で固められていた。それ以前は、南北朝鮮とともに、朝鮮語学会が1933年に制定した「ハングル綴字法統一案」に準拠していた。

ちなみに、「朝鮮語新綴字法」は国家レベルの承認を受けたことがなく、また、この綴字法制定において中心的役割を果たした金科奉（キム・ドウボン）は、その後「反党セクト分子」として粛清され、いまだに名誉回復がなされていない。したがって、この「朝鮮語新綴字法」は間に葬り去られたのも同然の状態で、いまだ正当な歴史的評価が与えられていない。このことは、1930年に朝鮮総督府によって制定された「諺文綴字法」についてもいえる。この綴字法は形態主義表記原則を取り入れたもので、朝鮮人だけで構成される民間学術団体であった朝鮮語学会が1933年に制定した「ハングル綴字法統一案」の原型をなすものだったが、「親日派」を排斥する社会的压力のもと、植民地統治機関が制定した綴字法を客観的に評価することをためらわせる抑止力が働き、韓国社会では今も、その客観的評価に疊りがみられる。

本小冊子は、「朝鮮語新綴字法」（1948年）から「朝鮮語綴字法」（1954年）へと移る間の時期に作成されたものであるが、この時期における中国朝鮮族や朝鮮民主主義人民共和国における朝鮮語文献が如何なる綴字法、発音規範、語彙規範、文法規範に基づく表記をしていたかについては、いまだ十分には詳細な検討が加えられていないと思われる。こうした意味からも、本小冊子のような朝鮮語規範に対する意識が明確でない時代に書かれた文献の言語内的分析は、中国や朝鮮民主主義人民共和国での朝鮮語規範確立に至る移行期の様相を明らかにするうえで、それなりに意味のある作業だといえよう。

朝鮮民主主義人民共和国でも、マルの「新言語理論」などソビエト言語学が積極的に導入され、「朝鮮語新綴字法」（1948年）にも影響を及ぼした。朝鮮語文研究会機関誌として1949年4月に創刊された朝鮮語研究雑誌『朝鮮語研究』には、ソビエト言語学の論文が次々と翻訳して掲載されていた。

マルは「言語学理論家になるのは、どうしてそんなに難しいのか」と題した一文で、言語発達の基本的段階を解明するための歴史的類型論研究において、「統辯論—これは言語行為のもっとも本質的な部分である。ちょうど語音論が形態論のための技術にすぎないのと同様、形態論もまた統辯論のための技術にすぎない」と、語音論より形態論、形態論より統辯論の重要性を説いている⁷⁶。「朝鮮語新綴字法」の重要な構成部分をなす「新六字母」の提唱者金科奉は1958年に失脚したが、その後ウォン ウングク（원웅국）は朝鮮語学雑誌『朝鮮語文』1959年3号に掲載された論説「現行綴字法のパッチム（音節末子音字）と音韻に対する簡単な考察」で、「マルの誤った主張を教条的に信奉し、語音論に対する形態論の優位性を押し立て」ながら、「形態部を全く同じ形になるようにするために、音韻体系を人為的に捏造」したと批判した⁷⁷。このように、マルの言語理論の盛衰は、ソビエト言語学の影響下にあった中国でも朝鮮民主主義人民共和国でも、言語研究や言語政策の流れを大きく左右する影響力を及ぼしていた。

本小冊子は注音字母を用いて朝鮮語が転写されているが、本稿では中国共産党関係者たちによって、1930年代から普及運動が展開されていた「ラテン化新文字」が本小冊子で用いられなかった歴史的背景についての考察を行った。新中国建国当時、8割ほどの中国人がいかなる文字も知らず、ラテン文字はなおさら馴染みのないものであったため、ラテン文字を新たに学ばなければならない負担をともなうことが、本小冊子で「ラテン化新文字」が用いられなかった一つの理由であったと考えられるが、更に、当時展開されていた識字運動において、とくに人民解放軍内部で注音字母を用いた中国語の識字運動が高く評価されていたことが、主要な原因の一つであったとみることができる。

しかし、より注目すべきことは、「ラテン化新文字」運動がロシアにおける

76 高永根編『조선어연구 1』、亦樂出版社、2001年、114頁

77 全秀泰『남북한 어문 규범 연구사』、国立国語院、2005年、23頁

る少数民族に対する言語政策の一環として、その産声を上げたことが否定的に認識されていた点である。さらに政治的な側面を指摘するならば、「ラテン化新文字」運動は漢字を用いないで、ラテン文字だけで各地方の方言ごとに書写体系を確立していこうとしていたが、これが国家的統一を破壊する危険な運動に発展しかねないことへの憂慮が、この運動が抑圧された最大の理由であったことである。また、こうした政治的側面とは関係なく、「ラテン化新文字」運動が抱え持っていた限界性は、漢字・漢文が読み書きできない圧倒的多数の民衆の思いが、有識者階級・有閑階級のように自分たちも漢字・漢文を身に付けたく思っていたことにあった。

本小冊子には中国労農紅軍、中国人民解放軍の軍紀「三大紀律・八項注意」が反映されているが、本稿ではこれとは対照的な側面を有する日本軍の軍事用中国語会話集を少し取り上げて論じてみた。朝鮮戦争に参戦した朝鮮人民軍には、国共内戦を戦って中国革命に貢献した多くの朝鮮人将兵が編入されていた一方、韓国国軍には日本軍・日本警察出身者が多く編入されていたため、その軍紀においては、朝鮮戦争はさながら中国共産党軍とかつての日本軍の軍紀のちがいを、民衆が肌で感じ取る様相を呈していたであろうと思われる所以である。反共を国是とする韓国社会では、「抑圧された知」のために、「民族相残（struggling against each other）の悲劇」と形容される朝鮮戦争の渦中で起こったことの真相を、いまだに自由に述べることがためらわれる状況が続いている。一方的な朝鮮人民軍性悪説を克服するためにも、本稿で指摘したような軍紀にかかる側面も、取り上げてみると必要があるように思われる。

日中戦争の際、日本軍や憲兵隊が用いた日本語・中国語対訳会話集には、「暴支膺懲」を行うという、中国人に対する侮蔑的な姿勢が随所に露呈しており、また、明らかに国際法に違反した戦争犯罪である捕虜虐待場面（拷問や「厳重処分」など）が、対話文の形で露骨に描かれてもらいる。

中国共産党の軍隊は国民党軍がアメリカから得ていたような軍事援助もなく、ただひたすらに、農民からの信頼を得ることなしには、農村・山間

部を革命根拠地として抗日戦争、国共内戦を戦うことができなかつた。被抑圧階級を解放するという理念のもと、人民大衆を味方につけるために兵士が道徳的資質を高め、常に人民の側に立つて行動する義務は、「三大紀律・八項注意」という形で表現されていた。そして、朝鮮戦争をたたかつた朝鮮人民軍の中にも中国人民志願軍の中にも、こうした紀律のもとで国共内戦を戦つた朝鮮人将兵が多数加わつていた。

一方、南朝鮮では右翼保守勢力や日本軍や日本の警察上がりの人員をかえ込み、民族主義者や共産主義者が朝鮮半島で朝鮮民族みずからが自主的に国家を建設しようとする動きを、徹底的に弾圧した。

韓国軍や警察は、日本軍や日本の警察内部に蔓延していた、非人道的行動様式を払拭し得ないでいたという指摘が、韓国国内でもなされている。

韓国社会では、朝鮮戦争中に行われた韓国軍による良民虐殺の事実を明らかにすることに対して、いまだに社会的抑制力が強く働いている。このことは、ベトナム戦争で韓国軍が犯した良民虐殺についても同様である。

金東椿（2008：46、52）は「「北朝鮮責任論」という公式の視角を疑つたり批判したりする主張は、不謹慎で危険なものと決めつけてきた」韓国社会の現実を批判し、「朝鮮戦争後、韓国では戦争自体から生じた被害と苦痛、そして北朝鮮の人民軍の南侵による直接的な被害については自由に語ることができたが、米軍と韓国軍が与えた被害には言及することすらできなかつた。たとえ、私的に口に出すことができたとしても、公にすることができなかつたのである。「米軍と韓国軍もひどいことをたくさんした」という戦争中の体験は、長い間、流言飛語としてのみ流布した。それは公然の秘密であった」ことを指摘している。

さらに、金東椿（2008：52、53）はミシェル・フーコーの「従属化された知」という概念を援用し、「朝鮮戦争以後、韓国で右翼の支配が堅牢化すると「従属化された知」は「不穏な思考」とみなされ、隣人や子供たちの口にもできないとてつもない秘密となつた。さらには、被害者すら自身の体験した事実を意識的に否定したり、忘却しようと身もだえした」と論じ

た。反共主義を国是とする韓国社会では、反共主義にそぐわない「知」が抑圧され、真実の究明が抑圧されてきた中で、金東椿はそこに潜む偏向した歴史認識を果敢に暴きだそうとしている。そして、金東椿（2008：60）は、「朝鮮戦争の真実に到達するために、今こそわれわれは「従属化された知」、「圧制された知」を復活させなければならない。過去半世紀以上も沈黙してきた「犠牲者」とその家族が口を開けるようにし、隠してきた傷をあらわにできるにしなければならない。これは朝鮮戦争を再解釈するための出発点なのである」とし、反共保守主義勢力が韓国社会に押し付けていた社会的タブーを打ち破って歴史の真相を明らかにし、言論の自由、学問の自由を獲得するために努めなければならないことを訴えかけている。

一方、韓国における朝鮮戦争に関する「従属化された知」によく似た現象は、日本において「天皇制と帝国主義侵略の歴史が触れる事のできない領域としてみなされてきたことと非常に酷似している。日本の批判的知識人すらもあえて天皇制問題には触れないのが常識」という形でみられると、正鶴を得た指摘を行っている。

韓国社会に蔓延する「抑圧化された知」は、何も朝鮮戦争に限られたことではない。近代日朝関係史において生じたさまざまな問題についても同様で、日本社会、韓国社会双方が抱え持つ「抑圧された知」が、お互いの歴史認識における歩み寄りを阻害している最大の障壁となっている。

韓国軍による良民殺戮行為を不間に付してきたことへの反省は、単に韓国内の問題にとどまらず、朝鮮を植民地支配し、朝鮮民衆を日本の「皇軍」に編入し、その後、韓国軍草創期の軍隊内文化に日本軍の文化が多大な影響を及ぼした歴史と無関係ではありえないことに、留意しなければならない。

朝鮮戦争中に起こった惨劇を洗いなおす作業は、主に歴史家たちの仕事であろうが、本稿で取り上げた小さな軍事用対訳会話・語彙集に関し、言語の分析を行うことはもちろんのことであるが、その成立背景や、会話文にみられる軍事紀律のありように対しても関心が向いてしまったのも、こ

うした資料を扱う際にはやむを得ないこともあろうと言い訳をして、本稿終わりの言葉としたい。

参考文献

- 「中國話寫法拉丁化—理論・原則・方案一」、(上海)中文拉丁化研究会出版（中国）、1935年
張緜非「土語拉丁化批判」、抗戰出版社（中国）、1938年
杉武夫編著「現地攜行支那語軍用會話」、外語學院出版部、1940年
「中國文字拉丁化文獻」、拉丁化出版社（中国）、1940年
カールグレン「支那言語學概論」（再版）、文求道書店、1940年
魚返善雄「支那語注音符號の發音」、帝國書院、1944年
ブイコフスキイ「ソヴェート言語學」（高木弘訳編）、象徵社、1946年
メシチャニノフ「“新言語理論”發展의 現段階」（金壽卿訳。原著は1948年にレニン
グラーード国立大学にて刊行）「조선어 연구」第1卷第2号、朝鮮語文研究会（朝鮮
民主主義人民共和国）、1949年
吳玉章「新文字與新文化運動」、華北大学出版（中国）、1949年
倪海曙「拉丁化新文字概論」、時代出版社（中国）、1949年
朝鮮民主主義人民共和国朝鮮語文研究会「朝鮮語文法」（朝鮮民主主義人民共和国）、
1949年（1950年11月に延辯教育出版社にて復刻）
杜子勁編「一九四九年中國文字改革論文集」、大衆書店、1950年
張芷「論中國文字改革的統一戰線」初版、東方書店（中国）、1950年7月
John De Francis '*Nationalism and Language Reform in China*'. Princeton University
Press, 1950
倪海曙「中国拼音文字运动史简编」、時代出版社（中国）、1950年（再版。初版は1948
年）
黎錦熙「論注音字母」「中國文字改革問題」、新建設雜誌社出版（中国）、1952年
鄭林曇「中國文字為什麼必須改革」、東方書店出版（中国）、1953年3版（1952年第1
版）
張芷「條條道路通向拼音文字」修訂2版、東方書店（中国）、1953年1月
中國語文雜誌社編「中國文字拼音化問題」、中華書局股份有限公司（中国）、1954年
鄭林曇等編「中國文字改革問題」、新建設雜誌社（中国）、1954年
謝爾久琴柯（セルデュチエンコ）「关于創立民族文字和建立標準語的問題」、民族出版
社（中国）、1956年
毛沢東「文芸講話」、岩波書店（岩波文庫）、1956年
黎錦熙「文字改革论从」、文字改革出版社（中国）、1957年

- アグネス・スマドレー「中国の歌ごえ」、みすず書房、1957年
- さねとう・けいしゅう（実藤恵秀）「中国の文字改革」、くろしお出版、1958年
- 黎錦熙「字母与注音论丛」、文字改革出版社（中国）、1958年
- 「中国の文字改革」、外文出版社（中国）、1958年
- 鄭林曇「汉字改革」、上海教育出版社（中国）、1959年
- ガンサー・スタイン「延安 一九四四年」、みすず書房、1962年
- 瞿秋白「言わずもがなのこと」（原題：『多余的話』）「中国現代文学選集17」、平凡社、1963年
- 瞿秋白「革命のモスクワへ」（原題：『俄郷紀程』）「中国現代文学選集3」、平凡社、1963年
- 楊之華「回想の瞿秋白」（原題：『憶秋白』）「中国現代文学選集17」、平凡社、1963年
- 曹靖華「羅漢嶺前に秋白を弔う」「中国現代文学選集17」、平凡社、1963
- 家永三郎「太平洋戦争」、岩波書店、1968年
- 日本国際問題研究所中国部会編「中国共産党史資料集 第5巻」、勁草書房、1972年
- エドガー・スノー「中国の赤い星—増補改訂版—」（エドガー・スノー著作集第2巻）、筑摩書房、1972年
- エドガー・スノー「アジアの戦争」、筑摩書房、1973年
- 「魯迅選集」（第5版）第11巻、岩波書店、1973年
- ピヨートル・ウラジミロフ「延安日記 上」、サイマル出版社、1973年
- 大原信一「中国の「國語羅馬字」と「拉丁化新文字」にかんする覚え書」「同志社大学外国文学研究」第6号、同志社大学外国文学会、1973年
- 川上久寿「ソ連における瞿秋白」「人文研究」52号、小樽商科大学、1976年
- 果洪升主編「中国与前苏联民族問題対比研究」、中央民族大学出版社（中国）、1997年
- 橋本萬太郎「文字と言語研究資料3 ラテン化新文字—資料編—」、東京外国语大学 AA研、1978年
- 金炳済「방언사전」科学、百科事典出版社（朝鮮民主主義人民共和国）、1980年
- 菊池昌典「トロツキー」、講談社、1981年
- 人民文学出版社《新文学史料》編輯組「新文学史料」1982年第4期（総第17期）、人民文学出版社（中国）、1982年
- 中国教育年鑑編輯部編「中国教育年鑑（1949～1981）」、中国大百科全書出版社、1984年
- 《文字改革》雑誌編輯部編「建国以来文字改革工作編年记事」、文字改革出版社（中国）、1985年
- 朝日新聞山形支局「聞き書き ある憲兵の記録」、朝日新聞社、1985年
- 金泰均「咸北方言辞典」、京畿大学出版局（韓国）、1986年
- 倪海曙編「拉丁化新文字运动的始末和编年纪事」、知識出版社（中国）、1987年

中国人民志願軍編「常用朝鮮語言手冊」とその成立背景

- 中共四川省委党史工作委員會《吳玉章傳》編寫組「吳玉章文集」（上・下）、重慶出版社（中國）、1987年
- 平松茂雄「中国と朝鮮戦争」、勁草書房、1988年
- ニコラス・ボッペ「ニコラス・ボッペ回想録」、三一書房、1990年
- 崔鶴根「增補韓國方言辭典」、明文堂（韓國）、1990年
- 周永祥「瞿秋白年譜新編」、學林出版社（中國）、1992年
- 中共中央文献研究室編「建國以來重要文獻選編（第一冊）」、中央文獻出版社（中國）、1992年
- 梅田博之「延辺朝鮮語の音韻」「言語文化接觸に関する研究」第6号、東京外国语大学アジア・アフリカ言語文化研究所、1993年
- 姚守中他編「瞿秋白年年譜長編」、江蘇人民出版社、1993年
- 栗洪武「陝甘寧辺区新文字教育運動編年紀事」、陝西師範大學出版社（中國）、1994年
- 北京大学「中国朝鮮族文化史大系 语言史」、民族出版社（中國）、1995年
- 若林満他「中国識字教育の歴史的経験と今後の展望」「名古屋大學教育學部紀要。教育心理学科」第42巻、名古屋大学教育学部、1995年
- 延辺朝鮮族自治州地方誌編纂委員会編「延辺朝鮮族自治州志 上巻」、中華書店（中國）、1996年
- 권승모他「주체의 조선어 학발전 50년」、平壤出版社（朝鮮民主主義人民共和国）、1996年
- 費錦昌主編「中国语文现代化百年记事（1892-1995）」、語文出版社（中國）、1997年
- 大原信一「中国の識字運動」、東方書店、1997年
- 張問漁・伝瑜「吳玉童年譜」（中共四川省委党史研究室組織編寫）、四川人民出版社（中國）、1998年
- 瀬島龍三「大東亜戦争の実相」、PHP研究所、1998年
- 田中克彦「「スターリン言語学」精読」、岩波書店、2000年
- 高永根編「조선어연구 1」、亦樂出版社（韓國）、2001年
- 崔明玉他「함북 북부지역어 연구」、太学社（韓國）、2002年
- 周有光「中国语文的时代演进」、National East Asian Language Resource Center, The Ohio University、2003年
- 藤井（宮西）久美子「近現代中国における言語政策」、三元社、2003年
- Lenore A. Grenoble 'Language Policy in the Soviet Union' KLUWER ACADEMIC PUBLISHERS、2003年
- 蔡玉子「中國延邊地域 朝鮮語の 音韻研究」、太学社（韓國）、2005年
- 金秀泰「남북한 어문 규범 연구사」、国立国語院（韓國）、2005年
- 中村雅之「ラテン化新文字は山東方言か」「KOTONOHA」第48号、古代文字資料館〔愛知県立大学〕、2006年

- 藤原彰『天皇の軍隊と日中戦争』、大月書店、2006年
- 劉立德他編『新中国扫盲教育史綱』安徽教育出版社（中国）、2006年
- 荒井幸康『「言語」の統合と分離 1920-1940年代のモンゴル・ブリヤート・カルムイクの言語政策の相関関係を中心に』、三元社、2006年
- 宮下尚子『言語接触と中国朝鮮語の成立』、九州大学出版会、2007年
- 林宝卿『普通话闽南方言常用词典』、厦门大学出版社（中国）、2007年
- 中国朝鮮語査定委員会編『조선말규범집』、延辺人民出版社（中国）、2007年
- 周有光『汉语拼音文化津梁』、新華書店（中国）、2007年
- ミシェル・フーコー『社会は防衛しなければならない コレージュ・ド・フランス講義 1975-1976年度』、筑摩書房、2007年
- 加々美光行『中国的民族問題』、岩波書店、2008年
- 金東椿『朝鮮戦争の社会史 避難・占領・虐殺』、平凡社、2008年
- 青覚・栗文献『苏联民族政策の多維持审视』、中央民族大学出版社（中国）、2009年
- 高麗大学民族文化研究院編『고려대 한국어 대사전』、高麗大学民族文化研究院（韓国）、2009年
- Kim Potowski 'Language Diversity in the USA' Cambridge University Press、2010年
- 黎錦熙『国語運動史綱』、商務印書館（中国）、2011年
- テリー・マーチン『アファーマティヴ・アクションの帝国—ソ連の民族とナショナリズム 1923年～1939年』、明石書店、2011年
- 蘭曉霞「중국 북방언권 학생들의 조선어종성 발음교육을 위한 오류분석 연구」
『중국조선어문』2012年1号（累計177号）、中国朝鮮語文雜誌社（中国）、2012年
- 金永寿『中国朝鮮語規範原則与規範細則研究』、人民出版社（中国）、2012年
- ブルース・カミングス『朝鮮戦争の起源2』、明石書店、2012年